クボタトラクタ

取扱説明書

GB 160 180 200

F-12334A

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために，操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

火気厳禁

燃料(残量)

ディーゼル軽油

グロー

バッテリ充電異常

エンジンオイル

水温計

エンジン回転計

ホーン

方向指示器表示

ヘッドライト

アクセル高

アクセル低

オイルゲージ

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法，簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され，お買上げの製品が優れた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになった後必ず大切に保存し，分からないことがあったときには取出してお読みください。なお，製品の仕様変更などにより，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

6A600-6251-5

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **危険**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ **警告**： 注意事項を守らないと，死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**： 注意事項を守らないと，けがを負うおそれのあるものを示します。

重要： 注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足： その他，使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では，仕様の異なる製品を下記のように表示していますので，お買上げの製品の仕様をお確めのうえ，お間違いのないようお願いいたします。
なお，説明はGB200を基本とし，GB200と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

1. エンジン出力(PS)によって …… **GB160，GB180，GB200**
2. ミッション形式によって
   油圧無段変速トランスミッション付き …… **グライドシフト(F)仕様**
   マニュアルトランスミッション付き …… **マニュアルシフト仕様**
3. モンロ・オート付き …… **MA仕様**
4. 標準３点リンク・けん引ヒッチ付き …… **P仕様**
5. ターフタイヤ(倍速ターン及び逆転PTO無し) … **T仕様**
6. リミテッド(メカポンパ付き) …… **L仕様**

トラクタを安全にしかも上手にご使用していただくために，この取扱説明書は次の手順で構成されていますので，基本操作から保守点検まで順番に理解習得してください。

まずは安全確保をしましょう

1．**⚠安全作業をするために：**安全作業をするために必ず守るべき基本的注意事項，警告・注意ラベルの機械への貼付け位置と，守るべき警告・注意事項を解説していますので，熟読のうえ理解し，必ず守ってください。

動かす前に実施しましょう

2．**確認と手続き：**

(1)ご相談の際に必要な製品名称と機械番号の打刻位置を確認しておいてください。

(2)小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の交付を受けてください。

(3)各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

動かす前に機械の健康診断をしましょう

3．**運転前の点検：**作業中のトラブル防止のため，作業前の点検内容を理解し必ず実施してください。

最初にトラクタの安全運転のための基本操作を体得しましょう

4．**トラクタの運転：**

(1)正しいエンジンの始動と停止手順を体得してください。

(2)安全にトラクタを前進・後退・停車させる基本操作を体得してください。

(3)倍速ターン，デフロックの正しい取扱い方を体得してください。

(4)トラックへの安全な積み・降ろし，ほ場への出入時の注意，および旋回方法等を理解し，必ず守ってください。

トラクタの性能を最大に発揮させるため各装置の基本操作を体得しましょう

5．**上手な装置の使いかた：**

(1)油圧，三点リンク，ＰＴＯの正しい取扱いと調整方法を体得してください。

(2)モンローマチック・オートの正しい取扱いと輪距の調整方法を体得してください。

よく働いた機械をいたわりましょう

6．**メンテナンス：**機械を長持ちさせるために，シーズン前後・長期格納時のメンテナンス・定期点検の要領を理解・実施し，来シーズンに備えてください。

目　次

⚠安全に作業するために　… ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
補修用部品の供給年限について …… 1

小型特殊自動車としての取扱い …… 2
小型特殊自動車取得の届出と
標識(ナンバープレート)の取付け … 2
運転免許 …… 2
損害賠償保険について …… 2

運転に必要な各部の名称 …… 3

運転前の点検 …… 5

エンジンの始動と停止 …… 6
始動のしかた …… 6
停止のしかた …… 9
寒冷時の暖機運転 …… 10
バッテリあがりの処置 …… 10

トラクタの運転 …… 11
ならし運転(最初の約50時間) …… 11
運転席回りの調節 …… 11
シート …… 11
安全フレームと
シートベルトについて …… 12
バックミラー …… 13
灯火類の操作 …… 13
コンビネーションスイッチ …… 13
発進・走行 …… 14
1. ブレーキペダルの確認 …… 14
2. 油圧レバーを“後方に引き”
作業機を上げます。 …… 14
3. クラッチペダルを踏込みます。 …… 14
4. 作業に応じ必要なレバー類を
操作します。 …… 15

【マニュアルシフト仕様】
5. 走行速度を選択します。 …… 16
6. エンジンを加速します。 …… 16
7. 駐車ブレーキを解除します。 …… 17
8. クラッチペダルをゆっくり
離し発進します。 …… 17

【グライドシフト(F)仕様】
5. 副変速レバーを“低・中”又は
“高”に入れます。 …… 17
6. エンジンを加速します。 …… 18
7. 駐車ブレーキを解除します。 …… 18
8. クラッチペダルをゆっくり
離します。 …… 18
9. 主変速(グライドシフト)レバーを
ゆっくり操作し発進します。 …… 19
停車・駐車 …… 19
1. アクセルレバーを前方に押して，
エンジン回転をアイドリング状態
にします。 …… 19
2. クラッチ及びブレーキペダルを
“踏込み”ます。 …… 19
3. 完全に停止してから，主変速，
副変速及びPTO変速レバーを
“中立”(N)にします。 …… 19
4. 作業機を取付けている場合は，油圧
レバー(ポジションコントロール)を
ゆっくり“前方に倒し”作業機を下げ
ます。 …… 19
5. 駐車ブレーキを確実に“ロック”して
ください。 …… 20
6. キースイッチを“切”にして，
エンジンを停止します。 …… 20
運転中の作動確認 …… 20
次の場合には，直ちにエンジンを
止めてください。 …… 20
イージーチェッカ …… 20
燃料計 …… 21
水温計 …… 21
トラクタメータ …… 21
デフロックの使い方 …… 22
デフロックペダル …… 22

旋回のしかた …… 22
坂道での運転 …… 22
ほ場への出入り時の注意 …… 23
道路走行中の注意 …… 23
トラックへの積み・降ろし …… 24
パワーステアリングの取扱い …… 24
外部電源取出端子 …… 24
作業灯用カプラ …… 24

油圧・三点リンク・PTO …… 25
油圧 …… 25
油圧(ポジションコントロール)
レバー …… 25
レバーストッパ(下降側)の使い方 …… 25
レバーストッパ(上昇側)の使い方 …… 25
メカポンパレバー**【L仕様】** …… 25
ロックレバー**【L仕様】** …… 26
作業機落下速度の調整 …… 26
三点リンク …… 27
1. インプルメント取付け前の準備 …… 28
ロアーリンク取付け穴の選択 …… 28
2. 作業機の着脱 …… 28
トップリンクの調整 …… 28
リフトロッドの調整 …… 28
チェックチェーン …… 29
作業機を取付けないときの注意 …… 29
けん引ヒッチ
(標準三点リンク(P)仕様以外は別売) … 29
PTO …… 30
PTO変速レバー …… 30
PTO軸キャップ・PTO軸カバー …… 30

モンローマチックオート【MA仕様】 …… 31
モンローマチックの取扱い …… 31
各部の名称 …… 31
水平切換スイッチ …… 32
角度調節ダイヤル …… 33
手動スイッチ …… 33
故障・異常の表示 …… 33
メカオートの取扱い …… 34
オート耕深レバー …… 34
ロータリ着脱時の注意 …… 34

タイヤ・ウエイト …… 35
タイヤ …… 35
タイヤの空気圧 …… 35
輪距の調整**【T仕様以外】** …… 35
前輪 …… 35
後輪 …… 35
ウエイト …… 36
ウエイト(オプション) …… 36

トラクタの簡単な手入れと処置 …… 37
廃油処理について …… 37
定期点検箇所一覧表 …… 37
給油(水)一覧表 …… 38
トラクタの給油(水) …… 38
推奨オイル・グリース一覧表 …… 39
エンジンオイル・ミッションオイル … 39
グリース …… 39
ボンネットの開閉及び
サイドカバーの外し方 …… 40
ボンネットの開閉 …… 40
フロントグリル及びサイドカバーの
外し方 …… 40
日常点検 …… 40
1. 前日の異常箇所 …… 41
2. トラクタの回りを歩いて …… 41
エンジンオイルの量及び汚れ …… 41
ミッションオイルの量及び汚れ …… 41
冷却水の量 …… 42
バキュエータバルブの清掃 …… 42
燃料フィルタの水、沈殿物の点検 … 42
タイヤの空気圧、及び摩耗、損傷 … 43
防虫網の清掃 …… 43
3. 運転席に座って …… 44
ブレーキペダルの遊び・点検 …… 44
駐車ブレーキの作動点検 …… 44
クラッチペダルの遊び・点検 …… 44
4. エンジンを始動して …… 45
メータ・ランプ類の作動 …… 45
5. 燃料の補給 …… 45
50時間ごとの点検・整備 …… 46
グリースの注入 …… 46
エンジン始動システムの点検 …… 46
倍速ターン高速けん制装置の点検 …… 47
タイヤ取付けボルトの点検 …… 47

ワイヤハーネス、バッテリ⊕コードの
点検・交換 …… 47
クラッチハウジングの水抜き …… 48
パワーステアリングホースの点検
【マニュアルシフト仕様】 …… 48
燃料パイプの点検 …… 48
100時間ごとの点検・整備 …… 49
エンジンオイルの交換 …… 49
バッテリ電解液の点検 …… 49
エアクリーナエレメントの清掃 …… 51
ファンベルトの点検・調整 …… 51
クラッチペダルの点検・調整 …… 52
ブレーキペダルの点検・調整 …… 52
200時間ごとの点検・整備 …… 53
エンジンオイルフィルタカートリッジ
の交換 …… 53
油圧オイルフィルタカートリッジの
交換 …… 53
油圧ミッションオイルフィルタ
カートリッジの交換
【グライドシフト(F)仕様】 …… 53
トーイン調整・タイロッドの点検 …… 54
ラジエータホースの点検 …… 54
300時間ごとの点検・整備 …… 55
ミッションオイルの交換 …… 55
フロントギヤーケースオイルの交換 … 55
前車軸ケースオイルの交換 …… 56
400時間ごとの点検・整備 …… 56
燃料フィルタエレメントの清掃交換 … 56
600時間ごとの点検・整備 …… 57
前部デフケース前後遊びの調整 …… 57
800時間ごとの点検・整備 …… 57
エンジンバルブクリアランスの点検 … 57
１年ごとの点検・整備 …… 57
エアクリーナエレメントの交換 …… 57
２年ごとの点検・整備 …… 57
冷却水の交換 …… 57
ラジエータの洗浄 …… 58
ラジエータホースの交換 …… 58
燃料パイプの交換 …… 58
パワーステアリングホースの交換
【マニュアルシフト仕様】 …… 58
モンローシリンダホースの交換
【MA仕様】 …… 58
必要に応じた点検・整備 …… 59
燃料の空気抜きのしかた …… 59
ヒューズの交換 …… 59
スローブローヒューズの交換 …… 59
ランプ類の交換 …… 59

格納 …… 60
長期格納時の手入れ …… 60

不調と処置 …… 61
エンジンの不調と処置 …… 61

付表 …… 62
主要諸元 …… 62
トラクタの主要諸元 …… 62
走行速度表 …… 63
PTO回転速度表 …… 63
標準付属品 …… 63
アタッチメント一覧表 …… 64
インプルメント一覧表 …… 65
主な消耗部品一覧表 …… 66

作業ごとの一般的な調整要領 …… 68

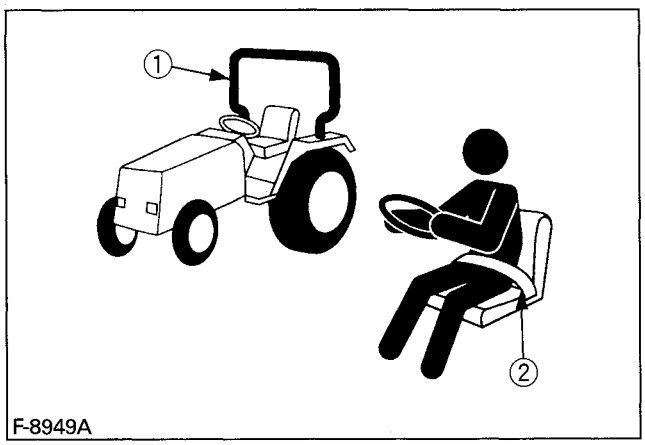
⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

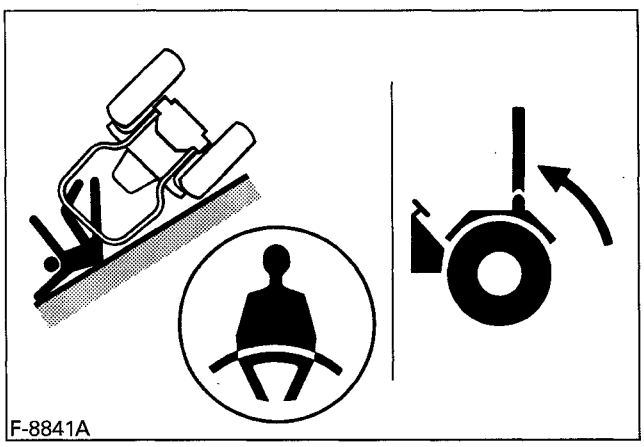
1．安全フレームについて

安全フレームは，万一トラクタが転倒したとき事故の被害を軽減するものであって，転倒事故を防止するものではありません。
注意事項を守って，安全運転を心がけてください。

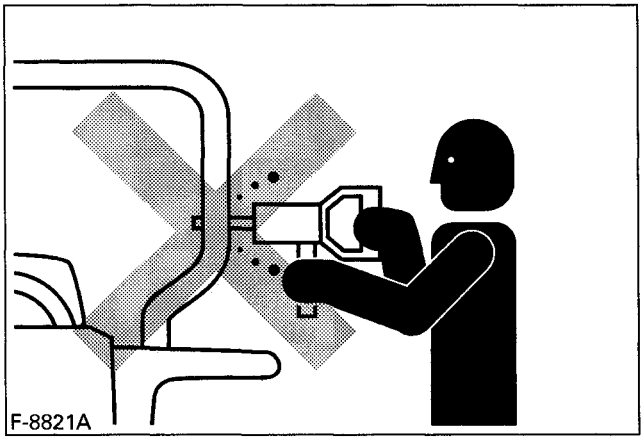


①安全フレーム
②シートベルト

(1)運転時は安全フレームとシートベルトを常に使用するようにしてください。
(2)安全フレームを取外して運転しないでください。
(3)納屋の出入り等，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，確実にロックして使ってください。
安全フレームを折りたたんだ状態では，万一トラクタが転倒したとき，安全フレームの役目をしません。
(4)安全フレームを立てたときは，運転時シートベルトを常に使用してください。折りたたんだ状態では，シートベルトを使用しないでください。
(5)安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で，必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを停止し，駐車ブレーキをかけてから行なってください。



(6)安全フレームを改造しないでください。又，強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。



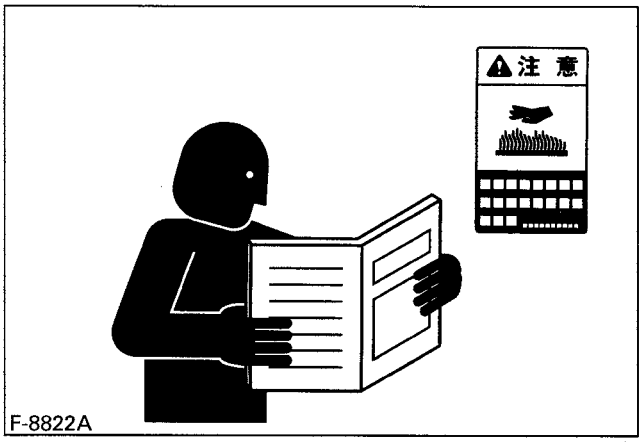
⚠ 安全に作業するために

2．運転前に

(1)トラクタを動かす前に，トラクタ及び装着している作業機の取扱説明書と機械に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み，理解した上で運転してください。

(2)トラクタ，作業機を他人に貸すとき，又，運転させるときは，事前に運転のしかたを教え，本書を読ませてください。

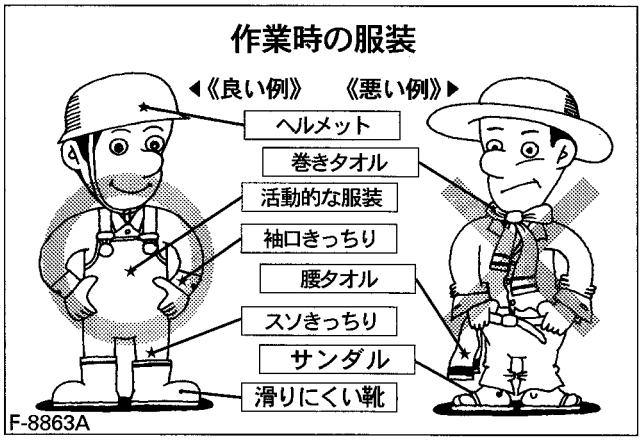
(3)本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



F-8822A

(4)飲酒時や体調が悪いとき，病気や妊娠しているときは，トラクタを運転しないでください。

(5)ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
回転部分や操縦装置にひっかかり事故の原因になります。
安全のため，ヘルメット，安全靴，保護めがねや手袋などを必要に応じ使ってください。



F-8863A

(6)トラクタを改造しないでください。改造すると，トラクタの機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながります。

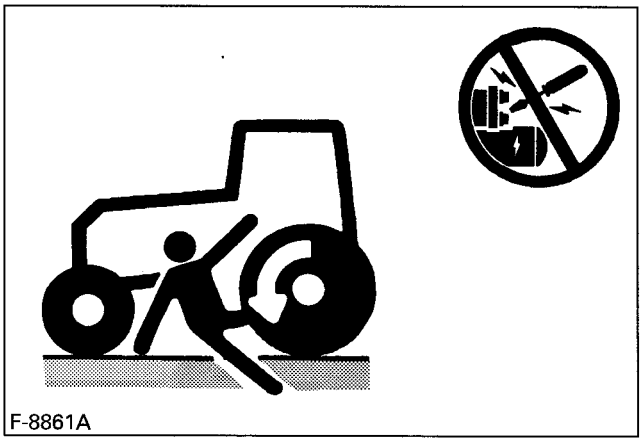
(7)安全カバー類を外した状態でトラクタ，作業機を使用しないでください。
紛失したり損傷した部品は交換してください。
ブレーキ，クラッチ，ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない摩耗や損傷している部品があれば，交換してください。
又，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。(詳細は**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の章参照)

(8)トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると火災の原因になります。

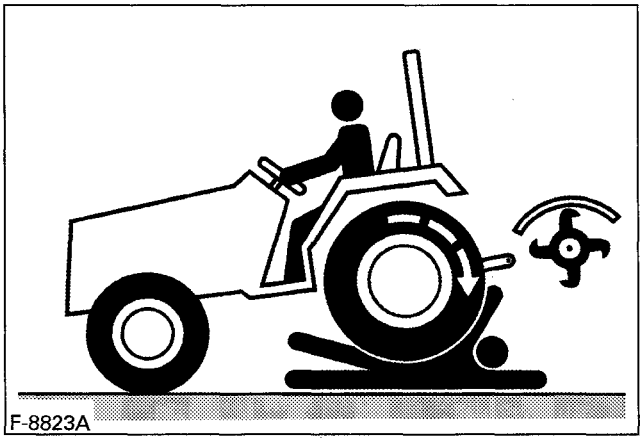
3．始動時に

(1)エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速やＰＴＯ変速レバーが**“中立”**かどうか，又，駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。

(2)地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
トラクタが突然動き出すおそれがあります。

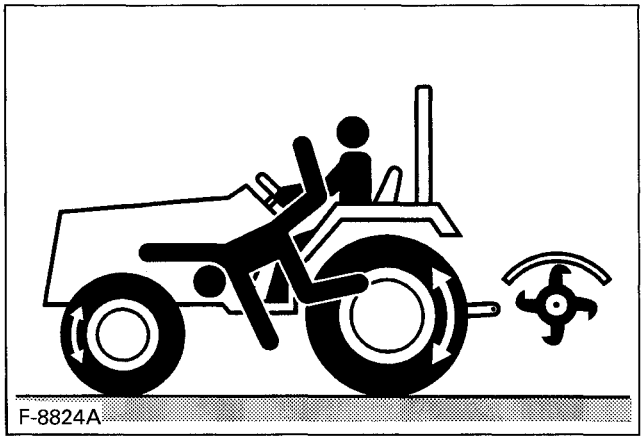

F-8861A

(3)トラクタを始動，運転するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。もし変速ギヤーが入っていると車体が動いたりロータリが回転したりして事故になるおそれがあります。又，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。

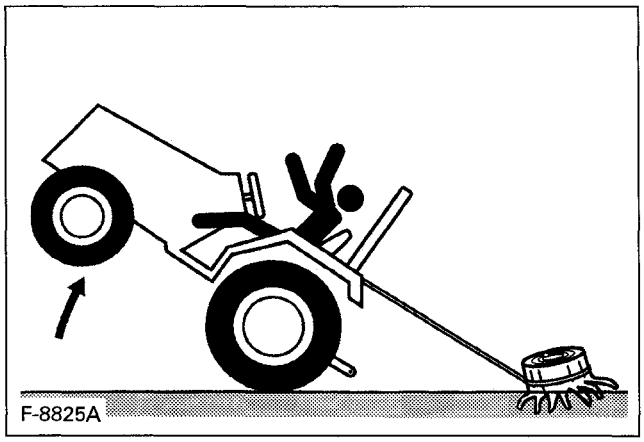

F-8823A

4．運転時に

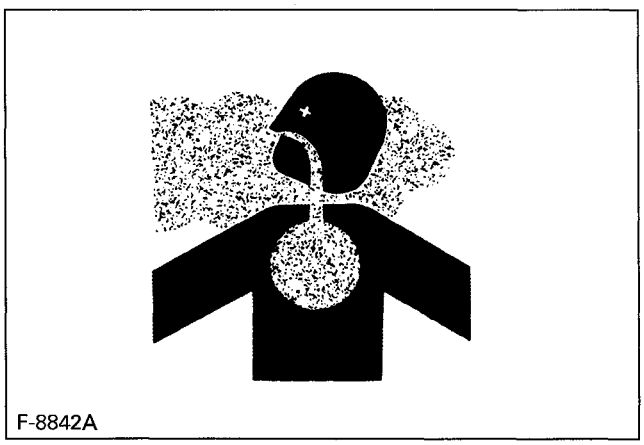
(1)子供はもちろん運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。
又，必ずシートに座って運転してください。


F-8824A

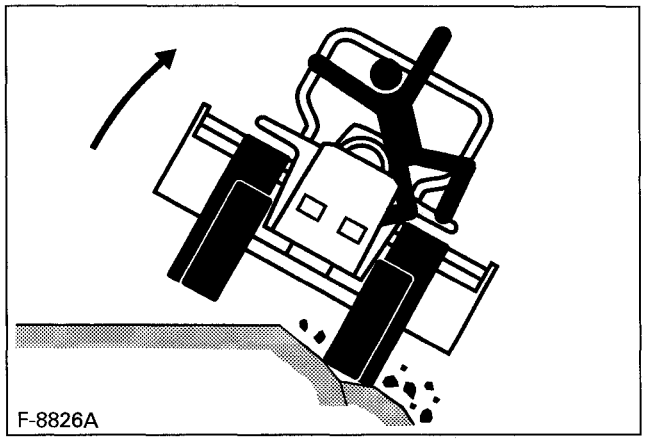
(2)けん引作業には，けん引ヒッチ(別売)を用い，絶対に車軸やトップリンクブラケットなどで引張らないでください。
トラクタの破損や転覆の原因となります。


F-8825A

(3)換気が不十分な所では，暖機運転や作業はしないでください。
排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

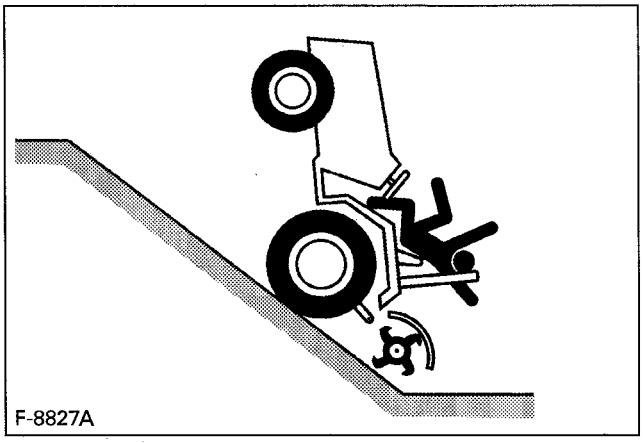

F-8842A

(4)溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
また，草の繁ったところや水たまりなどには，隠れて見えない窪地がある場合があり，トラクタが落ち込むと転倒することがあります。そういう所は必ずトラクタから降りて確認してください。


F-8826A

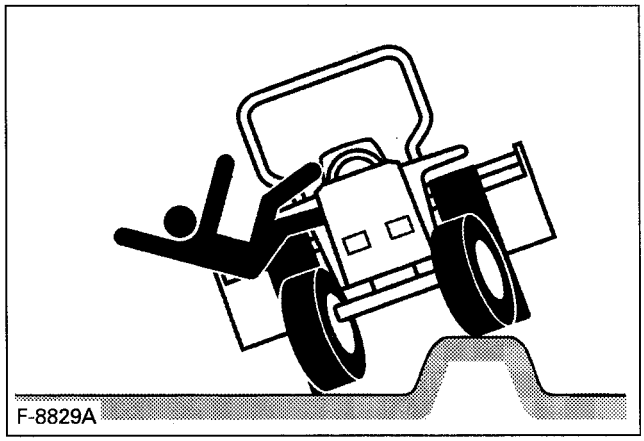
⚠ 安全に作業するために

(5)溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり，急な坂を前進で登るとトラクタが後方に転覆する危険があります。このような所では，バックで運転してください。

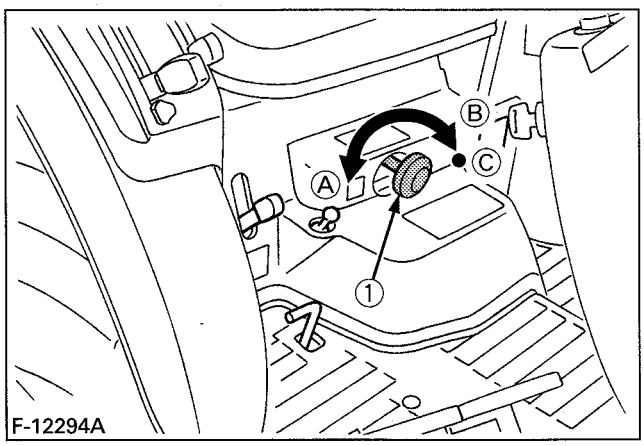


(6)共同で作業をするときは，声をかけあって，お互いにしようとしていることを知らせてください。

(7)ほ場の出入りなどで，急傾斜の上り降りや溝越えは，低速にして直角に進行してください。その際，必ず左右のブレーキペダルを連結し，デフロックの解除を確認してください。

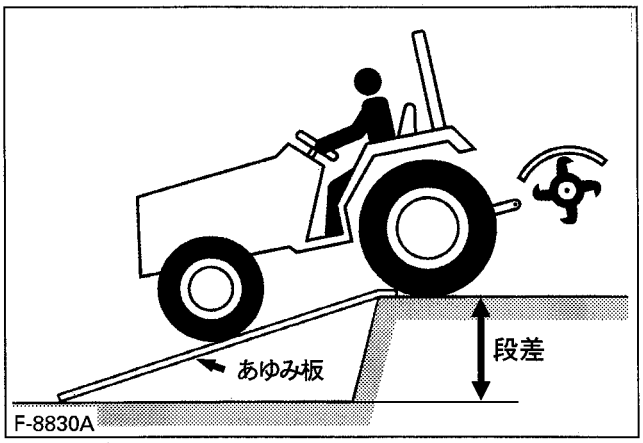


(8)ほ場外では，油圧ロックをして作業機の落下を防止してください。



①落下速度調整グリップ　Ⓐ“速い”
Ⓑ“遅い”
Ⓒ“停止”

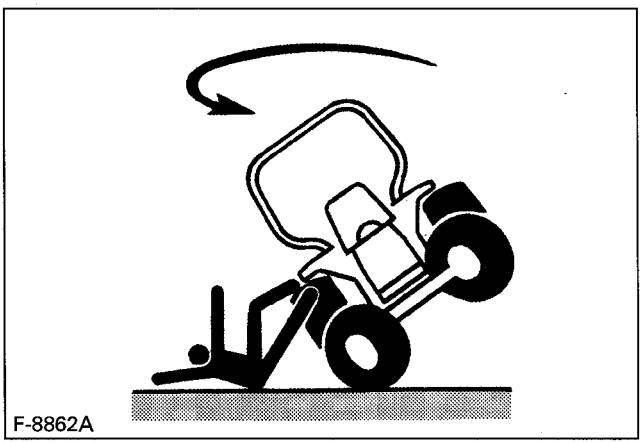
(9)ほ場の出入りなどで，高低差の大きい急傾斜の登り降りや，溝越えが必要な場合，あゆみ板を使用し，確実に固定してから低速で行なってください。



あゆみ板は段差の４倍以上の長さのものを使用してください。

(10)急な坂道・車両への積込み積降ろし・ほ場への出入り・畦の乗越えなどでは途中で変速すると危険ですので，あらかじめ安全な遅い変速位置に入れて運転してください。

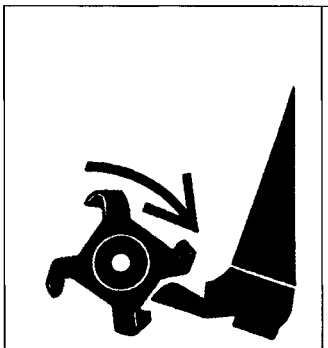
(11)倍速ターンはほ場以外では**“切り”**にし，使用しないでください。又，高速では倍速ターンを使用しないでください。

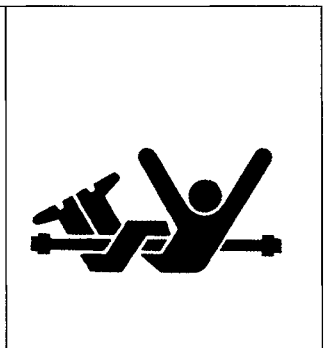


5．作業機使用時に

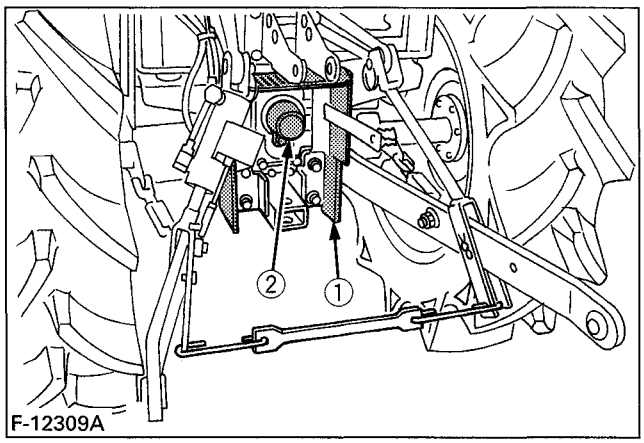
(1)作業機の着脱は，平坦で安全な場所で行なってください。

(2)トラクタから降りるときや，ロータリなどＰＴＯ作業機の装着・取外し・調整・掃除又は修理をするときは，作業機が完全に止まるまで待ってください。


F-8844A


F-8845A

(3)ＰＴＯを使用しないときは，ＰＴＯ軸キャップを装着しておいてください。



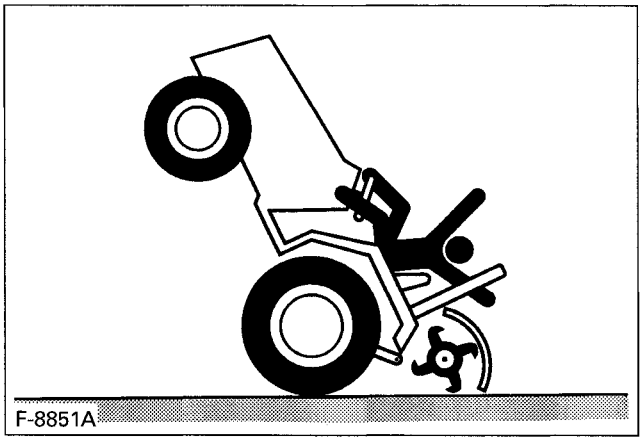
F-12309A

①PTO軸カバー
②PTO軸キャップ

(4)ＰＴＯ軸カバーは常に取付けておいてください。

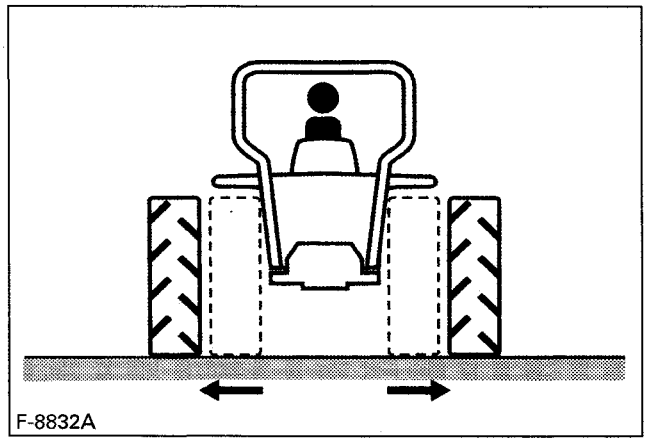
(5)ＰＴＯ作業機は，その作業機で定められたＰＴＯ回転以上で使用しないでください。
機械の破損や人身事故のおそれがあります。

(6)トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪(前輪)にかかる荷重が総重量の20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
前部が軽くなりすぎると，操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります。


F-8851A

(7)作業機はトラクタに推奨されているものを使用してください。
大きすぎたり，小さすぎたりしてバランスの悪い作業機は機械の破損や人身事故にもつながります。
詳細は購入先にご相談ください。

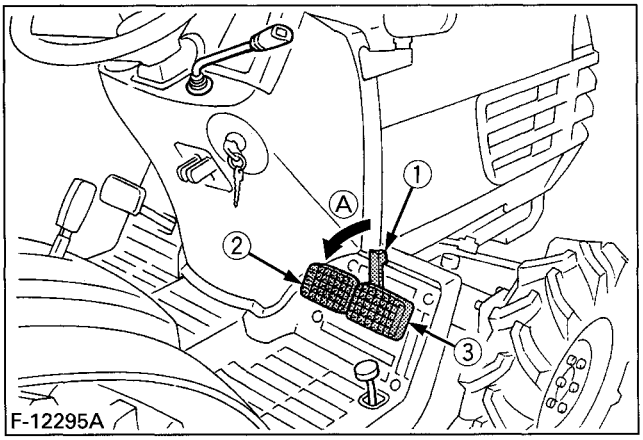
(8)傾斜地作業，フロントローダ作業などでは，安定を良くするために，支障のない範囲で輪距(タイヤ中心間の距離)を大きくしてください。


F-8832A

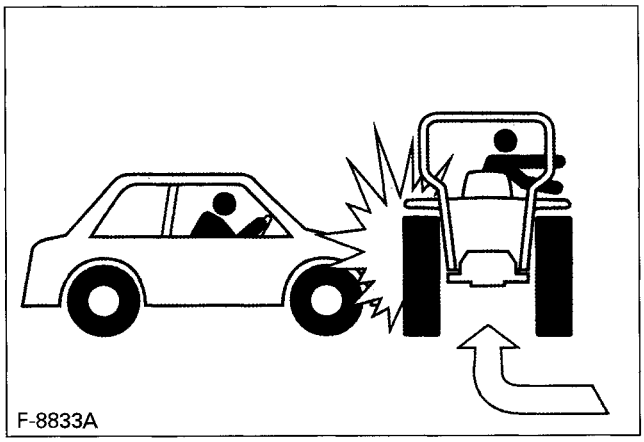
⚠ 安全に作業するために

6．道路走行時に

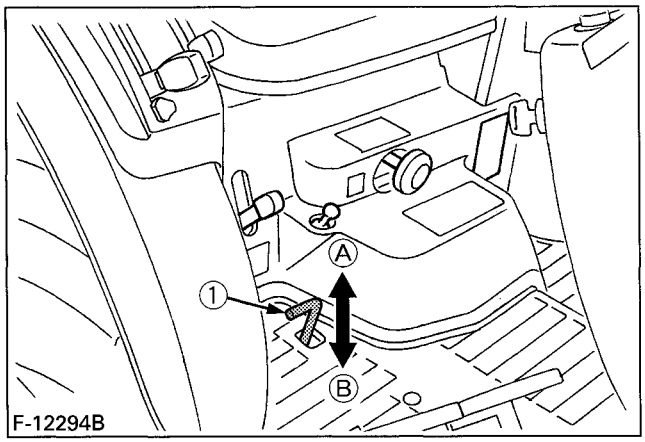
(1)道路走行時は，左右のブレーキペダルを連結してください。
高速走行で誤って片ブレーキをかけるとトラクタが振られ転倒や交通事故のおそれがあります。



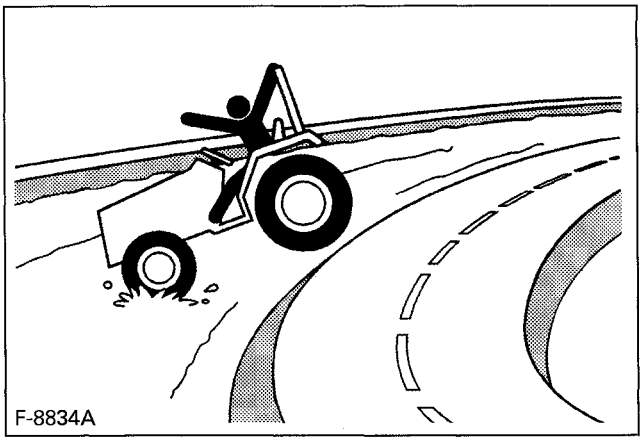
①連結金具
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)
Ⓐ“道路走行時は必ずかける”



(2)道路走行時は絶対にデフロックを使用しないでください。
ハンドル操作が出来なくなります。

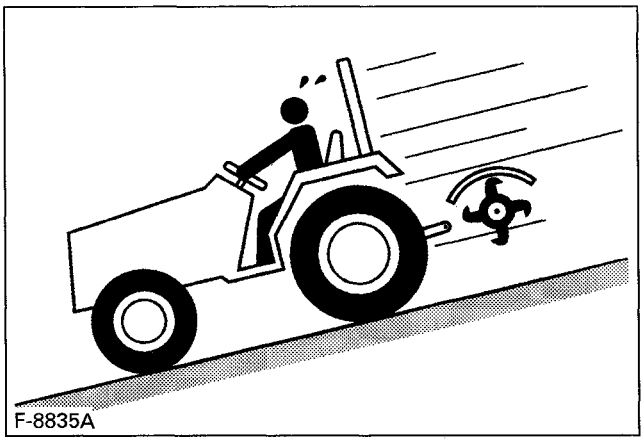


①デフロックペダル
Ⓐ“離す”(解除)
Ⓑ“踏む”(ロック)



(3)旋回する前にはトラクタの速度を落としてください。
高速で旋回するとトラクタが転倒するおそれがあります。

(4)坂を降りるとき，クラッチを切ったり，変速を中立にして惰性で走行しないでください。操縦ができなくなるおそれがあります。

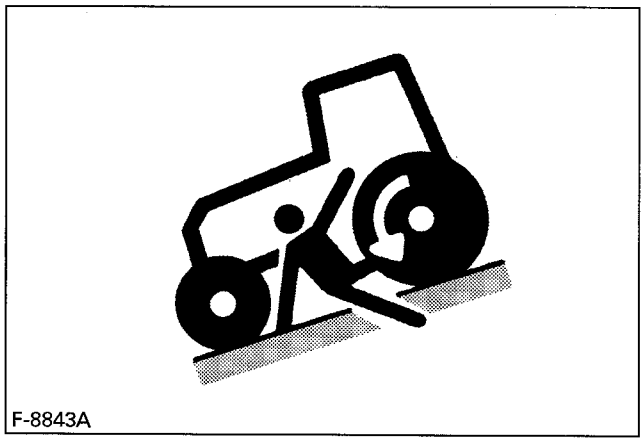


(5)トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。(道路運送車両法の保安基準)
作業機を装着して走行すると，他の車や電柱などに引っかけて事故の原因になります。

(6)交通や安全規則を守ってください。
運転免許証は，必ず携行してください。

7．駐車，格納時に

(1)駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，ＰＴＯを**“切”**，作業機を**“下げ”**，変速レバーを**“中立”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，エンジンを**“停止”**してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。


F-8843A

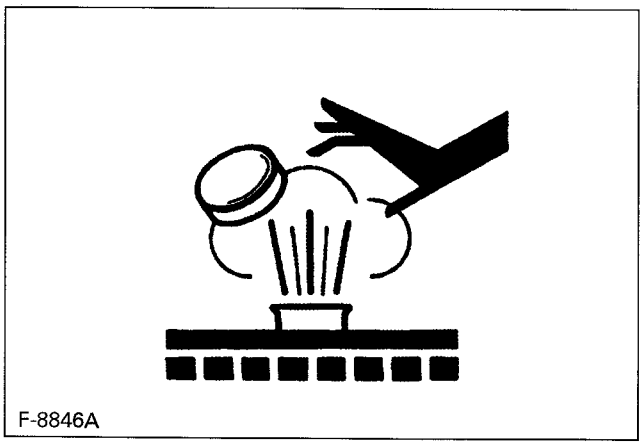
(2)乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。

(3)格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが充分冷えてから行ってください。

8．点検・給油・整備時に

(1)平たんな場所に駐車し，作業機を**“下げ”**，駐車ブレーキを**“掛け”**，変速レバーを**“中立”**にし，そしてエンジンを停止してください。

(2)エンジン・マフラ・ラジエータなどが充分冷えてから点検整備してください。ヤケドの恐れがあります。


F-8846A

(3)燃料を補給するときやバッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

F-8836A

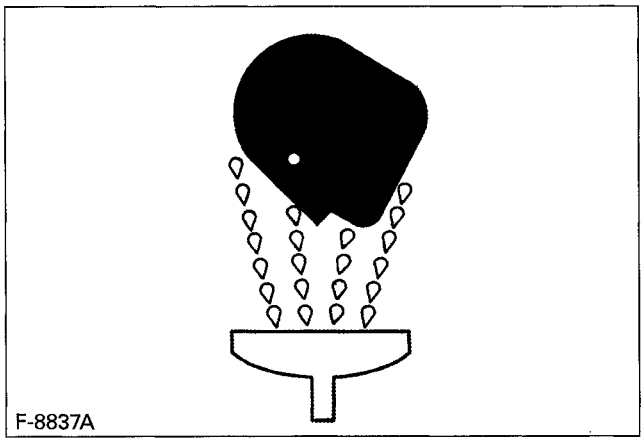
(4)放電したバッテリにブースタケーブルなどを接続して始動するときは，取扱方法をよく読みそれに従ってください。
(上手な運転のしかたの章**“バッテリあがりの処置”**を参照)

(5)バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL(上限)とLOWER LEVEL(下限)の間に補水してください。(補水可能なバッテリ)

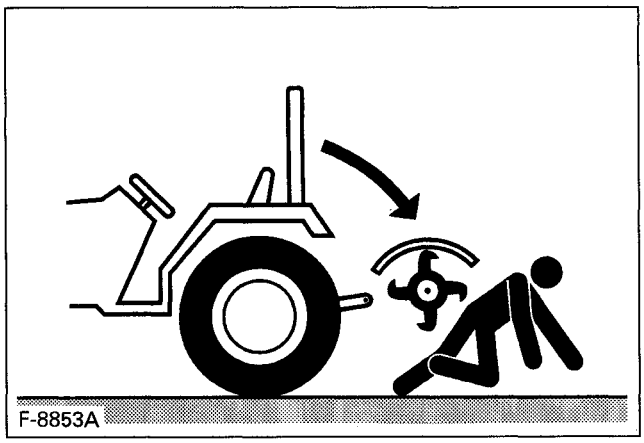
(6)バッテリをはずすときは，短絡事故を防ぐため，最初にバッテリのマイナスコードを外し，接続するときは最後に接続してください。

⚠ 安全に作業するために

(7)バッテリ液は希硫酸なので扱いには注意し，体や衣服に付けないようにしてください。もし目や体に付着した場合はすぐ水で洗って，すみやかに医師の診療を受けてください。


F-8837A

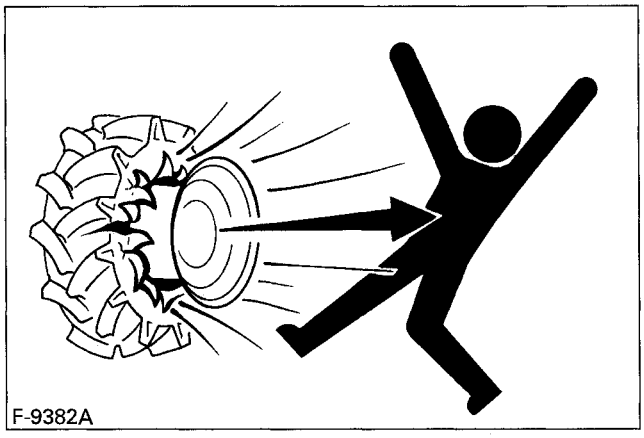
(8)3点リンク作業機を上げた状態で点検整備を行う場合，シート下部にある油圧ロックを締めて落下防止を行なってください。


F-8853A

(9)タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。

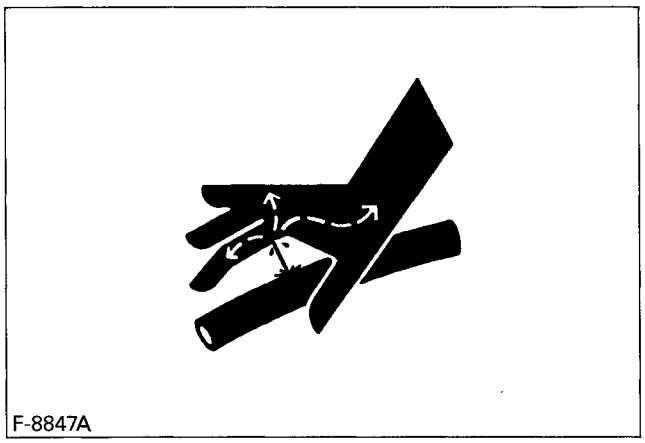
(10)タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。

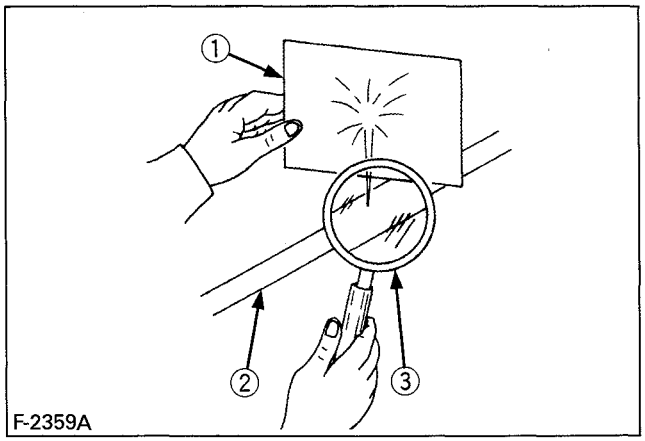
(11)タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)


F-9382A

(12)圧力がかかり噴出した油は，皮膚に浸透する程の力があり，傷害の原因になります。油圧部品を外すときは，必ず残圧を抜いてください。

(13)見えない小さな穴からの油漏れを探すときは，保護めがねをかけ，ボール紙などを利用してください。
万一，油が皮膚に浸透したときは，強度のアレルギーを起こすおそれがあるので，すぐ医師の診療を受けてください。


F-8847A

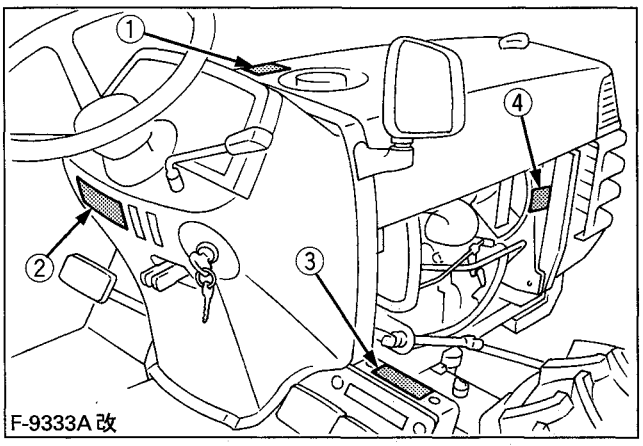


F-2359A

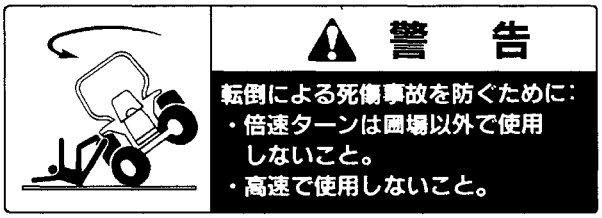
①ボール紙　②高圧ホース　③虫めがね

9. ⚠表示ラベルと貼付け位置

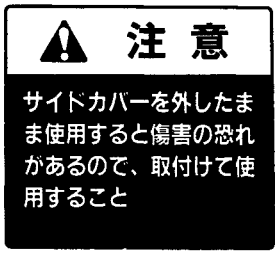
① 品番　3F740-9828-2



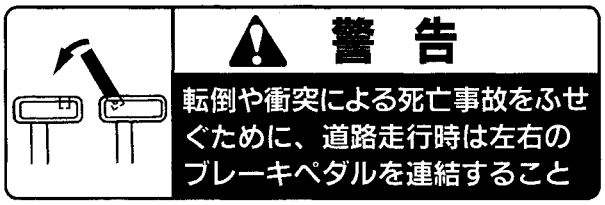
② 品番　6A100-4763-1



④ 品番　T0180-4955-1



③ 品番　6A600-4746-1



⚠ 安全に作業するために

① 品番　67980-4907-1

⚠ 注　意

傷害事故防止のため、取扱説明書を読み理解して正しい取扱いをしてください

始動時
- **シートにすわり、ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にすること**
- **前後左右に人がいないことを確認すること**

運転時
- **運転者以外に人を乗せないこと**
- **排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので換気の不十分な所で使用しないこと**
- **溝や穴の近く、路肩など重みでくずれやすい所では運転しないこと**
- **急な坂道、積込み積降ろし、圃場の出入り、畦の乗越え等では遅い車速で運転し、途中で変速しないこと**
- **道路走行時はデフロックを使用しないこと**
- **道路走行は道路運送車両の保安基準に適合すること（詳細は取扱説明書を参照）**

駐車時
- **ＰＴＯ及び各変速レバーを中立にし、作業機を地面に降ろし、駐車ブレーキを掛けエンジンをとめること**

点検、整備時
- **エンジンをとめ、機械の各部が停止してから行うこと**
- **作業機持ち上げ時は油圧ロックをすること**

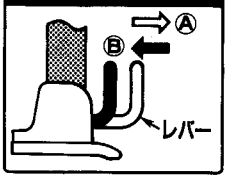
② 品番　6A320-4753-1

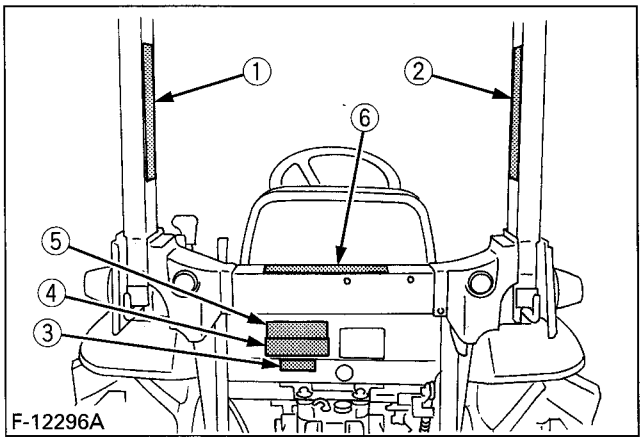
⚠ 注意

安全フレームを折りたたんたり、立てたりする時は、下記の手順を守ること。
1. エンシンを止める
2. 作業機をおろす
3. 駐車フレーキをかける

レバーの操作方法

- 安全フレームを折りたたむ時はレバーを Ａ の方向に引いて止めて下さい。
- フレームをレバーか Ｂ の位置に戻るまで後方に倒して下さい。
- 立てる時はフレームを元の位置に立てて下さい。レバーか Ｂ の位置に戻っていることを良く確認して御使用ください。詳しくは取扱説明書をよくお読み下さい。





③ 品番　6A100-4772-1

⚠ 注　意

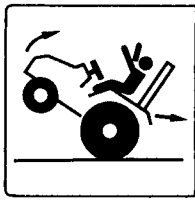
- PTO軸カバーを取りはずさないこと。
- PTO軸カバーの上に乗らないこと。

④ 品番　T0180-4959-1

⚠ 警　告

巻きこまれによる死傷事故をふせぐために
- ＰＴＯ軸の回転中は近づかないこと
- 使用しないときは、ＰＴＯ軸キャップを装着すること

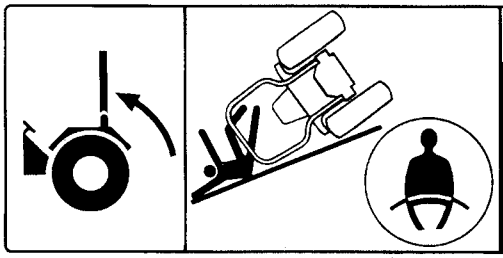
⑤ 品番　T0180-4904-1



⚠ 警　告

転倒による死傷事故をふせぐために
けん引は、けん引ヒッチを使用し、車軸やトップリンクブラケット等で行わないこと

⑥ 品番　6A100-4755-1

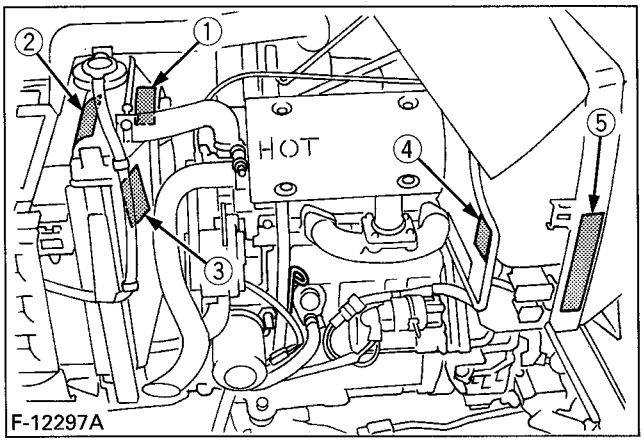


⚠ 警　告

転倒、転落による死傷事故軽減のために：
- **納屋の出入りなど安全フレームが当たる場合を除き、運転時は安全フレームを立て、確実にロックして使用すること。**
- **安全フレームを立てたとき、必ずシートベルトを着用すること。**
- **安全フレームを折った状態では、シートベルトを着用しないこと。**

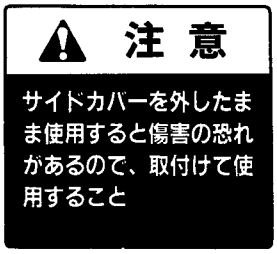
① 品番　T0180-4957-1

② 品番　67980-4737-1



③ 品番　T0180-4958-1

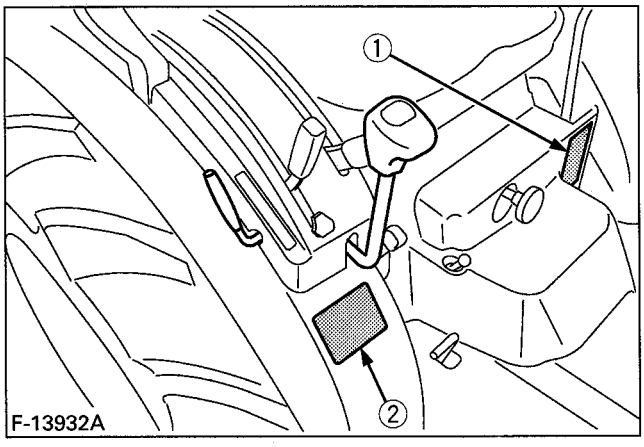
④ 品番　T0180-4955-1

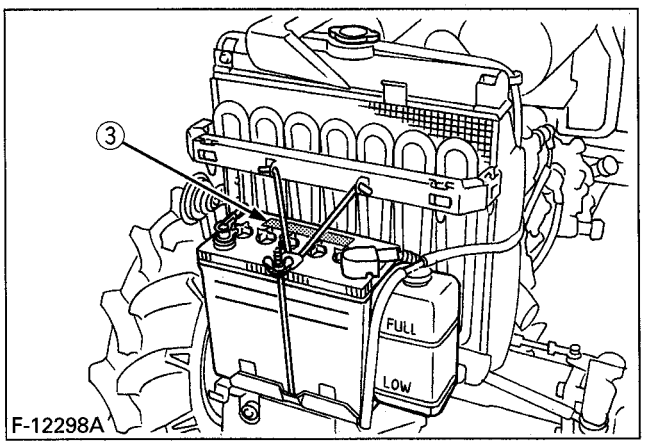


⑤ 品番　6A100-4743-1

⚠ 安全に作業するために

必ず読んで
ください。





① 品番　6A610-4906-1【グライドシフト(F)仕様のみ】　② 品番　6A646-3852-1【L仕様のみ】

⚠警告

駐車後にトラクタが動く恐れがあるため必ず**駐車ブレーキ**をかけること。
本機は変速ギヤを入れていてもエンジンをとめるとエンジンブレーキはききません。

⚠注意

急発進による事故を防ぐために主変速レバーの急激な変速はしないこと。
前後進はN位置で一旦停止して切り替えること。

⚠ 注 意

- メカポンバレバーは、ロータリ、またはハローでの、ほ場内作業にのみ使用すること。
  それ以外は、作業機の上げ下げを油圧レバーで行うこと。
- トラクタから降りる際には、ロックレバーでロックすること。

③ 品番　6A320-5559-1

10. ⚠表示ラベルの手入れ

(1)ラベルはいつもきれいにして傷付けないようにしてください。
　もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布で拭いてください。
(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。
(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。
(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全に拭取り，乾いた後，元の位置に貼ってください。
(5)ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

この製品には，サービスブックが添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいた購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際銘板に記載している

1. 農機型式名と車台番号
2. 機関型式とエンジン番号

を併せてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

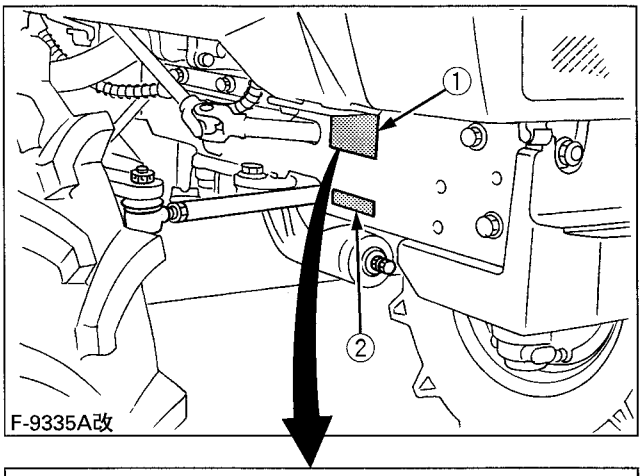
警 告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

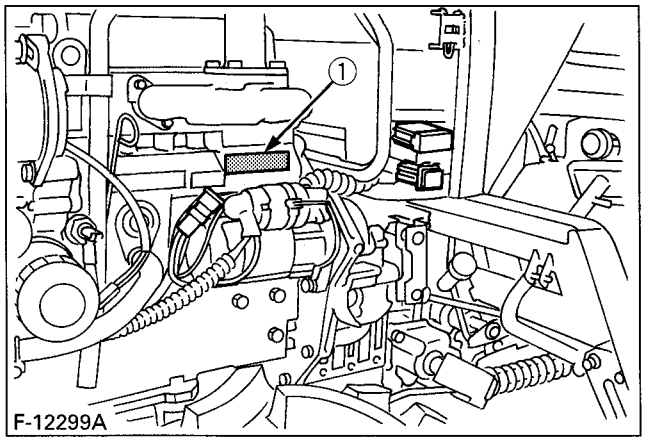
農機型式名	安全鑑定番号	小型特殊自動車車両型式名	型式認定番号
クボタGB160	25009	クボタAJ	農1991号，改造型
クボタGB160F	25010	クボタAJ	農1991号，改造型
クボタGB180	25011	クボタAK	農1992号，改造型
クボタGB180F	25012	クボタAK	農1992号，改造型
クボタGB200	25013	クボタAL	農1993号，改造型
クボタGB200F	25014	クボタAL	農1993号，改造型

型式名（安全フレーム）	型式検査（国検）合格番号
クボタSF-GB160	200012

＊検査成績表は巻末をご覧ください。



①銘板
②車台番号



①エンジン型式／エンジン番号

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後12年といたします。

ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

小型特殊自動車としての取扱い

このトラクタは、道路運送車両法の小型特殊自動車に該当します。

■小型特殊自動車取得の届出と標識(ナンバープレート)の取付け

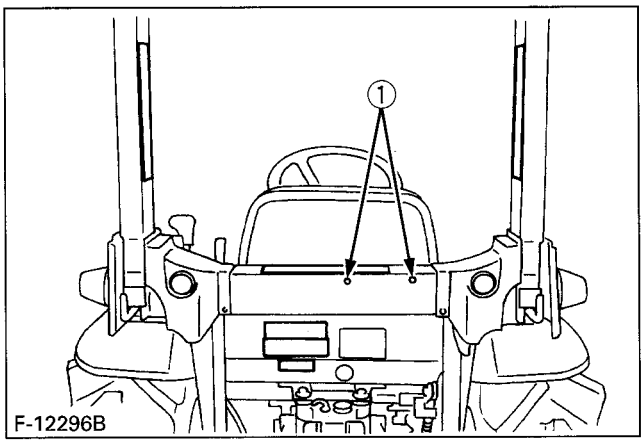
新たに小型特殊自動車の所有者となった者は，市町村条例により，その取得したことを市町村役所に届けて，標識(ナンバープレート)の交付を受けなければなりません。

手続きは市町村により，多少異なりますので詳細は，購入先にご相談ください。

❶小型特殊自動車を購入したときは，販売証明書等(購入先で発行)に，軽自動車税を添えて市町村役所に届出ます。

❷届出が済むと標識(ナンバープレート)が交付されます。

❸標識(ナンバープレート)は，車体の取付け位置に取付けてください。



①標識(ナンバープレート)取付位置

■運転免許

公道を走行する場合は，小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず所持してください。

■損害賠償保険について

万一の交通事故補償に備え，任意保険に加入されることをお勧めします。

重　要

＊エンジンで封印されている所はさわらないでください。(封印が外されたと認められる場合は，一切の保証は致しません。)

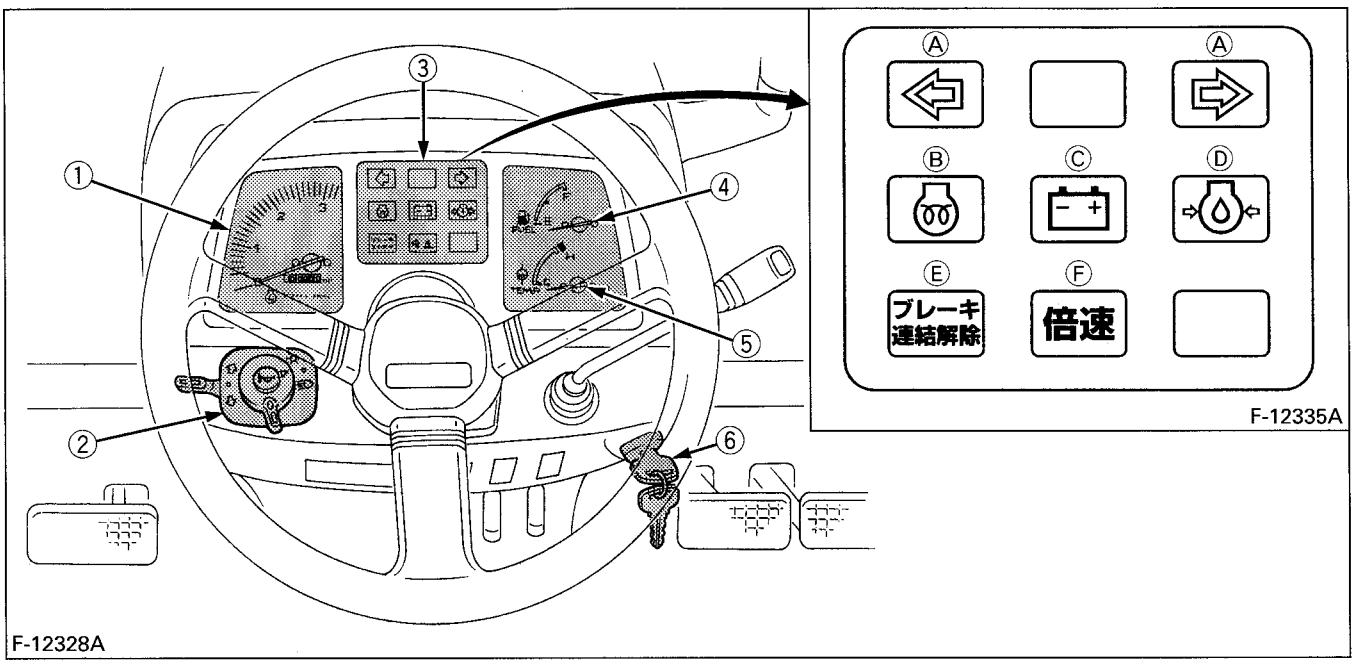
補　足

＊インプルメントを装着した状態では**“道路運送車両法の保安基準”**を満足しませんので，道路走行することはできません。

＊作業灯は**“道路運送車両の保安基準”**第42条(灯火の色等の制限)において，**“走行中に使用しない灯火”**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから道路走行中の点灯は禁止されております。

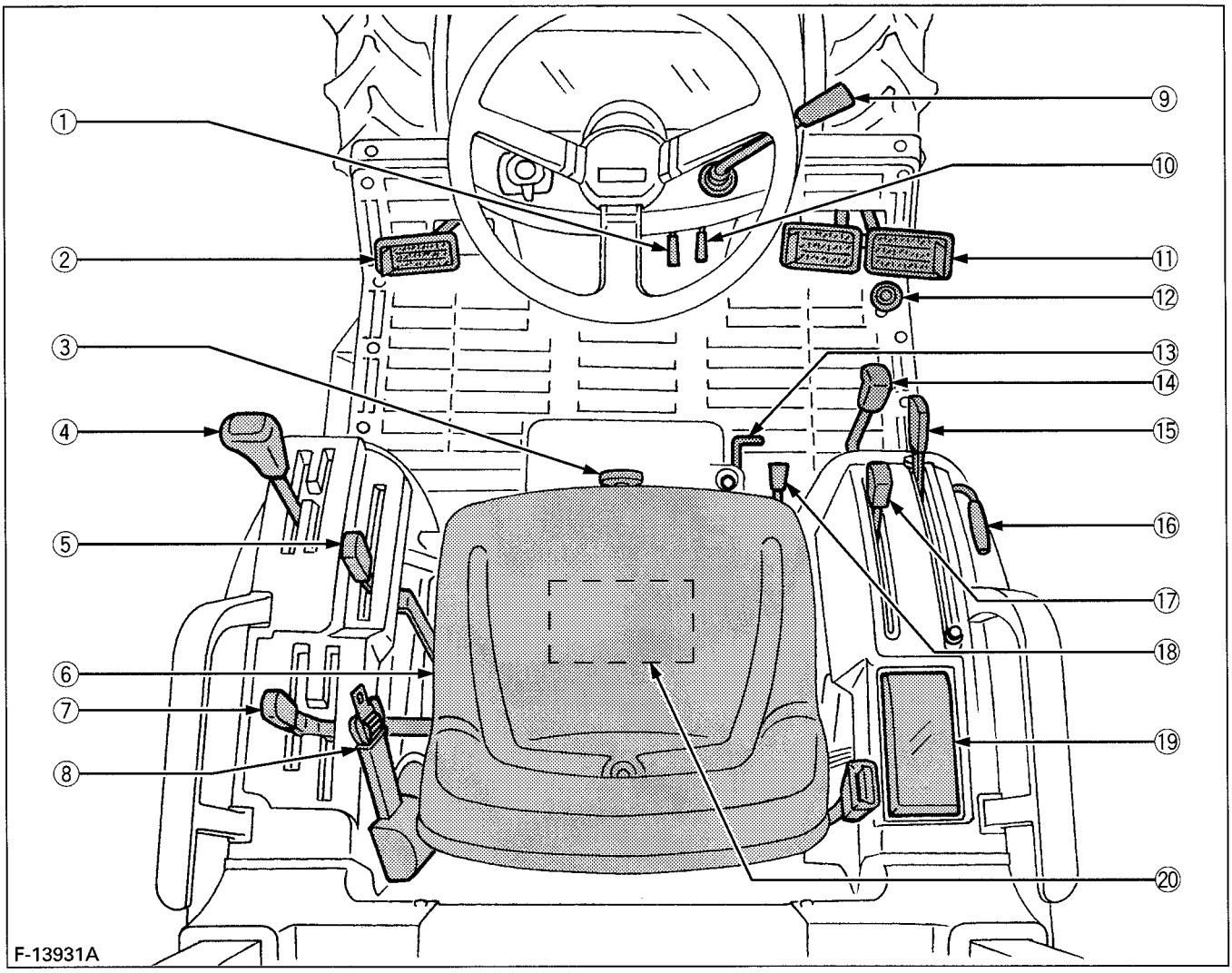
運転に必要な各部の名称

各装置の正しい名称と働きを理解してください。もし不明な点があれば，その名称に記してある参照ページをご覧ください。

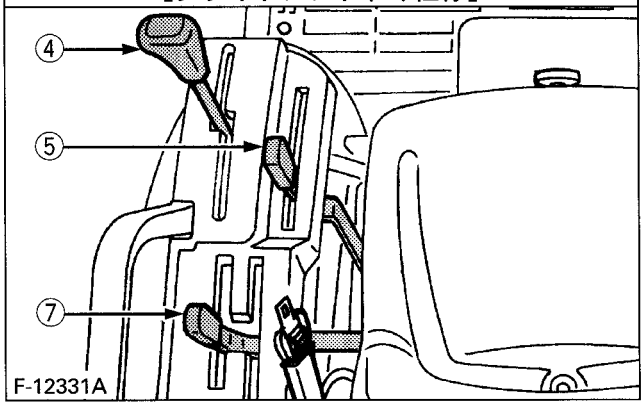


参照ページ

①トラクタメータ …… 21
②コンビネーションスイッチ …… 13
ライティングスイッチ …… 13
ウインカスイッチ …… 13
ホーンボタン …… 13
③イージーチェッカ …… 7，20
Ⓐウインカパイロットランプ …… 13
Ⓑグローランプ …… 8
Ⓒバッテリチャージランプ …… 20
（バッテリ充電警告灯）
Ⓓエンジンオイルランプ …… 20
（エンジン油圧警告灯）
Ⓔブレーキ連結解除ランプ …… 14
Ⓕ倍速ターンランプ …… 15
④燃料計 …… 21
⑤水温計 …… 21
⑥キースイッチ …… 7



【グライドシフト(F)仕様】



参照ページ

①倍速ターンレバー …… 15
②クラッチペダル …… 14
③落下速度調整グリップ …… 26
④主変速レバー …… 6，7，16
⑤副変速レバー …… 6，7，16，17
⑥シート …… 11
⑦PTO変速レバー …… 30
⑧シートベルト …… 12
⑨アクセルレバー …… 16，18
⑩駐車ブレーキレバー …… 6，17，18
⑪ブレーキペダル …… 14
⑫アクセルペダル …… 16，18
⑬デフロックペダル …… 22
⑭メカポンパレバー【L仕様】…… 25
⑮油圧(ポジションコントロール)レバー…… 25
⑯ロックレバー【L仕様】…… 26
⑰オート耕深レバー【MA仕様】…… 33
⑱前輪駆動レバー …… 15
⑲モンロー操作スイッチ【MA仕様】…… 31
⑳工具箱 …… －

運転前の点検

故障を未然に防ぐには，機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回，運転前に欠かさず行なってください。
〔点検方法の詳細は，**“トラクタの簡単な手入れと処置”**の項を参照。〕

注　意

＊運転前にブレーキ・クラッチ・ステアリングや安全装置などの日常点検を行ない，摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また，定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料補給時は，くわえタバコ・裸火照明はしないでください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをするおそれがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，次の手順に従ってください。
❶エンジン停止後30分経過してから開ける。
❷点検・整備で内部に触れるときは，ヤケドのおそれがないことを確認する。

重　要

各部への給油と交換
＊点検するときはトラクタを水平な場所に置いて行なってください。傾いていると正確な量を示さないことがあります。
＊使用するエンジンオイル，ミッションオイルは，必ず指定**“クボタ純オイル”**を使用してください。

エンジンの始動と停止

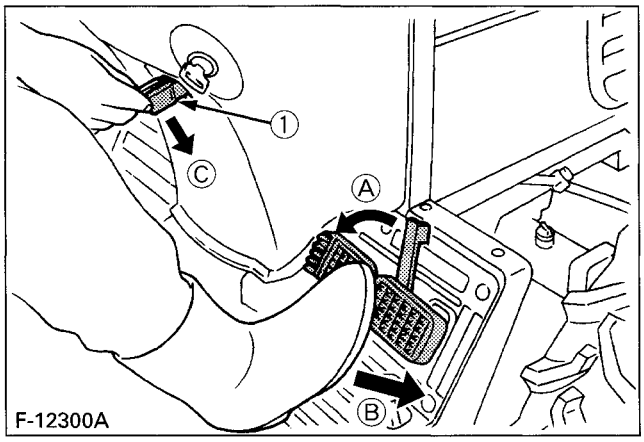
警 告

＊この取扱説明書前編の黄色のページの“安全に作業するために”の内容を必ずお読みください。
＊トラクタに貼ってある⚠表示ラベルの内容を必ずお読みください。
＊エンジンを始動する前に，必ずシートに座り，主変速，副変速やＰＴＯ変速レバーが“中立”(N)かどうか，また駐車ブレーキが掛かっているかを確認してください。
＊トラクタが突然動き出すおそれがあるため，地上に立ってエンジンを始動したり，スタータ端子や安全スイッチを直結してエンジンを始動しないでください。
＊室内やビニールハウス内などで運転する場合は，換気を十分に行なってください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

始動のしかた

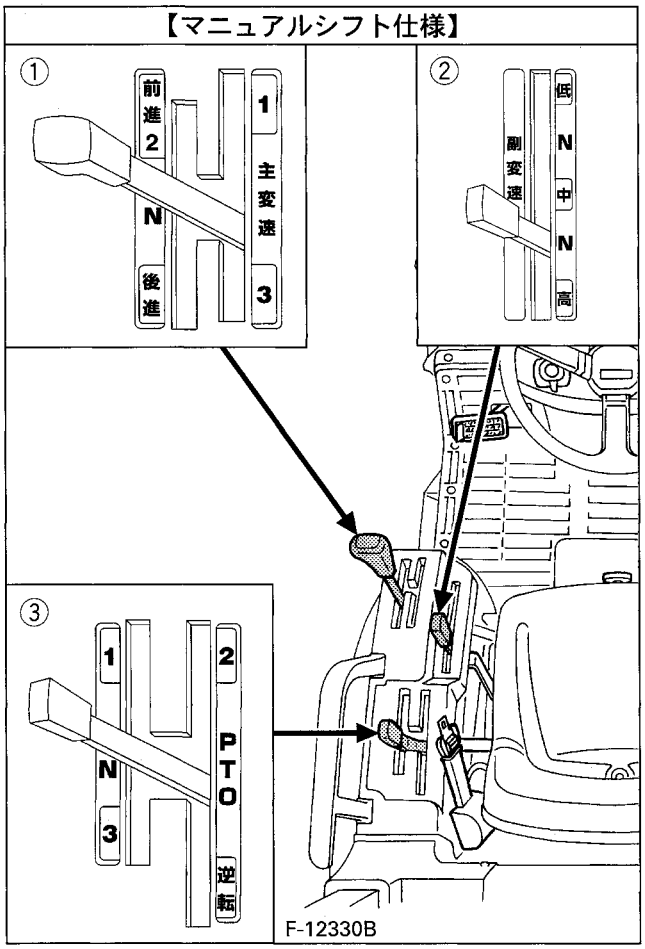
1.駐車ブレーキをかけます。

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを“下げ”たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。



①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“下げる”

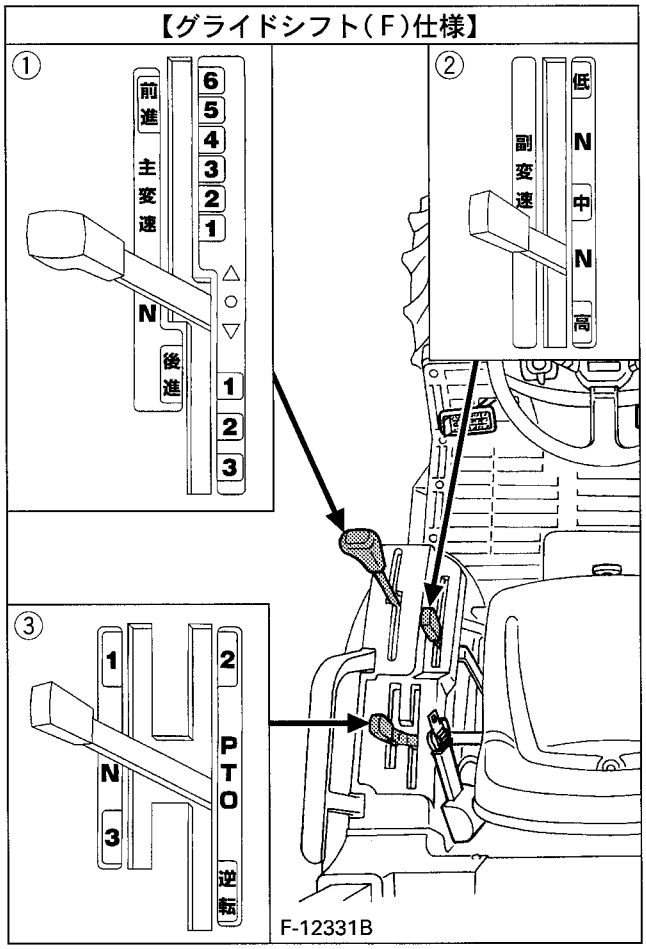
2.主変速レバー，副変速レバー，PTO変速レバーを“中立”(N)にします。



①主変速レバー　Ⓝ“中立”
②副変速レバー
③PTO変速レバー

補 足

＊主変速レバー及びPTO変速レバーを**“中立”**(N)にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。



①主変速レバー　　Ⓝ“中立”
②副変速レバー
③PTO変速レバー

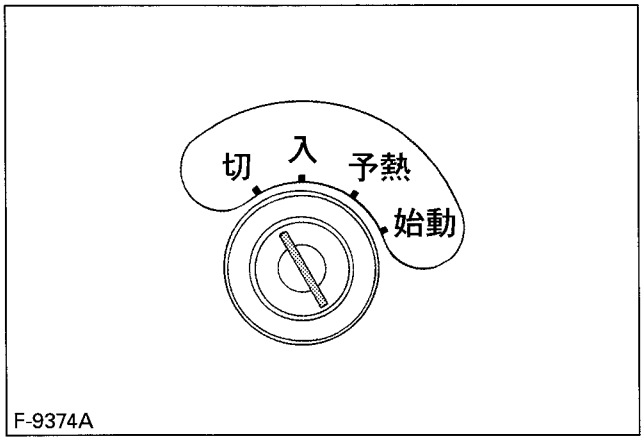
補　足

＊主変速レバー及びPTO変速レバーを**“中立”**(N)にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

3.キースイッチにキーを差込み“入”位置にします。

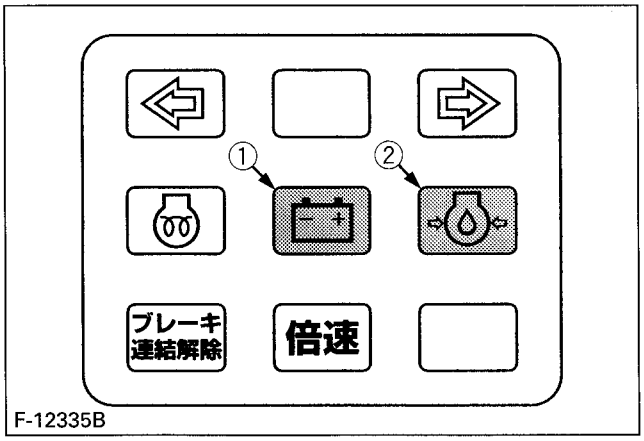
■キースイッチ

切 …… エンジンが停止し，キーが抜き差しできる位置。
入 …… エンジン回転中の位置。
予熱 …… 燃焼室内を予熱する位置。
始動 …… エンジンを始動する位置。
手を離せば自動的に**“入”**に戻ります。



◆イージーチェッカランプ

キースイッチを**“入”**位置にすると，①②ランプが点灯します。

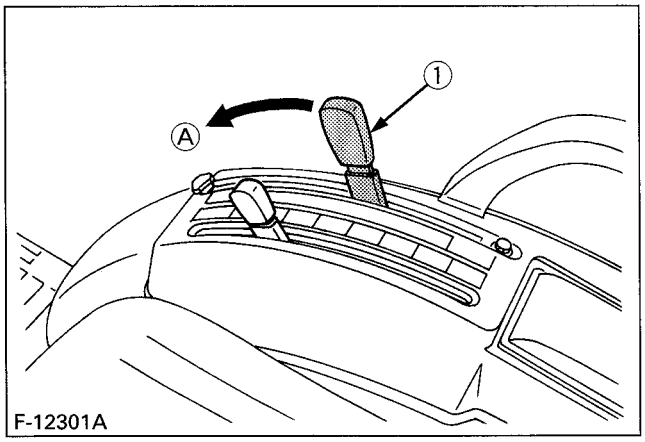


①バッテリチャージランプ(バッテリ充電警告灯)
②エンジンオイルランプ(エンジン油圧警告灯)

補　足

＊各レバーやスイッチの位置により，上記以外のランプも点灯又は点滅する場合があります。

4.油圧レバーを“前方に倒し”作業機を下げます。



①油圧レバー　　Ⓐ“下げる”

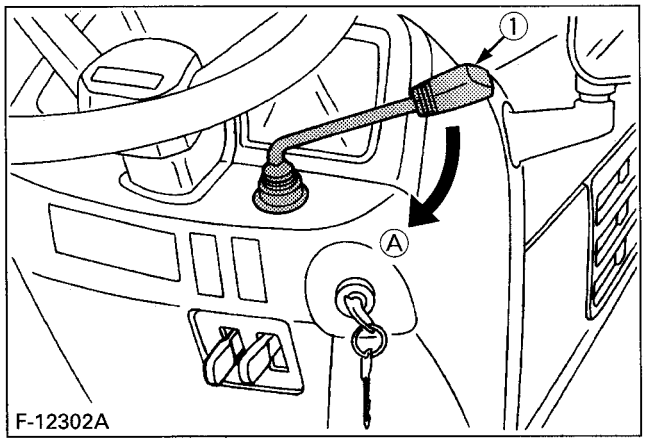
補　足

＊油圧ロックされている場合，作業機は下がりません。

＊メカポンパレバーが上昇側にある場合，作業機は下がりません。**【L仕様】**

【詳細は**“油圧”**の項を参照】

5.アクセルレバーを“中程”まで引きます。



①アクセルレバー　　Ⓐ“加速”

6.クラッチペダルを“踏込み”ます。

7.キーを“予熱”位置に回します。

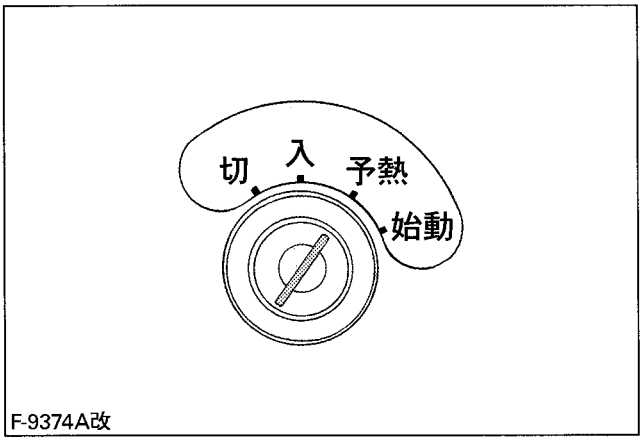
予熱時間は，下表を参考に行なってください。

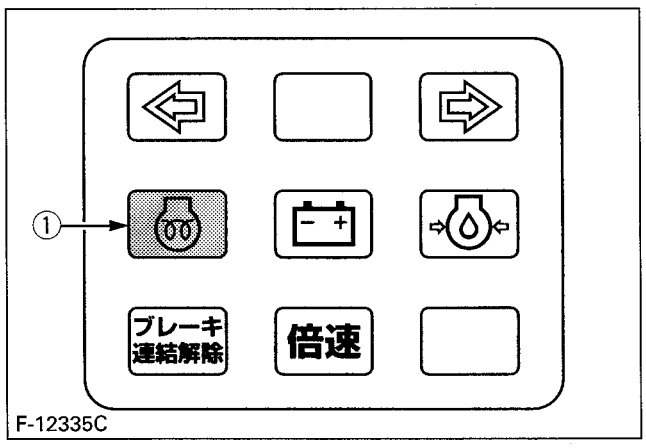
エンジンが暖まっている場合，予熱は不要です。

気　温	予熱時間
0℃以上	2～3秒
0～－5℃	5秒
－5～－15℃	10秒

補　足

＊予熱中のみ，グローランプが点灯します。





①グローランプ

8.キーを“始動”位置に回します。

補　足

＊主変速レバー及びPTO変速レバーを**“中立”**(N)にしないと，安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。

重　要

＊セルモータは，大電流を消費しますので，10秒以上の連続使用は避けてください。
10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。

9.エンジンが始動したら，キーから手をはなしてください。

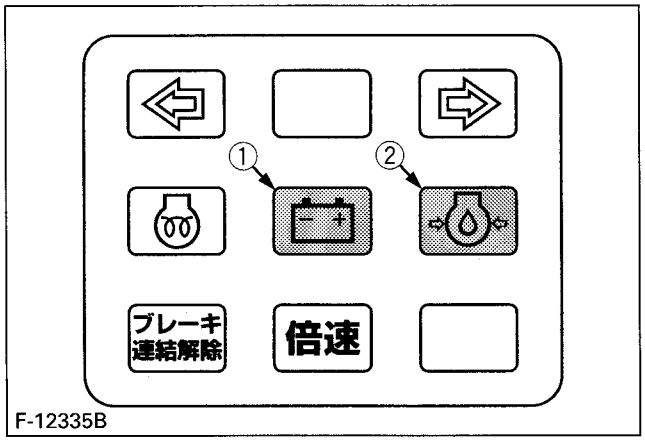
自動的に**“入”**にもどります。

重　要

＊エンジン回転中は，キーを**“始動”**位置にしないでください。セルモータ破損の原因になります。

10.イージーチェッカランプが“消灯”したか確認します。

もし，ランプが消灯しない場合は，エンジンを停止し，点検してください。

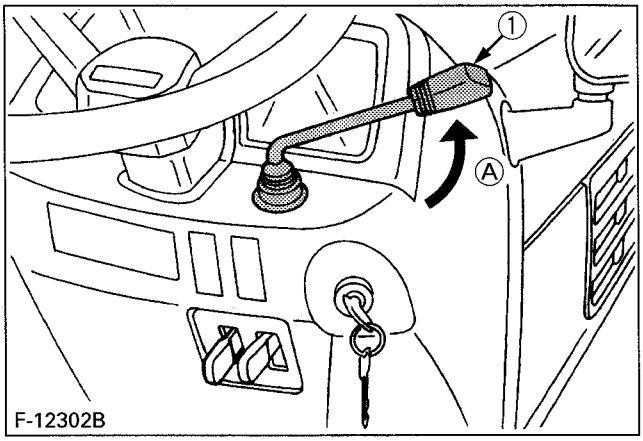


エンジン始動後消灯するランプ：①②

11.エンジン回転を下げ，クラッチペダルからゆっくり足を離し，そのまま5分程度暖機運転しましょう。

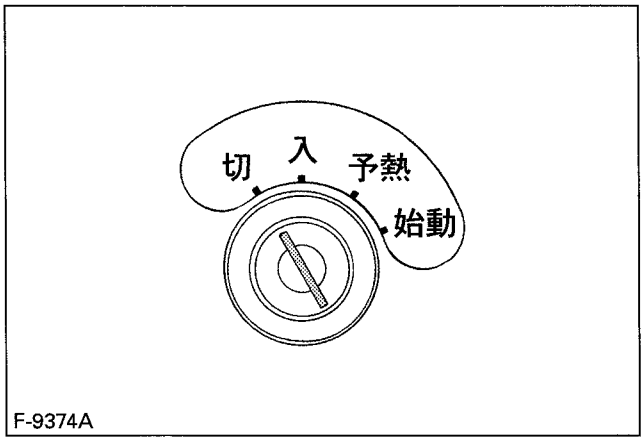
停止のしかた

1.アクセルレバーをいっぱい前へ“押し”てアイドリング状態にします。



①アクセルレバー　　Ⓐ“アイドリング”

2.キースイッチのキーを“切”の位置にすると，エンジンは停止します。



3.キーは必ず“抜き”ましょう。

寒冷時の暖機運転

注 意

＊換気が不十分な所では，暖機運転はしないでください。
換気が不十分であると排気ガスにより，一酸化炭素中毒のおそれがあります。
＊暖機運転中は必ず駐車ブレーキをかけてください。

始動後，約５分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各メタルに十分ゆきわたらせるためで，始動してからすぐ負荷をかけると，焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。

◆グライドシフト(F)仕様

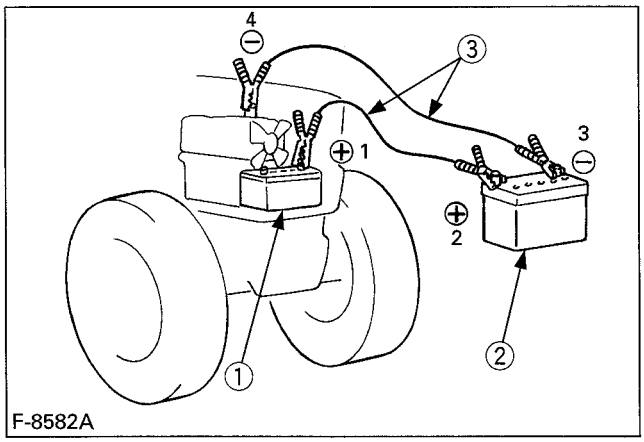
ミッションやステアリングを油圧で作動させており，その油圧オイルはトランスミッションオイルを兼用しています。そのため必ず下記の要領で暖機運転を行ない，トランスミッションを暖めてください。暖機運転を行なわないと，満足な機能が得られないばかりか故障の原因になります。

気　温	暖機運転時間
0℃以上	約５分間
0℃以下	10分間以上

バッテリあがりの処置

ブースタケーブル(別売)があれば，他車のバッテリを電源としてエンジンを始動することができます。

❶ブースタケーブルを図の番号順で接続します。
＊バッテリの⊕端子同士を接続します
＊マイナスケーブルの他端④の接続位置は，バッテリから離れたエンジン本体に接続します。
(マイナスケーブルの他端④を直接バッテリの⊖端子に接続すると，バッテリから発生する可燃ガスに引火するおそれがあります。)



F-8582A

①放電したトラクタバッテリ
②救援車バッテリ
③ブースタケーブル

❷救援側の車を始動し，少しエンジン回転を高めに保ちます。
❸トラクタのエンジンを始動します。
(始動手順は**“エンジンの始動と停止”**の項を参照)
❹ブースタケーブルを接続順序の逆で外します。

重 要

＊救援車は必ず12Vバッテリ車を使用してください。
＊ケーブル接続の際には，⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
＊ケーブルが冷却ファンなどに巻込まれないようにしてください。

トラクタの運転

警 告

＊トラクタを発進するときは前後左右をよく確認し，付近に人(特に子供)を近づけないでください。また，安全フレームに当たる障害物がないかも確認してください。
＊子供はもちろん，運転者以外の人を乗せてトラクタを運転しないでください。また，必ずシートに座って運転してください。
＊溝や穴の近く，路肩などトラクタの重みでくずれやすい所では運転しないでください。
転落事故のおそれがあります。
＊急な坂道の登坂はバックで行なうか，作業機をできるだけ下げ，転倒防止に心がけてください。
＊下り坂は，エンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで降りないでください。
＊負荷の大きいけん引をする場合や湿田脱出の場合には，徐々に発進し，トラクタが後へ転倒しないように注意してください。
＊高速で旋回すると，横転するおそれがあります。デフロックペダルの解除を確認して，必ずスピードを落としてゆっくりと回ってください。
＊運転席足元に空缶，部品などの物を置くとブレーキペダルやクラッチペダルの下にはさまり，ブレーキ操作，クラッチ操作ができなくなり危険です。

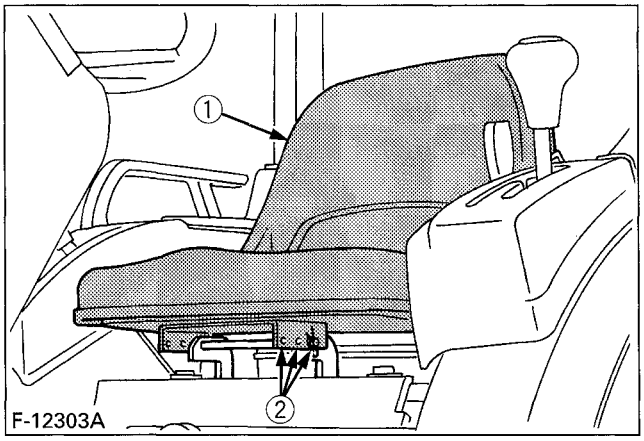
ならし運転(最初の約50時間)

この期間中は，特に次のことを厳守してください。
1. 急なスタート，急ブレーキは慎んでください。
2. 必要以上のスピードや負荷をかけないようにしましょう。
3. 運転は，エンジンが十分暖まってから行なうようにしましょう。
4. 悪路や傾斜地では，速度を落とし安全を確認しながら走行しましょう。
5. 50時間使用後，**“定期点検箇所一覧表”**に従い各部の点検，オイル交換などを行なってください。

運転席回りの調節

■シート

1. シート下のピン穴を移動すると，前後３段階に調節できます。
2. 雨のときは，シートを前に倒しておくと座席がぬれません。



①シート
②調節穴

■安全フレームとシートベルトについて

警 告

転倒・転落による死傷事故防止のため，下記のことを守ってください。

＊トラクタを使用するときは，安全フレームを外して運転しないでください。

＊納屋の出入りなど，安全フレームが当たる場合を除き，運転時はいつも安全フレームを立て，必ずシートベルトを着用してください。

＊安全フレームを折りたたんだ状態では，シートベルトを絶対にしないでください。折りたたみ式安全フレームは，折りたたんだ状態では安全フレームの役目をしません。

＊安全フレームの改造を絶対にしないでください。又 強度に影響する破損，曲がりなどが発生した場合，交換してください。

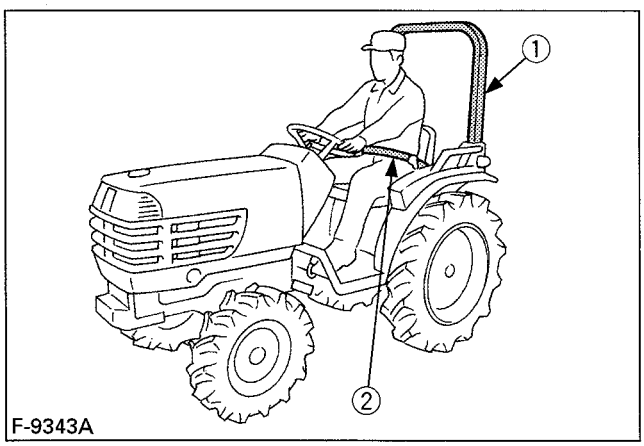
＊安全フレームを立てたときは，左右のレバーを押し込んで確実に固定してください。また日常点検時，レバーにガタがないか確認してください。

＊安全フレームが確実に固定されているか確認してください。

＊安全フレームを折りたたんだり，立てたりするときは，平坦な場所で必ず作業機を地面に降ろし，エンジンを止め，駐車ブレーキを掛けてから行なってください。

補 足

＊安全フレームは，万一のときに少しでも被害を軽くするためのものであって，すべての傷害を防げるものではありません。



①安全フレーム
②シートベルト

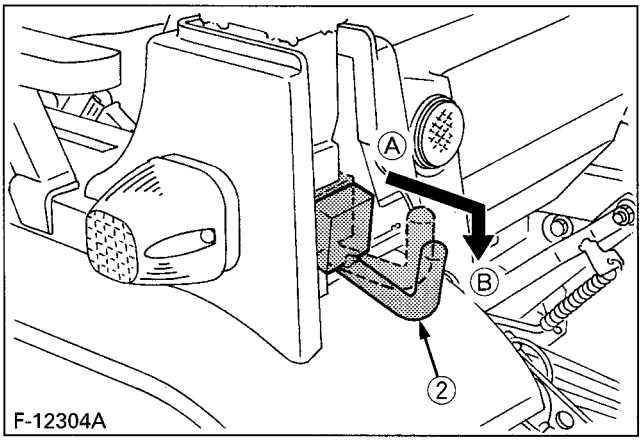
◆折りたたみ方法

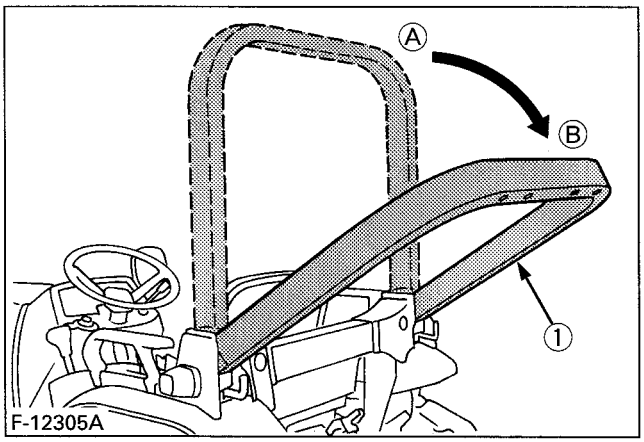
❶レバーを後方へ引き，そのまま少し下側に下げロックを解除します。(左右共)

❷次に，安全フレームをゆっくりと後方へ折りたたんでください。

補 足

＊安全フレームを折りたたむと，作業機の状態によっては接触する場合があります。接触しないことを確認して折りたたんでください。





①安全フレーム　　Ⓐ“固定位置”
②レバー　　Ⓑ“折りたたみ位置”

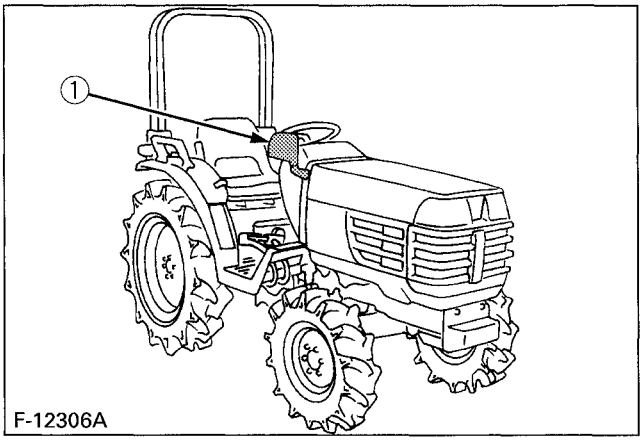
◆起こす方法

❶安全フレームを前方へ動かなくなる位置まで完全に起こします。

❷ロックレバーで安全フレームが確実にロックされているか(左右共)，また安全フレームにガタがないか確認してください。

■バックミラー

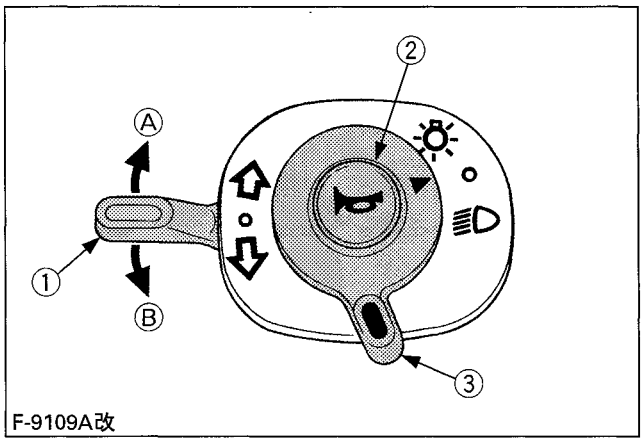
後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。



①バックミラー

灯火類の操作

■コンビネーションスイッチ



①ウインカスイッチ　　Ⓐ“右点滅”
②ホーンボタン　　Ⓑ“左点滅”
③ライティングスイッチ

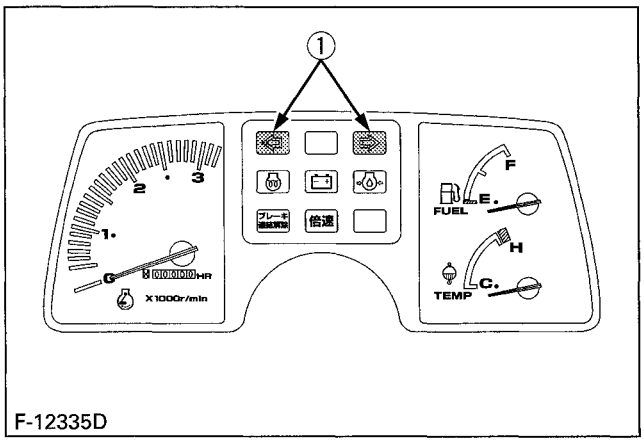
◆ライティングスイッチ

○…… ヘッドランプ消灯位置。

≡○…… ヘッドランプ点灯位置。

◆ウインカスイッチ

1. スイッチを操作すると，ウインカランプ及びウインカパイロットランプが点滅します。
2. 右折又は左折が終ったら，スイッチを中央に戻しましょう。



①ウインカパイロットランプ

◆ホーンボタン

ホーンボタンを押すとホーンが鳴ります。

発進・走行

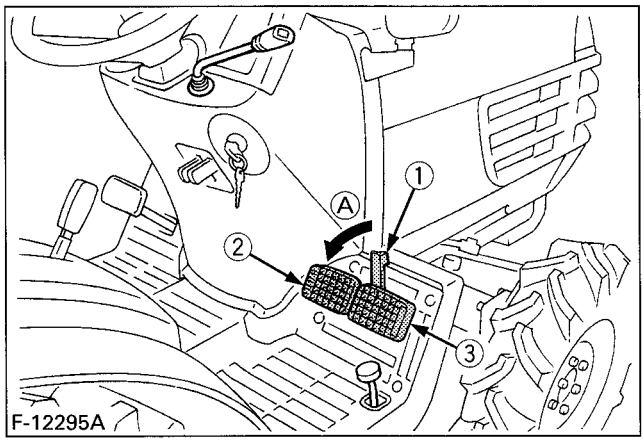
1.ブレーキペダルの確認

■ブレーキペダル

警 告

＊道路走行中・登り坂・下り坂及びあぜ越え中は，ブレーキペダルの左右を連結金具で，必ず連結してください。
道路走行中に片ブレーキを踏むと車体が振られ，転倒や交通事故のおそれがあります。

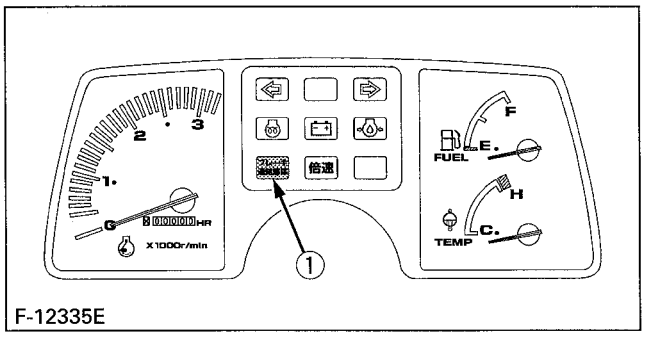
ブレーキは，強制的に機体を停止させる装置で，一般車両と異なり，左右それぞれ独立しており，後輪の片輪だけにブレーキをかけることができます。
また連結金具でブレーキペダルをつなぐと，左右両輪のブレーキが同時に働きます。
連結金具をかけた状態……道路走行時。
連結金具を外した状態……農作業時。



①連結金具　　Ⓐ“道路走行時は必ずかける”
②ブレーキペダル(左)
③ブレーキペダル(右)

◆ブレーキペダル連結解除ランプ

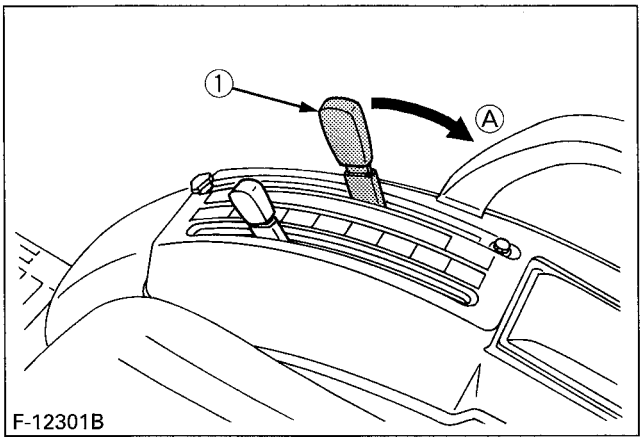
ブレーキペダル連結金具を外すとブレーキ連結解除ランプが点灯します。
道路走行時などでは連結金具をかけ，ブレーキ連結解除ランプの消灯を確認してから，走行してください。



①ブレーキペダル連結解除ランプ

2.油圧レバーを“後方に引き”作業機を上げます。

〔詳細は**“油圧”**の項を参照〕



①油圧レバー　　Ⓐ“上げる”

3.クラッチペダルを踏込みます。

注 意

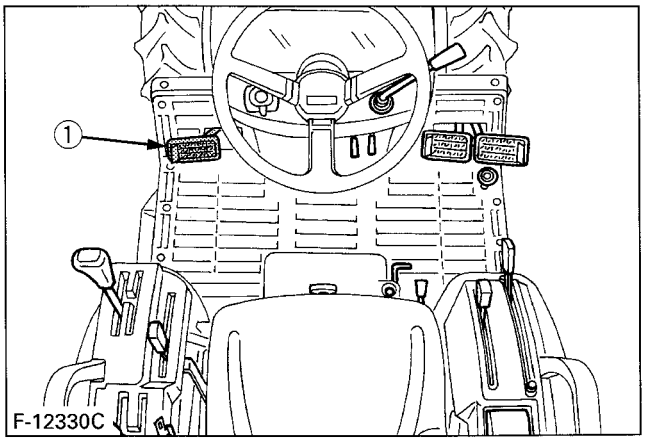
＊急にクラッチを離すと，急に飛出すおそれがあります。ゆっくり行なってください。

■クラッチペダル

クラッチは，エンジンの動力を各作動部に断続する装置です。
ペダルを踏込む……クラッチが切れる。
ペダルから足を離す……クラッチがつながる。

補 足

＊下記レバーを操作するときは，必ずクラッチペダルを踏みトラクタを完全に停止させてから行なってください。
・主変速レバー**【マニュアルシフト仕様】**
・副変速レバー
・前輪駆動レバー
・ＰＴＯ変速レバー

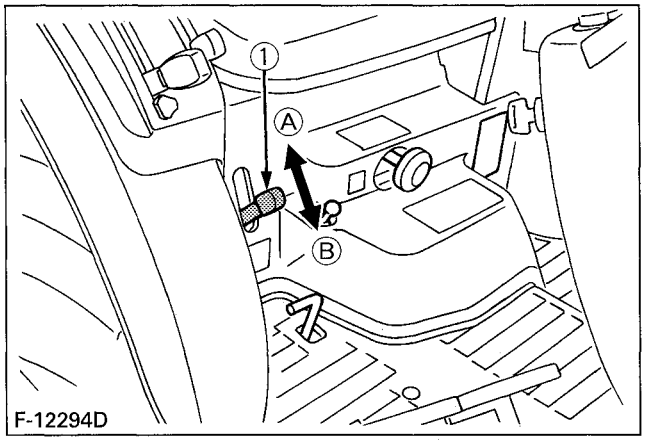


①クラッチペダル

4.作業に応じ必要なレバー類を操作します。

■前輪駆動レバー

前輪駆動の断続に使用するレバーで，クラッチペダルを踏込み操作します。
前輪駆動**“入”**……４輪が駆動される。
前輪駆動**“切”**……前輪駆動が切れる。



①前輪駆動レバー　　Ⓐ前輪駆動“入”
Ⓑ前輪駆動“切”

重　要

＊前輪駆動レバーは，**“入”**か**“切”**の位置にしてください。中間の位置で運転すると故障の原因になります。

◆前輪駆動の使い方

前輪駆動は，次のような場合に使用してください。
1. 傾斜地，湿田，トレーラ運搬作業などけん引力を必要とする場合。
2. 砂地で作業をする場合。
3. 固い農場で，ロータリ耕うん時の飛出しを防止する場合。

■倍速ターンレバー【T仕様以外】

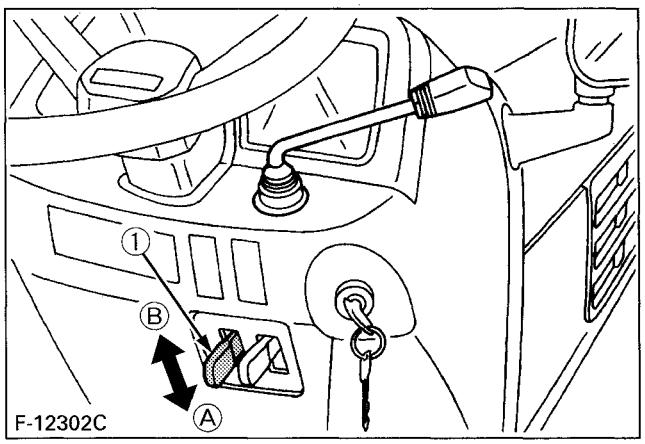
警　告

＊倍速ターンに入れたままでは，ほ場以外を走行しないでください。ほ場から出る前に必ず倍速ターンを“切”にしてください。
＊倍速ターンは，畑，水田などのロータリ耕作業に役立ちますが，使用法を誤ると転倒などのおそれや故障の原因にもなります。

倍速ターンレバーの操作は，トラクタを停止させ，前輪タイヤを直進状態にしてから行なってください。
レバーを**“入”**にする……倍速ターンが入ります。
(キースイッチが**“入”**のときは倍速ターンランプが点灯します)
レバーを**“切”**にする……倍速ターンが切れます。

補　足

＊倍速ターン使用時は，前輪駆動レバーも**“入”**にしてください。



①倍速ターンレバー　　Ⓐ“入”
Ⓑ“切”

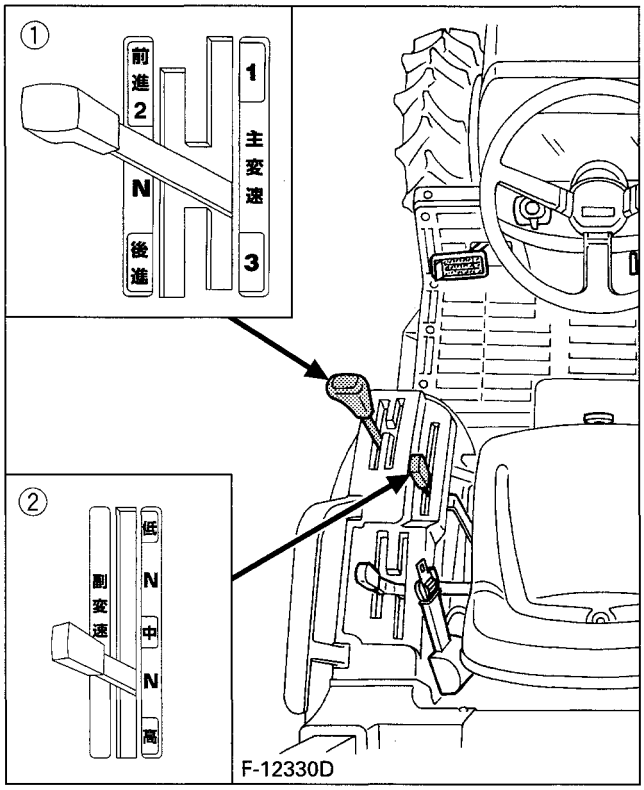
重　要

＊ロータ，トレーラなど前輪に重荷重がかかる作業や速度の速い作業には，使用しないでください。
＊倍速ターンレバー**“入”**・**“切”**は，前輪タイヤが直進の状態で行なってください。
＊倍速ターンの高速けん制……
倍速ターンレバー**“入”**の状態で副変速レバーを**“高”**にすると，倍速ターンは自動的に**“切”**となり(倍速ターンレバーは動きません。また，キースイッチ**“入”**のときは倍速ターンランプは点灯したままです)，副変速レバーを**“低”**又は**“中”**に戻すと倍速ターンは**“入”**に復帰します。この使用法はほ場内だけにし，道路走行では倍速ターンレバーを**“切”**にしてください。

以下の操作は仕様により異なります

マニュアルシフト仕様

5.走行速度を選択します。



①主変速レバー
②副変速レバー

２本のレバー操作を組合せることにより，前進９段・後進３段の車速が得られます。

重　要

＊操作はクラッチを切りトラクタが完全に停止してから行なってください。走行中に操作するとミッションの損傷につながります。

■主変速レバー

レバー１本で前進３段，後進１段の車速が選択できます。

■副変速レバー

レバー１本で**“低速・中速・高速”**が選択できます。
トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

6.エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

主に農作業時に使用する。

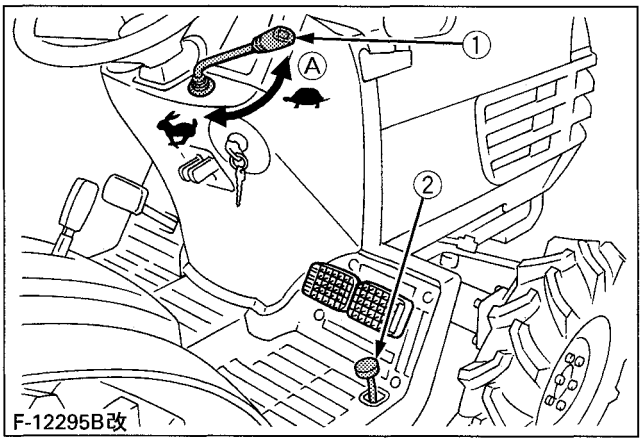
……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。
ペダルから足を離す……アクセルレバーで設定しているエンジン回転。

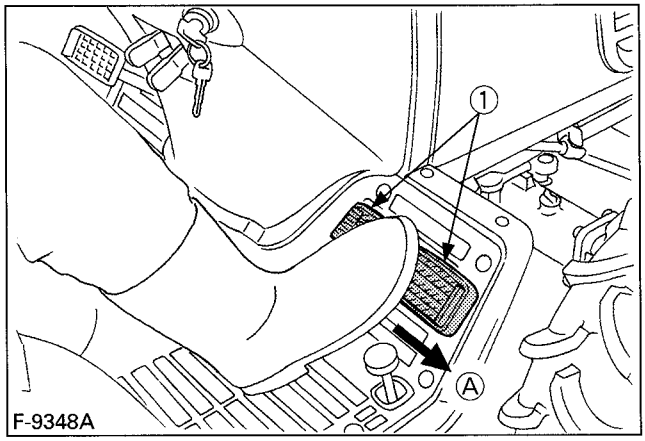


①アクセルレバー
②アクセルペダル
Ⓐ“アイドリング”
“低速”
“高速”

7.駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**“踏込む”**と駐車ブレーキレバーが解除されます。



①ブレーキペダル　　Ⓐ“踏込む”

8.クラッチペダルをゆっくり離し発進します。

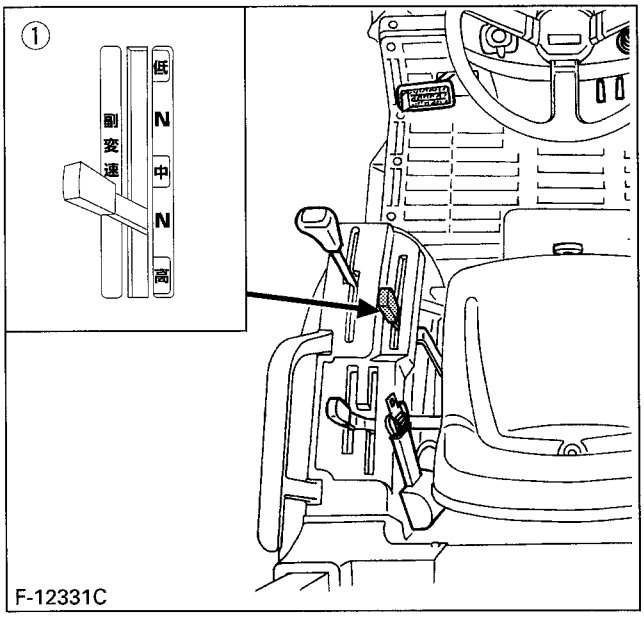
重　要

＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

- ●速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- ●作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- ●クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

グライドシフト(F)仕様

5.副変速レバーを“低・中”又は“高”に入れます。



①副変速レバー

■副変速レバー

レバー１本で**“低速・中速・高速”**が選択できます。
トラクタに貼付けられている作業速度表などを参考に適切な車速を選択してください。

重　要

＊副変速レバーの切換えは，必ず主変速(グライドシフト)レバーを**“中立”**(N)の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

＊副変速レバーは，走行中に変速することはできません。クラッチペダルを踏込んでトラクタを停止させてから行なってください。

＊副変速レバーの操作時，レバーが入りにくくなるときがあります。そのときは，副変速レバーを**“中立”**(N)に戻しクラッチをつないでください。
そのままグライドシフトレバーを少し動かしてから**“中立”**(N)に戻し，再度クラッチペダルを踏込み副変速レバーを操作してください。

6.エンジンを加速します。

■アクセルレバーとアクセルペダル

◆アクセルレバー

主に農作業時に使用する。

……レバーを手前に引くと，エンジン回転が上がる。

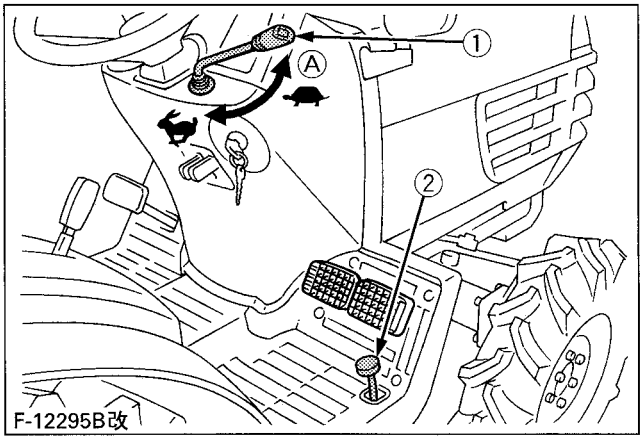
……レバーを前側に押すと，エンジン回転が下がる。

◆アクセルペダル

主に道路走行時に使用する。

ペダルを踏込む……エンジン回転が上がる。

ペダルから足を離す……アクセルレバーで設定しているエンジン回転。

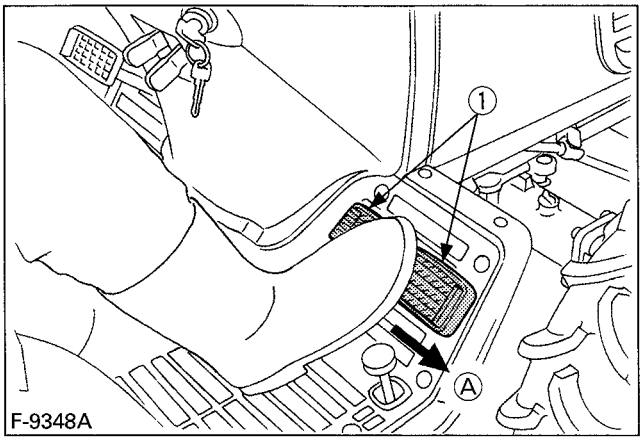


①アクセルレバー　Ⓐ“アイドリング”
②アクセルペダル　“低速”
“高速”

7.駐車ブレーキを解除します。

■駐車ブレーキ

ブレーキペダルを**“踏込む”**と駐車ブレーキレバーが，解除されます。



①ブレーキペダル　Ⓐ“踏込む”

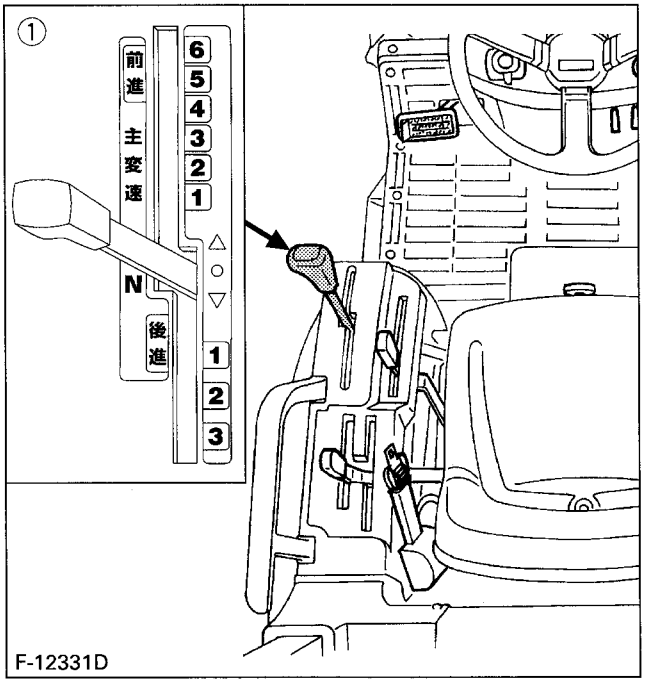
8.クラッチペダルをゆっくり離します。

重　要

＊クラッチの寿命を伸ばすため，半クラッチの使用時間・回数を少なくするように，次の点にご注意ください。

- 速度調節はクラッチで行なわないようにしてください。
- 作業に応じた車速及びエンジン回転を選択してください。
- クラッチペダルの上に足を乗せたまま運転しないでください。知らないうちに半クラッチを使用していることになります。

9.主変速(グライドシフト)レバーをゆっくり操作し発進します。



①主変速(グライドシフト)レバー

重 要

＊グライドシフトレバーを前進または後進にしたままクラッチを使用して発進させないでください。

■主変速(グライドシフト)レバー

注 意

＊安全のため，主変速(グライドシフト)レバーの急激な変速は避けてください。また，前後進の切換えはレバーを“中立”(N)の位置にし，走行をいったん止めてから行なってください。

レバーを前に押して**“前進”**，手前(後)に引いて**“後進”**です。
発進及び走行中にクラッチペダルを踏まずに(ノークラッチ)，変速することができます。
トラクタを効率よく性能を維持して使っていただくために、作業はできるだけエンジン1500回転/分以上で行ないましょう。

補 足

＊前後進とも主変速レバー中立位置から，ラベル1までの間は無段階に車速が選択できますが，それ以降はガイドラベル通り前進６段，後進３段に変速できます。

停車・駐車

警 告

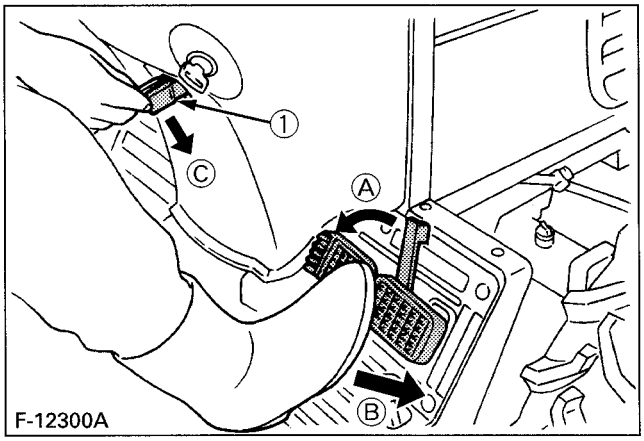
＊グライドシフト(F)仕様は油圧ミッションのため，変速ギヤを入れてエンジンを止めても，エンジンブレーキはききません。駐車後トラクタが動き出さない様，必ず駐車ブレーキをかけてください。

注 意

＊駐車するときは，平坦でトラクタが安定する場所を選び，各変速レバー(主変速・副変速・PTO)を“中立”(N)，作業機を“下げ”，駐車ブレーキを“掛け”，エンジンを“停止”してキーを抜いてください。
やむをえず坂道で駐車する場合は，タイヤに車止めをしてください。
＊乾いた草やワラなど可燃物の堆積した場所には，駐車しないでください。
＊格納などでトラクタにシートをかける場合は，マフラやエンジンが十分冷えてから行なってください。
＊トラクタから降りるときは，ロータリなどのＰＴＯ作業機が完全に止まるまで待ってください。

1.アクセルレバーを前方に押して，エンジン回転をアイドリング状態にします。
2.クラッチ及びブレーキペダルを“踏込み”ます。
3.完全に停止してから，主変速，副変速及びPTO 変速レバーを“中立”(N)にします。
4.作業機を取付けている場合は，油圧レバー(ポジションコントロール)をゆっくり“前方に倒し”作業機を下げます。

5.駐車ブレーキを確実に“ロック”してください。



①駐車ブレーキレバー　Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“下げる”

6.キースイッチを“切”にして，エンジンを停止します。

運転中の作動確認

トラクタの運転中は，各部が円滑に作動しているかどうかを，たえず注意してください。

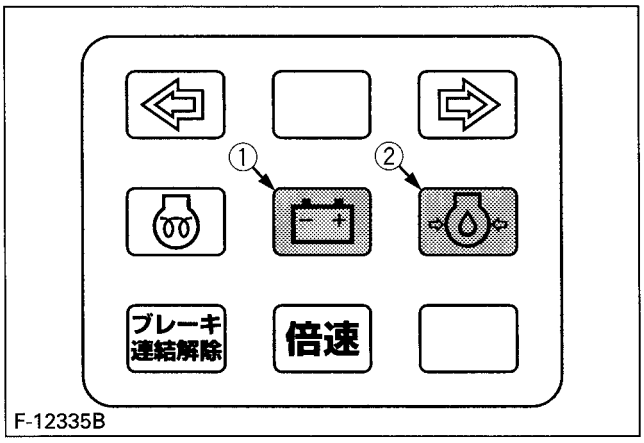
■次の場合には，直ちにエンジンを止めてください。

1. 回転が急に下降したり上昇したりする。
2. 突然，異常な音をたてた。
3. 排気色が急に黒くなった。

運転中，メータ類に異常がないか，またイージーチェッカランプが点灯していないかを，たえず注意してください。

■イージーチェッカ

運転中イージーチェッカ内の下記警告ランプが点灯したとき，すみやかにエンジンを止め，点灯した箇所の点検をしてください。もし原因がわからないときは，購入先にご相談ください。

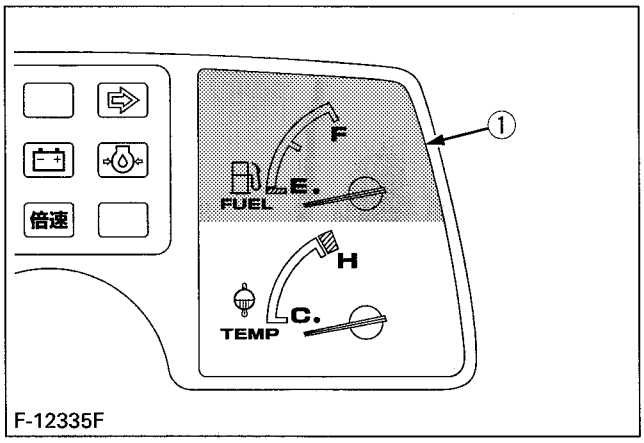


① バッテリチャージランプ
(バッテリ充電警告灯)
エンジン回転中，充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。
キースイッチを**“入”**にすると点灯し，始動すると消灯します。

② エンジンオイルランプ
(エンジン油圧警告灯)
エンジン回転中，潤滑系統が異常のとき点灯するエンジンオイル油圧警告灯です。
キースイッチを**“入”**にすると点灯し，エンジンを始動すると消灯します。
点灯したままのときは，エンジンオイル量を点検してください。

■燃料計

指針が“E”に近づいたら早めに燃料を補給してください。
からにすると燃料系統に空気が入るので，空気抜きが必要です。
(**“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照)



F-12335F

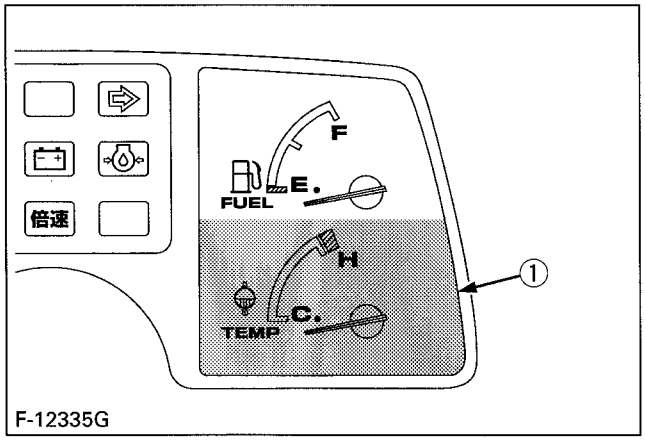
①燃料計

■水温計

注　意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをするおそれがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

指針が**“H”**(レッドゾーン)を示すときは，オーバヒート状態ですから下記に従って点検してください。



F-12335G

①水温計

◆オーバヒートしたときの処置

オーバヒート(水温計の針が**“H”**にあるとき)したときは，

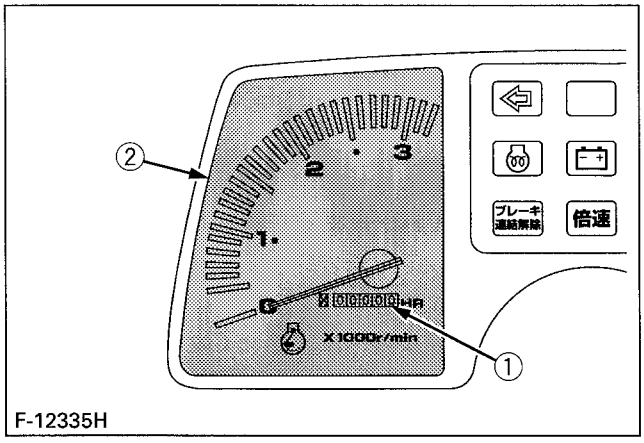
❶作業を中止し，
❷エンジンを約５分間アイドリング回転してから，
❸エンジンを停止し，停止後30分以上たって冷えてから，次の点検・整備をしてください。

1. リザーブタンク，ラジエータの冷却水の量(不足)，及び水もれがないか。
2. 防虫網及びラジエータフィンとチューブの間に，泥やゴミが付着していないか。
3. ファンベルトのゆるみがないか。

重　要

＊リザーブタンクのオーバフローパイプから蒸気が噴き出たら，上記**“◆オーバヒートしたときの処置”**を行なってください。

■トラクタメータ



F-12335H

①積算時間計
②エンジン回転計

◆積算時間計

積算時間計は５桁になっており，初めの４桁は時間，最後の１桁は1/10時間(６倍すると**“分”**単位)を示します。

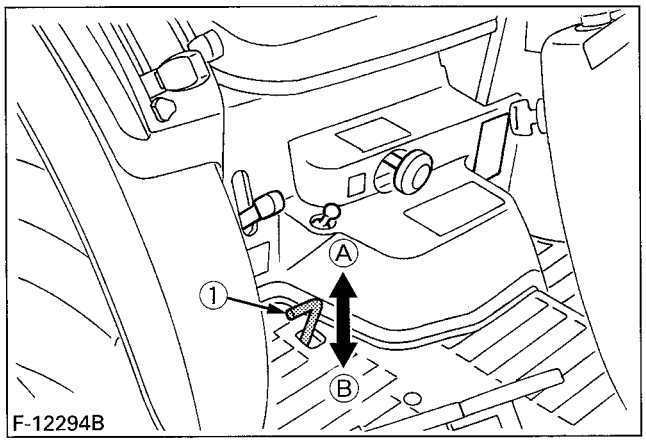
◆エンジン回転計

１分間のエンジン回転速度を示します。

デフロックの使い方

■デフロックペダル

左右の後輪が同じ回転速度で駆動される装置で，スリップ防止に効果があります。
ペダルを踏込む……ロックされる。
ペダルから足を離す…自動的に外れる。



①デフロックペダル　　Ⓐ離す“解除”
Ⓑ踏む“ロック”

◆デフロックの使い方

注　意

＊デフロックを入れたままで旋回できません。旋回の前に必ず解除してください。
＊道路走行時には絶対にデフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなります。

デフロックは，下記のような場合に役立ちます。
1. 農場への出入りやフロントローダ作業時など，片車輪がスリップして直進できないとき。
2. 農場の一部軟弱なところに片車輪が入り込み，スリップして走行がしにくくなったとき。
3. プラウ作業などけん引力を必要とする作業で，片側車輪がスリップしたとき。

重　要

＊デフロックを入れるときは，エンジン回転を下げてから行なってください。
＊抜けにくいときは，ブレーキペダルを左右交互に軽く踏んでください。
＊使用しないときは，足をペダルにのせないでください。

旋回のしかた

注　意

＊高速で回ると，横転するおそれがあります。
デフロックペダルの解除を確認して，できるだけエンジン回転を落とし，ゆっくりと回ってください。

坂道での運転

警　告

＊ブレーキペダルの連結及びデフロックの解除を確認してください。
＊坂道では主変速を中立にしたり，クラッチを切ったりして惰性で走行しないでください。
▶惰性運転をすると，スピードが出すぎて制動不能や，転倒事故を引起こすおそれがあります。
＊急な坂では途中で変速しないでください。あらかじめ安全な車速に変速してから走行してください。
＊グライドシフト(F)仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(グライドシフト)レバーで減速してください。

1. 坂道状況に応じた安全なスピードで，エンジンにできるだけ負担をかけないように走行しましょう。
2. 登り坂ではノッキングさせないように早めに遅い変速位置にしましょう。
3. 下り坂ではエンジンブレーキを活用しましょう。車速を下げるほどエンジンブレーキはよくききます。

ほ場への出入り時の注意

警 告

＊左右のブレーキペダルは，必ず“連結”しておいてください。
＊ほ場への出入りは，高低差が大きいと危険です。アユミ板などを利用してください。
＊ほ場への出入りは，あぜと直角に行なってください。
＊ほ場への出入りの際は，あらかじめ遅い車速で運転し，途中で変速しないでください。
＊グライドシフト(F)仕様は，油圧ミッションのため，標準仕様よりエンジンブレーキがききにくくなります。下り坂は副変速を低速にして十分スピードをおとして走行してください。スピードをさらにおとす必要があるときはクラッチを踏まず，主変速(グライドシフト)レバーで減速してください

注 意

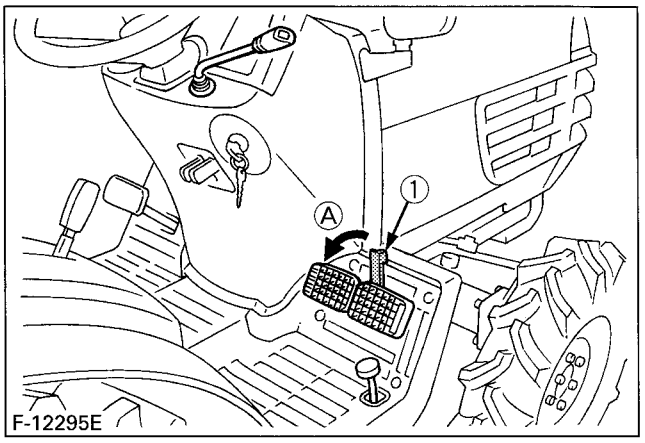
＊倍速ターンレバーは“切”にしてください。

1. 作業機を下げて進むと，前輪が浮き上がりません。常に前・後輪のバランスを考えながら操作してください。
2. あぜを上がるとき，４輪駆動の特色を生かして，バックで上がると格段に上がる能力が増します。

道路走行中の注意

警 告

＊道路を走行するときは，左右のブレーキペダルを必ず連結してください。
連結しないと，ブレーキが片ぎきになり，車体が急旋回して，転倒・転落・衝突などの事故を引起こすおそれがあります。



①連結金具　　Ⓐ“道路走行時連結する”

注 意

＊道路を走行するときは，関係法規を守り安全運転をしてください。
＊運転者のほかは乗せないようにしてください。転落事故の原因になります。
＊溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは，特に路肩に注意してください。
＊トラクタは，ロータリなどの作業機を装着して公道を走行できません。
【道路運送車両法の保安基準】
(作業機を装着して道路を走行すると，他の車・電柱又はガードレールなどにロータリを引掛けて，事故の原因になります。)
＊道路走行時には水平切換スイッチを必ず“切”にして走行してください。

1. 公道走行中進路方向を変えるときは，方向指示器で進路方向を他の自動車に知らせてください。
2. 踏切では，必ずいったん停止し，左右の確認をしてから，速やかに渡ってください。

補 足

＊作業灯は**“道路運送車両の保安基準”**第42条(灯火の色等の制限) において，**“走行中に使用しない灯火”**とされ，点灯したまま道路走行すると他の交通車両の妨害となることから，道路走行中の点灯は禁止されています。

トラックへの積み・降ろし

注 意

＊アユミ板は，十分な強度・幅・長さ(傾斜が15度以下になる長さ：トラック荷台高さの4倍以上)のあるすべり止め付きのものを使用し，トラクタの重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

＊積み・降ろしはあらかじめ遅い車速で運転し，途中での変速はしないでください。

トラックへの積込みは，必ず左右のブレーキペダルを**“連結”**しバックで行なってください。
万一，途中でエンストした場合は，すぐブレーキペダルを踏込み，その後徐々にブレーキをゆるめ，いったん道路まで降ろし，あらためてエンジンを始動してから行なってください。

パワーステアリングの取扱い

注 意

＊パワーステアリングはエンジン運転中，ハンドル操作は大変軽くなりますので，道路走行は慎重に行なってください。

重 要

＊パワーステアリングは，エンジン運転中だけ作動します。
ただし，エンジン回転が低速のときは多少ハンドルが重くなります。
なお，エンジン停止時は，ハンドルの遊びが大きくなりますが，機能上問題はありません。

＊ローダなどの前部装着作業機を使用し，トラクタを止めたままハンドルを操作すると，途中重くなることがあります。このときは，低速でトラクタを移動させながらハンドルを操作してください。

＊ハンドルをいっぱい切ると，安全弁の作動音(リリーフ音) が出ます。この音が鳴ったまま使用しないでください。(短い時間ではかまいません。)
また，ハンドルのフル回転状態での連続使用は，できるだけ避けてください。

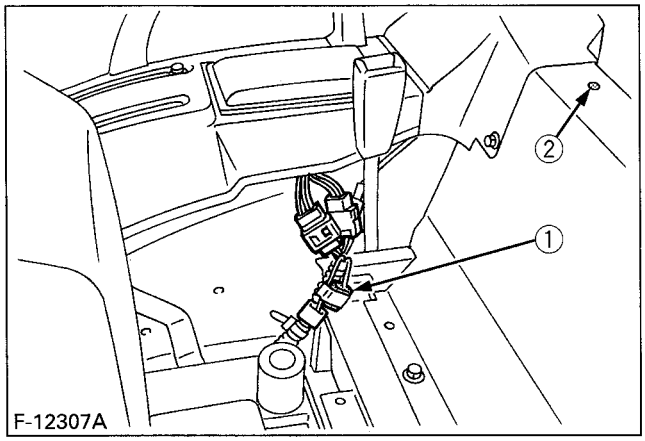
＊不必要なハンドルのスエ切り(走行しないでハンドルを切る)は，タイヤ及びリムなどの損耗を早めるので避けてください。

＊冬期は暖機運転を十分行なってから使用してください。

外部電源取出端子

■作業灯用カプラ

作業灯を使用するときは，シート後部にカプラがあります。



①作業灯用カプラ(白色のカプラ)
②作業灯取付け穴

油圧・三点リンク・PTO

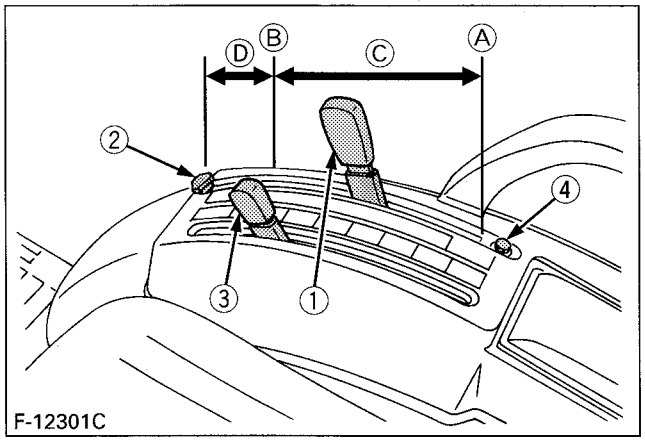
油圧

油圧装置は，クラッチの断続に関係なくエンジン回転中は常に作動します。

■油圧(ポジションコントロール)レバー

油圧レバーは，油圧によって作業機を上下させる装置で，
レバーを後方に引く……作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す……作業機が下降する。

	レバー位置	作業機	作業機の位置
ポジション範囲	下げ方向に移動させる	下がる	この範囲では，作業機を任意の位置にセット・保持できます。
	上げ方向に移動させる	上がる	
フローティング範囲	下げ位置	下がる	この範囲では，作業機はいっぱいまで下がります。



①油圧レバー
②レバーストッパ(下降側)
③オート耕深レバー
【MA仕様】
④レバーストッパ(上昇側)
Ⓐ“上がる”
Ⓑ“下がる”
Ⓒ“ポジション範囲”
Ⓓ“フローティング範囲”

補　足

＊オート耕深レバーの取扱いは，**“モンローマチックオート”**の章を参照。

■レバーストッパ(下降側)の使い方

❶油圧レバーで，希望する作業位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパを固定します。
❸その後は，油圧レバーをレバーストッパに当るまで動かすことにより，同一の作業位置が得られます。

■レバーストッパ(上昇側)の使い方

レバーストッパ(上昇側)は作業機の最上昇位置を規制したい場合のみ調整します。(標準位置は最後方位置)
❶油圧レバーで，希望する最上昇位置を決めます。
❷その位置にレバーストッパ(上昇側)を固定します。

重　要

＊レバーストッパ(上昇側)は，外さないでください。外すと油圧システムに故障が生じるおそれがあります。

■メカポンパレバー【L仕様】

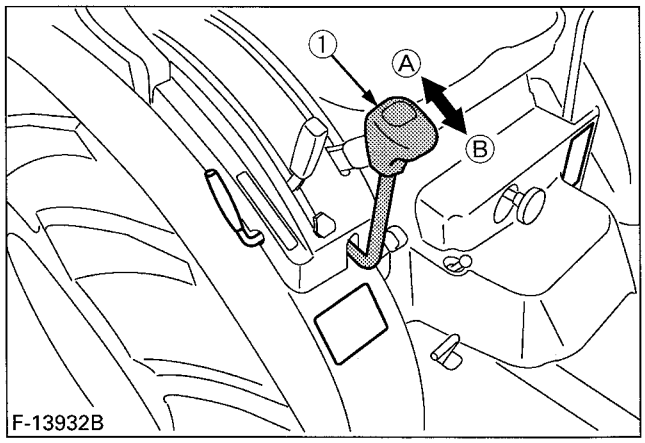
注　意

**＊ロータリ，またはハローでの，ほ場内作業以外ではメカポンパを使用しないでください。
それ以外(移動など)は，油圧レバーを使用してください。**

メカポンパレバー操作で作業機を上下させることができ，ほ場内での旋回操作が便利になります。
レバーを後方に引く…… 作業機が上昇する。
レバーを前方に倒す…… 作業機が油圧レバーセット位置まで下降する。

補　足

＊メカポンパレバーが上昇側にある場合，油圧レバーを下降側に操作しても，作業機は下降しません。



①メカポンパレバー
Ⓐ“上昇”
Ⓑ“下降”

■ロックレバー【L仕様】

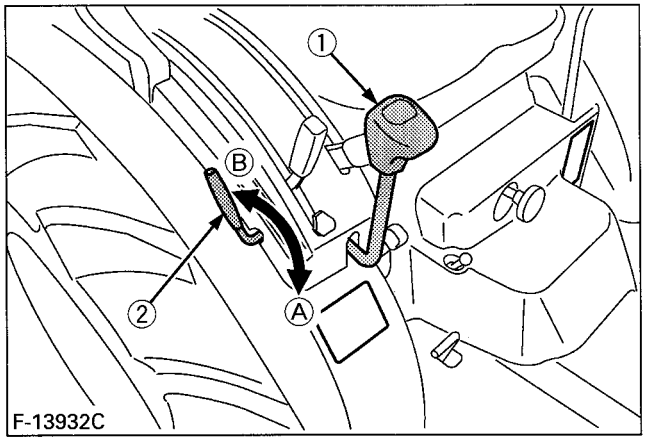
注　意

＊トラクタから降りる際には，ロックレバーでメカポンパレバーをロックしてください。

ロックレバー操作で，メカポンパレバーをロックすることができます。
ロックレバーを前方に倒す…… メカポンパレバーが**“ロック”**されます。
ロックレバーを後方に倒す…… メカポンパレバーのロックが**“解除”**されます。

補　足

＊メカポンパレバーを使用するときには，ロックレバーを後方に倒して，メカポンパレバーのロックを解除してください。



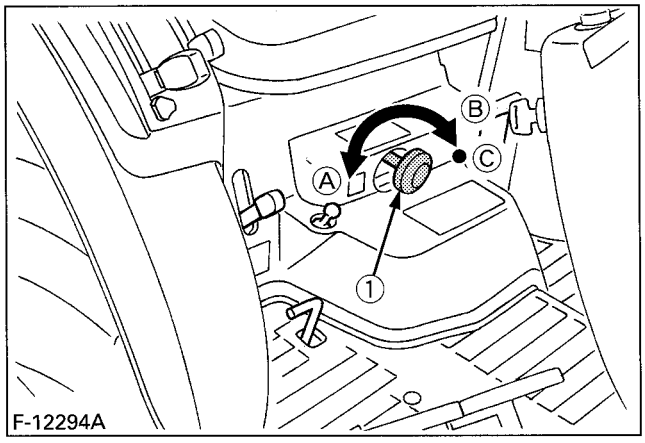
①メカポンパレバー　Ⓐ“ロック”
②ロックレバー　Ⓑ“解除”

■作業機落下速度の調整

注　意

＊ロータリなど作業機を点検する場合は，必ず落下速度調整グリップで，作業機が落下しないようにロックしてください。
落下速度調整グリップでロックした後，油圧レバーを“前方に倒して”，作業機が落下しないことを必ず確認してください。

落下速度調整グリップを回すことにより作業機落下速度が調整できます。



①落下速度調整グリップ　Ⓐ“速い”
Ⓑ“遅い”
Ⓒ“停止”

“速い”方向に回す：
油圧回路が開き，作業機の落下速度が早くなります。

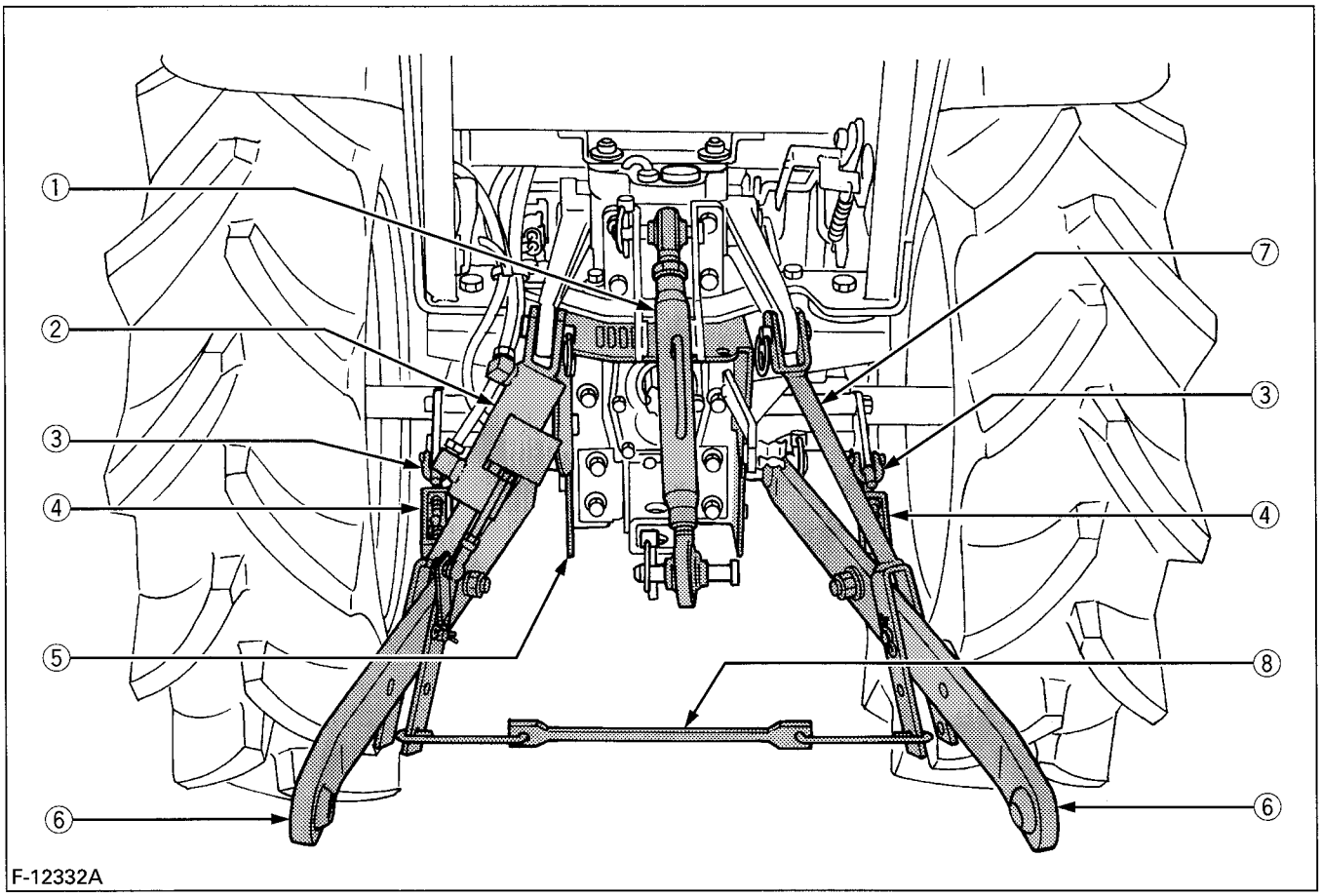
“遅い”方向に回す：
油圧回路が閉じ，作業機の落下速度が遅くなります。
（**“停止”**方向に軽く締込むと，油圧がロック（停止）します。）

ロータリの落下速度は，上昇位置から接地するまで２～３秒が適当です。

重　要

＊グリップは軽く回すだけで油圧がロックされますから無理に回さないでください。

三点リンク



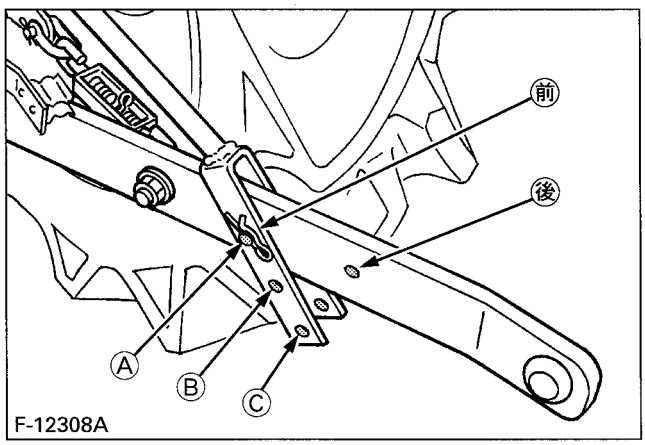
①トップリンク(P仕様：標準三点リンク仕様)
②リフトシリンダ(リフトロッド左)
③チェックチェーン
④ターンバックル
⑤PTO軸カバー
⑥ロアーリンク
⑦リフトロッド右
⑧振止めゴム

1. 三点リンクは，JISO形です。
2. ロータリ用特殊三点リンク仕様から，標準三点リンク仕様に変更される場合は，トップリンクアッシ(品番67950-7171-0)が必要です。

1.インプルメント取付け前の準備

■ロアーリンク取付け穴の選択

1. 特殊三点リンクロータリを使うときは，Ⓐと㊟の取付け穴を使ってください。
2. 一般作業機を使うときは，作業機の説明書に従ってください。



2.作業機の着脱

警 告

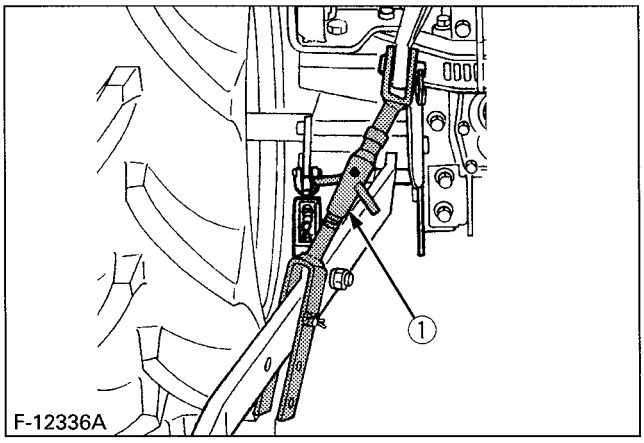
＊作業機を着脱する前，必ずエンジンを止めてください。又，ロータリなどのＰＴＯ作業機は完全に止まるまで待ってください。
＊駐車ブレーキがかかっていないときは，トラクタと作業機の間に入らないでください。
＊作業機の着脱は，固い平坦な場所で行なってください。
＊作業機を取付けたとき，油圧で作業機を上下させ，トラクタとの接触やユニバーサルジョイントの外れがないか点検してください。

■トップリンクの調整

1. 伸縮させて，作業機の傾きを調整してください。
2. トップリンク取付け位置は，作業機の種類によって違います。

■リフトロッドの調整

リフトロッド左を操作して，作業機の傾きを調整してください。
〔**【MA仕様】**の調整方法は**“モンローマチックオート”**の項を参照〕

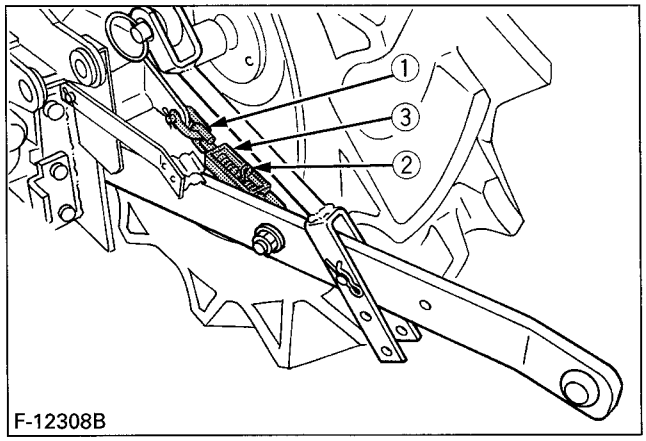


①リフトロッド左

■チェックチェーン

ターンバックルを回して，作業機の横振れを制限してください。
調整後はスナップピンでターンバックルを固定してください。

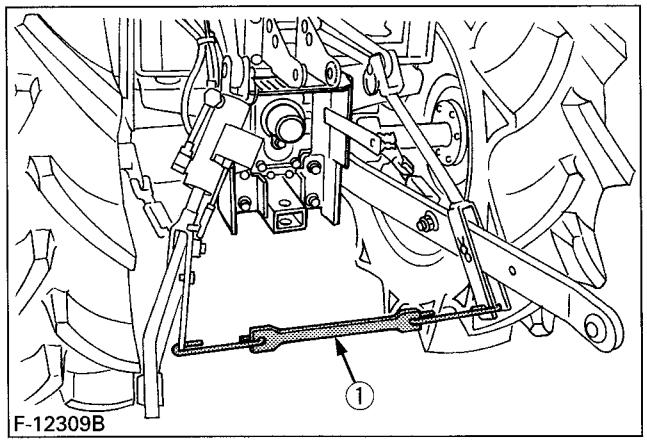
作　業　機	チェーンの張り具合
プラウ，ハロー， サブソイラ， ディガー，	ゆるめる 作業機が横方向に ５～６㎝動く程度 （ロアーリンク，リフトロッドがタイヤと接触しないことを確認してください。）
モアー， ヘイレーキ，テッダ， リッジャ，カルチベータ，	軽く締める
ロータリ	横方向に１～２㎝動く程度



①チェックチェーン
②スナップピン
③ターンバックル

■作業機を取付けないときの注意

作業機を取付けないときは，ロアーリンクが後輪に当らないように，左右振れ止めをしておいてください。



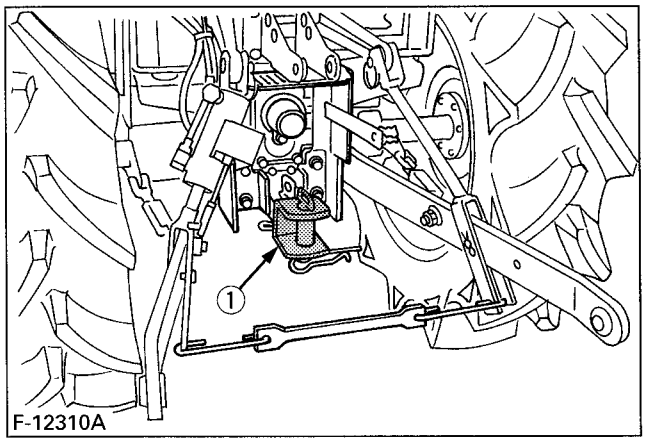
①振止めゴム

けん引ヒッチ
（標準三点リンク（P）仕様以外は別売）

警　告

＊けん引作業をするときは，けん引ヒッチ（別売）を必ず使用し，トップリンクブラケットや車軸などで引張らないようにしてください。
転倒事故を引起すおそれがあります。
＊三点リンクに取付け，PTO軸からユニバーサルジョイントで動力を取出すインプルメント（ロータリ，ブロードキャスタなど）を使用するときは，けん引ヒッチを外してください。
そうしないと，ユニバーサルジョイントがけん引ヒッチに当って破損し，事故を起すおそれがあります。

けん引は，このトラクタ用に採用しているインプルメントのみにしてください。
他の物をけん引する場合は，必ず購入先にご相談ください。



①けん引ヒッチ

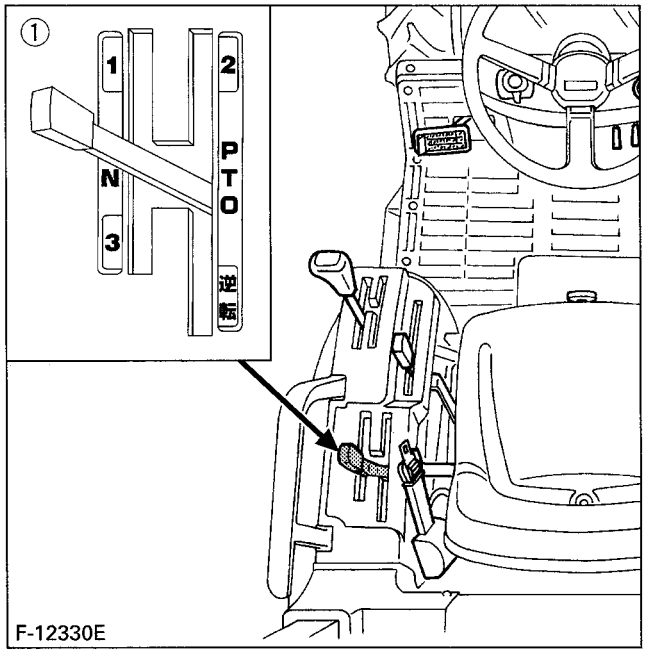
PTO

■PTO変速レバー

注 意

＊作業機に指定されたPTO回転速度を厳守してください。
低速回転で使用すべき作業機を，高速回転で使用しないでください。

PTO軸(動力取出し軸)の回転速度を，正転３段階，逆転１段階に変速できます。
変速操作時は，必ず主クラッチを切ってから行なってください。



①PTO変速レバー　　Ⓝ“中立”

◆PTO“逆転”の使い方【T仕様以外】

1. 使用できる作業機
　＊メーカ指定のロータリに限ります。

重 要

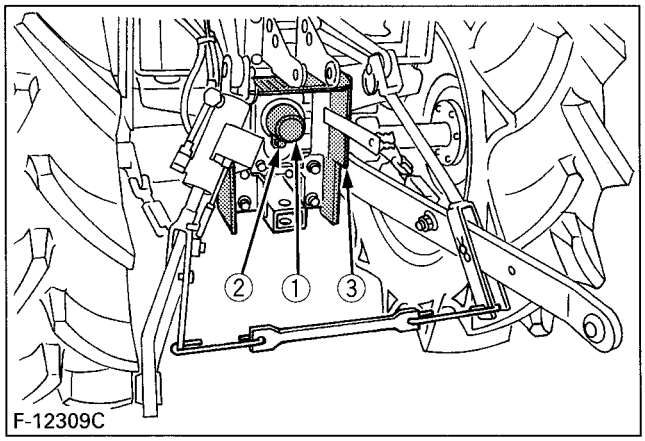
＊メーカ指定以外のロータリを使用すると，作業機の故障の原因になります。

2. 使用できる作業
　＊土寄せ作業
　＊草やワラなどの巻きつきをほぐすとき
3. 使用できない作業
　＊逆転耕うん作業
　＊未耕地や石の多いほ場での土寄せ作業
　＊ロータリの爪を逆に取付けて行なう耕うん作業

■PTO軸キャップ，PTO軸カバー

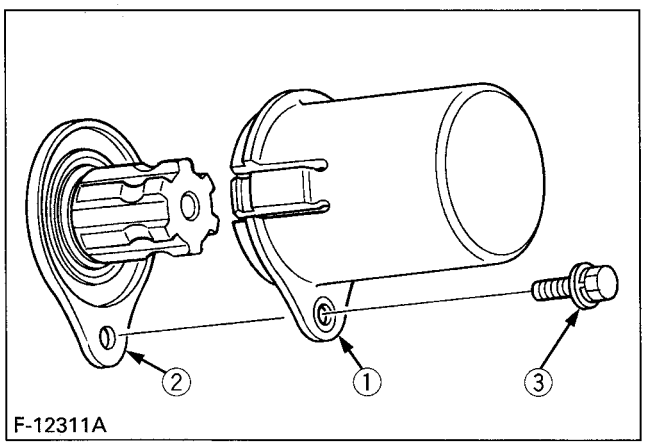
注 意

＊PTO軸を使わないときは，PTO軸にグリースを塗布した後，PTO軸キャップを取付けておいてください。
そうしないと，巻込まれによる傷害事故を引起すおそれがあります。
＊PTO軸キャップを使用しないときは，PTO軸キャップを紛失しないように大切に保管してください。
＊PTO軸カバーは常に取付けておいてください。
＊PTO軸カバーの上に乗らないでください。



①PTO軸キャップ
②ボルト
③PTO軸カバー

◆PTO軸キャップの取付け方



①PTO軸キャップ
②ガイド
③ボルト

❶PTO軸キャップをガイドにはめ込みます。
❷付属のボルトで固定します。

モンローマチックオート【MA仕様】

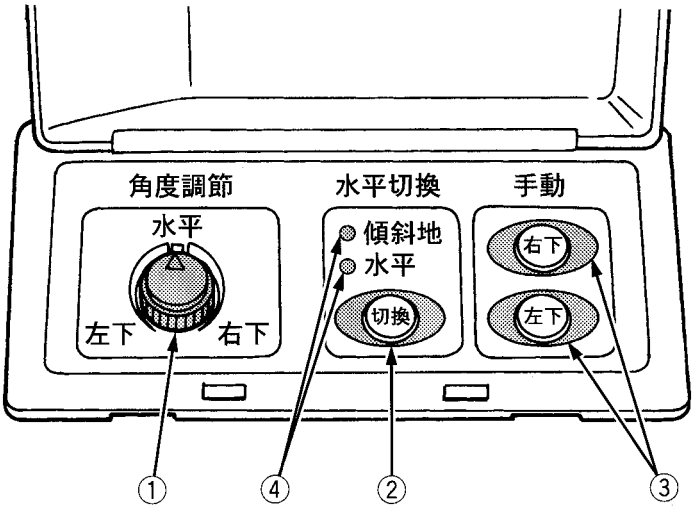
モンローマチックの取扱い

モンローマチックは，マイクロコンピュータで電子制御を行なっております。正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■各部の名称

重　要

＊スイッチですので軽い操作力で作動します。無理な力を加えないでください。



F-12312A

①角度調節ダイヤル
②水平切換スイッチ
③手動スイッチ
④スイッチランプ

■水平切換スイッチ

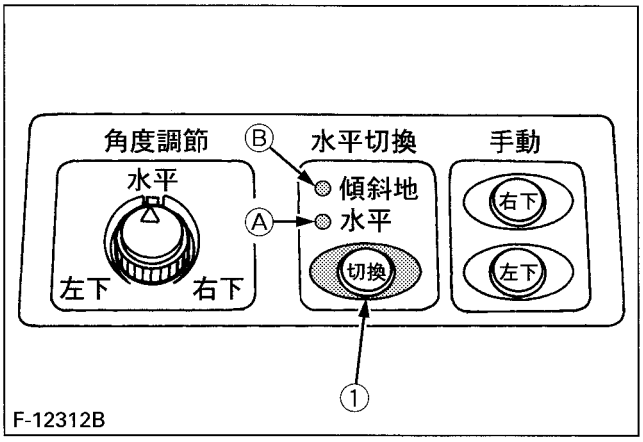
注　意

＊走行時は必ず“切”にして走行してください。
また，落下速度調整グリップを回して油圧をロックし作業機の落下を防止してください。

スイッチを押す毎に**“水平➡傾斜地➡切(手動)”**の順に切り換わります。

下記作業に応じ，いずれかを選択してください。

水平選択時…スイッチランプ(A)点灯
傾斜地選択時…スイッチランプ(B)点灯
切(手動)選択時…スイッチランプ(A・B)消灯



①水平切換スイッチ　　Ⓐスイッチランプ(A)
Ⓑスイッチランプ(B)

◆水平

トラクタ本体の傾きにかかわらず作業機を常に水平または地面に対し一定の角度に保ちたいとき使用します。

1.角度調節ダイヤルが**“水平”**位置の場合
(作業機は常に水平に保たれます。)
＊水田でのあぜ際耕うん，枕地，凸凹地での均平耕うん
＊整地板・代かきロータリなどによる均平作業
＊畑での畝立て，畝崩し作業その他

2.角度調節ダイヤルが**“水平”**位置以外の場合
(作業機は水平面に対して常に一定の角度に保たれます。)
＊広幅畝立て，その他

補　足

＊水平切換スイッチが**“水平”**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

◆傾斜地

傾斜のあるほ場で，作業機を常にほ場面と平行に保ちたいとき使用します。

＊適応作業：傾斜のある畑の耕うん・仕上げ作業
(マルチ・リッジャ等)

補　足

＊水平切換スイッチが**“傾斜地”**の場合，作業機を上端付近まで上げたときは，作業機の姿勢は本機に平行に保持されます。

＊**“傾斜地”**選択時，凹凸の激しいほ場で十分な精度が得られない場合は，**“切”**(手動)で使用してください。

＊**“傾斜地”**選択時，斜面と作業機の傾きの差が著しく大きいときは，手動スイッチにより，傾きの差が小さくなるように補正できます。
- トラクタが水平状態にあるときは調整できません。
- 調整幅いっぱいまで動かしても傾きの差が大きいときは，**“切”**又は**“水平”**で使用してください。
- エンジンを再始動すると，補正量は標準値に戻ります。

◆切(手動)

モンローマチックの自動制御が解除され，**位置制御**になります。

＊適応作業：メロンなどの高畝作り・作業機の脱着

補　足

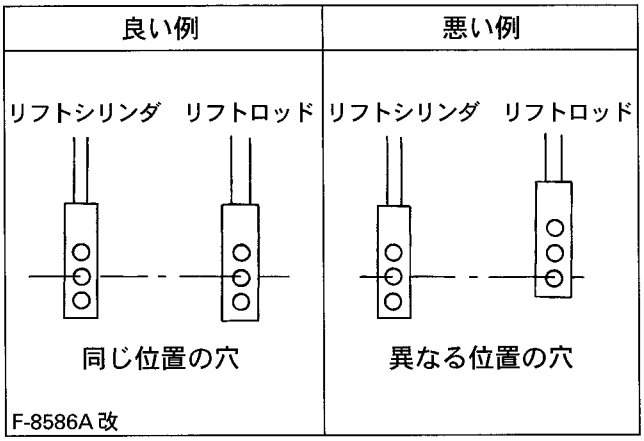
＊水平切換スイッチが**“切”**(手動)では，作業機を上端付近まで上げても，作業機の姿勢は本機と平行にはなりません。
従って，取付けている作業機を上げるときは注意してください。

＊**位置制御**とは：
このモードは，プラウ作業などで，常にリフトシリンダの位置を一定に保ちたい場合に使用します。
水平切換スイッチを**“切”**(手動)にすると，リフトシリンダの長さを**“手動”**スイッチで設定した長さに制御します。したがって，車体が傾いても長さは，変化しません。
リバーシブルプラウでの口開け作業などでは，リフトシリンダを**“手動”**スイッチで適当な長さに合せて，耕起できます。通常に耕起する場合には，水平切換スイッチを**“水平”**に入れ，油圧レバーを上げると，リバーシブルプラウは車体と平行になります。
その状態で水平切換スイッチを**“切”**(手動)にしてください。

重 要

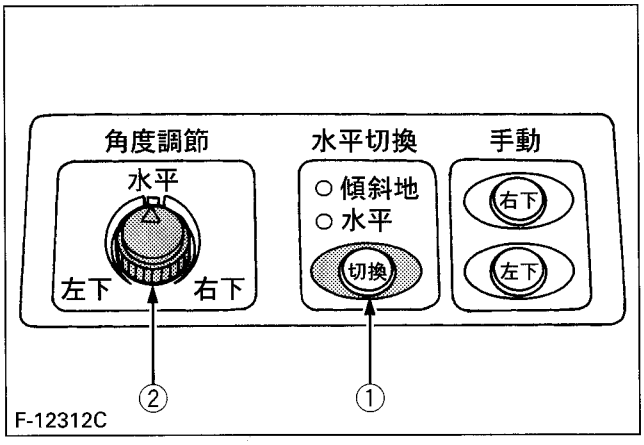
＊モンローマチックが不要の場合(フロントローダ作業などの場合)には，**"切"**で作業してください。
＊**"手動"**で作業機を傾斜させているとき，作業機を上端に上げると，ジョイント騒音が高くなる場合がありますので注意してください。
＊チェックチェーンを張りすぎますと，モンローマチック作動時に三点リンクに無理な力が加わりますので，チェックチェーンは手で軽く締める程度にしてください。

リフトロッドとリフトシリンダ先端部の取付け穴は，左右対称になるようにしてください。



■角度調節ダイヤル

水平切換スイッチが**"水平"**の場合，作業機の姿勢を調節するときに角度調節ダイヤルを使用します。

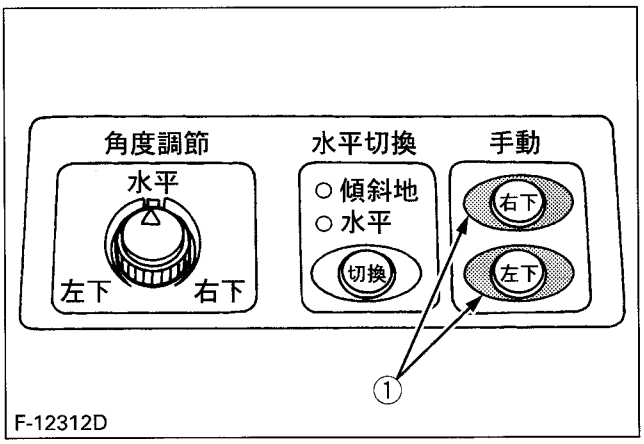


①水平切換スイッチ
②角度調節ダイヤル

1. ダイヤルを**"水平"**位置にすると，作業機は水平に保持されます。
2. ダイヤルを**"左下"**方向に回すと，作業機が左下りに保持されます。
3. ダイヤルを**"右下"**方向に回すと，作業機が右下りに保持されます。

■手動スイッチ

作業機の姿勢を調節するときに使用します。
水平切換スイッチの選択状態により，スイッチの働きが変わります。



①手動スイッチ

◆水平切換スイッチが"切"(手動)のとき

"左下・右下"：作業機をトラクタに対して傾けて使用したいときに使用します。作業機はスイッチから手を離した任意の角度に保持されます。

◆水平切換スイッチが"水平"のとき

"左下・右下"：作業機を水平に対して傾けて使用したいときに使用します。作業機はスイッチを押している間，押している側へ傾きを増し，スイッチから手を離すと角度調節ダイヤルで定めた位置に戻ります。

◆水平切換スイッチが"傾斜地"のとき

"左下・右下"：斜面に対し作業機の傾きの差を補正したいときに使用します。

■故障・異常の表示

水平制御の部品に異常が発生した場合は，水平切換スイッチ部のスイッチランプ(２個)が点滅します。この場合，安全のため機能の一部が働かなくなります。

◆緊急時の対応方法

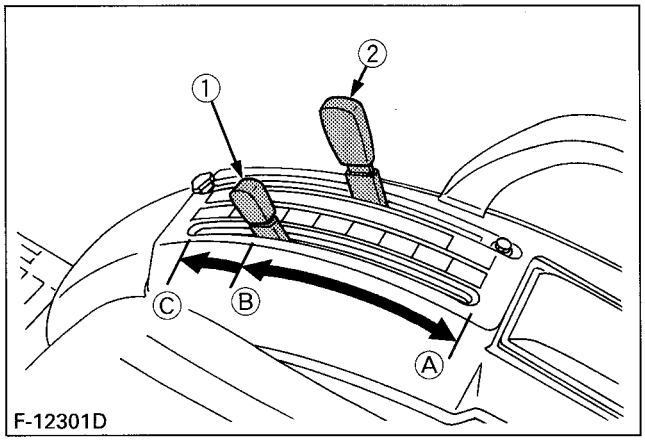
● 作業機の傾け方
水平切換を**"切"**(手動)にし**"左下・右下"**スイッチで作業機を傾けます。

メカオートの取扱い

後２輪を外したオート耕うん作業で，より一層の小まわり作業ができ，後２輪跡のないきれいな仕上りが得られます。
なお，オート耕うんの仕上りは装着している作業機の調整によっても大きく変わります。トラクタと作業機の正しい取扱いですぐれた性能を発揮させてください。

■オート耕深レバー

このレバーでオート耕うんの**“切”**及び**“入”**(耕うん深さの自動設定)が行なえます。
(1)オート耕深レバーを**“浅”**方向にすると，ロータリの耕深が浅く保持されます。
(2)オート耕深レバーを**“深”**方向にすると，ロータリの耕深が深く保持されます。
(3)オート耕深レバーを**“切”**位置にすると，オートが切となります。
(4)ロータリの上げ下げは，外側の油圧レバーで行ない，作業中油圧レバーは一番下にしておいてください。



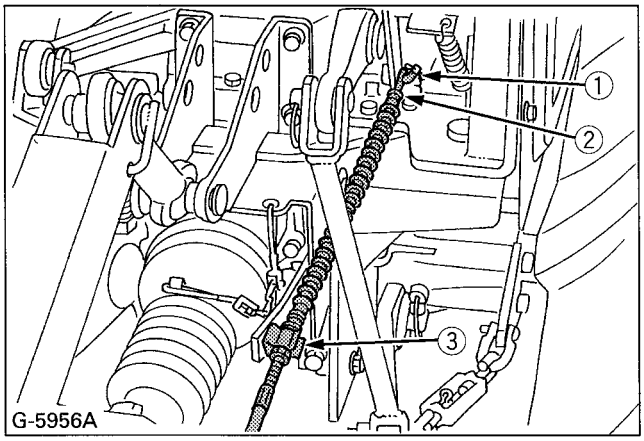
①オート耕深レバー
②油圧レバー
Ⓐ“浅”
Ⓑ“深”
Ⓒ“切”(オート切)

補　足

＊目盛りは深さの目安として表示しています。同じ目盛り位置でも，ほ場条件が変わると深さの設定が変わります。
＊畝立て作業や片培土作業などロータリカバーを持上げて作業を行なうとき，あるいは後２輪を取付けてロータリ作業を行なうときはオート耕うんが作動しない状態(オート耕深レバーを**“切”**位置)にしてください。
もし，**“オート切”**位置にせず，オート耕深レバーを**“浅”**方向にすると，リリーフが作動し油圧系統の故障原因となります。

■ロータリ着脱時の注意

ロータリの着脱時には，(３点リンク，ジョイントと共に)オートケーブルの着脱が必要です。
❶オート耕深レバーを下げ**“切”**位置にします。
❷スナップピンを外し，オートケーブルの先端をピンから外します。
❸オートケーブルを，固定金具から外します。



①スナップピン
②オートケーブル
③固定金具

補　足

＊外したスナップピン・ケーブルは，紛失したり傷めたりしないよう大切に保管してください。

タイヤ・ウエイト

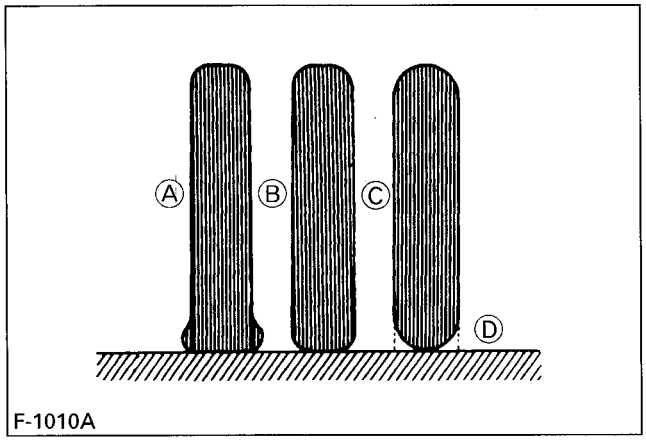
タイヤ

警 告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)

■タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次のとおりです。



F-1010A

Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

	タイヤ	空気圧 kPa(kgf/㎠)
前輪	5.00-12	120 (1.2)
	6-12	200 (2.0)
	6.00-12	180 (1.8)
	22×8.50-12	160 (1.6)
後輪	8-18	160 (1.6)
	8.3-20, 8.3-22	160 (1.6)
	9.5-20	140 (1.4)
	31×13.5-15	140 (1.4)

輪距の調整【T仕様以外】

注 意

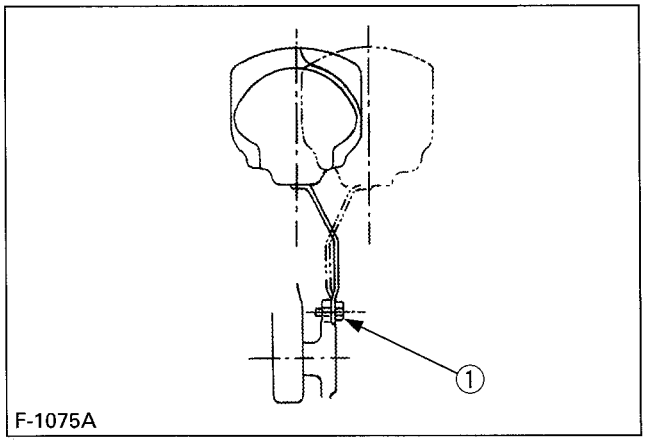
＊けん引作業・傾斜地作業・フロントローダ作業などの場合は，左右の安定を良くするため，支障のない範囲で輪距を広くして使用してください。

■前輪

前輪の輪距は変更できません。

■後輪

後輪輪距は２段階に調節できます。



F-1075A

①ボルト(４本)，ナット(２個)

重 要

＊決められた輪距以外では使用しないでください。

補 足

＊タイヤは，側面の矢印が前進時の回転方向に合うように取付けてください。
＊ストレークは，最小輪距のときだけ取付けられます。
＊後輪ウエイトは，すべての輪距で取付けられ ます。

ウエイト

警 告

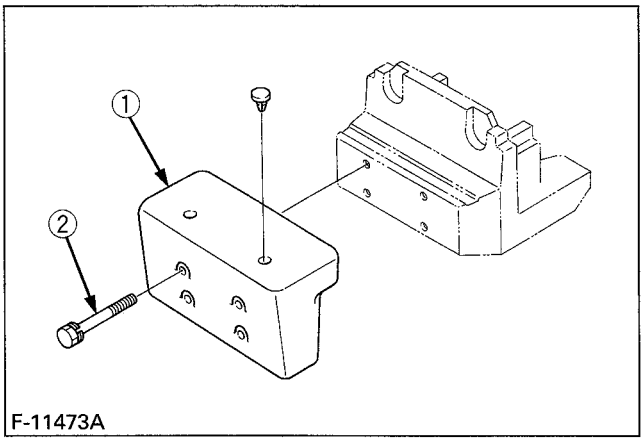
＊トラクタ後部用作業機を装備したとき，かじ取り車輪(前輪)にかかる荷重が総重量の20%以上になるようにバランスウエイトを装備し，使用してください。
＊装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪(前輪)にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。
＊フロントローダを使用するときは，安定性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装着してください。(詳細は購入先にご相談ください。)

■ウエイト(オプション)

ウエイトは下記の３種類があります。
ウエイトの必要枚数は使用するインプルメントの取扱説明書や購入先にご相談ください。

◆バンパウエイト(25kg)の取付け方法 (RSP140ロータリに標準)

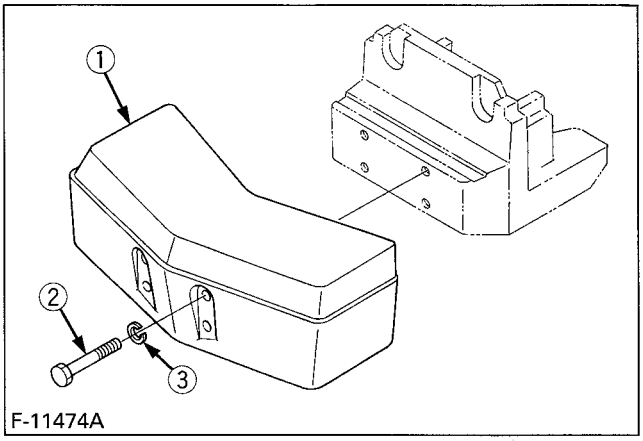
トラクタのフロントバンパにウエイトを付属のボルトで固定します。



①バンパウエイト(25kg)
②ボルト

◆バンパウエイト(40kg)の取付け方法 (RSP150・160ロータリに標準)

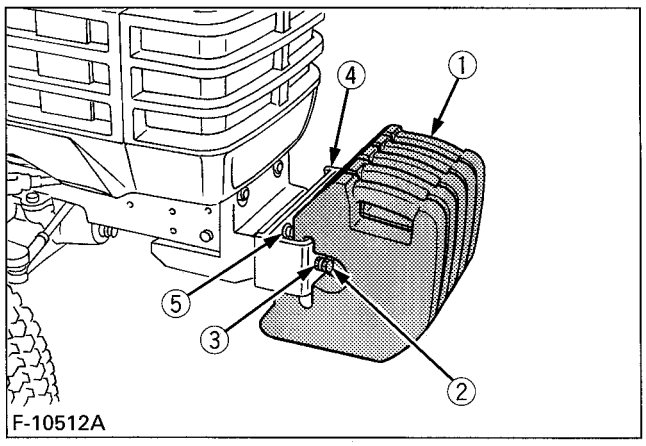
トラクタのフロントバンパにウエイトを付属のボルト・バネザガネで固定します。



①バンパウエイト(40kg)
②ボルト
③バネザガネ

◆ハンガウエイト(25kg)の取付け方法

❶ウエイト取付け台(オプション)をボルトで取付けます。
❷ハンガウエイトをウエイト取付け台にひっかけ，ボルト，ナットで固定します。
ウエイト１枚の重量は25kgで１～５枚取付けできます。



①ハンガウエイト
②ボルト
③ナット
④ウエイト取付け台
⑤ボルト

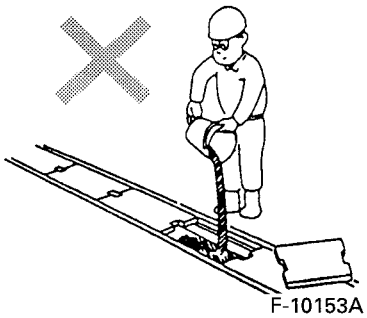
トラクタの簡単な手入れと処置

注　意

＊給油及び点検整備するときは
❶トラクタを平たんな広い場所に置き
❷作業機を降ろし
❸駐車ブレーキをかけ
❹エンジンを止め
❺キーを抜き，安全を確認してから行なってください。
そうしないと傷害事故を引起すおそれがあります。

廃油処理について

＊抜取った廃油は廃油処理業者へ依頼し，処理してください。
＊廃油を溝や空地などに絶対に捨てないでください。



定期点検箇所一覧表　〔専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは，購入先にご相談ください。〕

次の定期点検箇所に従って，定期点検を実施しましょう。

No.	項目		時期	アワーメータ表示時間 50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	それ以後	参照ページ
1	エンジンオイル	年間使用時間が100時間以上の場合	交換	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	49
		年間使用時間が100時間以内の場合	交換																	1年ごと	49
2	エンジンオイルフイルタ		交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	53
3	ミッションオイル		交換	◎					○						○					300時間ごと	55
4	油圧オイルフイルタ		交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	53
5	油圧ミッションオイルフイルタ【F仕様】		交換	◎			○				○				○				○	200時間ごと	53
6	フロントギヤーケースオイル		交換	◎					○						○					300時間ごと	55
7	前車軸ケースオイル		交換						○						○					300時間ごと	56
8	グリースの注入		－	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	46
9	エンジン始動システム		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	46
10	倍速ターン高速けん制装置の点検		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	47
11	タイヤ取付けボルト		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	47
12	ワイヤハーネス，バッテリコード		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	47
13	クラッチハウジング		水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	48
14	パワーステアリングホース		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	48
			交換																	2年ごと	58
15	燃料パイプ		点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50時間ごと	48
			交換																	2年ごと	58
16	バッテリ電解液		点検		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	49
17	エアクリーナエレメント シングルエレメント		清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	51
			交換																	1年又は6回清掃ごと	57
18	エアクリーナエレメント ダブルエレメント【オプション】	アウター	清掃		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	51
			交換																	1年又は6回清掃ごと	57
		インナー	交換																	アウター交換時	57
19	ファンベルト		調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	51
20	クラッチペダル		調節	◎	○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	52
21	ブレーキペダル		調節		○		○		○		○		○		○		○		○	100時間ごと	52
22	トーイン・タイロッド		点検				○				○				○				○	200時間ごと	54

【注】◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。
バッテリ電解液は年間使用時間が100時間以内の場合，１年ごとに点検を行なってください。

No.	項目	時期	アワーメータ表示時間															それ以後	参照ページ
			50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	
23	ラジエータホース	点検				○				○				○				○	200時間ごと	54
		交換																	2年ごと	58
24	燃料フイルタ	交換								○								○	400時間ごと	56
25	前部デフケース前後遊び	調節												○					600時間ごと	57
26	エンジンバルブクリアランス	調節																○	800時間ごと	57
27	ラジエータ	洗浄																	2年ごと	58
28	冷却水	交換																	2年ごと	57
29	モンローシリンダホース【MA仕様】	交換																	2年ごと	58
30	燃料系統の空気抜き	―																	必要に応じて	59
31	ヒューズ類	交換																	必要に応じて	59
32	ランプ類	交換																	必要に応じて	59

【注】◎はならし運転の50時間後に必ず行なってください。

給油(水)一覧表

■トラクタの給油(水)

給油(水)項目	容量(L)	使用オイル
燃料	20	ディーゼル軽油
冷却水(ラジエータ)	3.1	清水(不凍液を入れた場合は，その量だけ少なく清水を入れてください。)
冷却水(リザーブタンク)	0.6	
エンジンオイル	3.8 (オイルゲージ上限全量，フィルタ部も含む。)	クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30，CC級又はCD級
ミッションオイル	12	クボタ純オイル スーパーUDT 又は バイオスーパーUDT
フロントギヤーケースオイル	2.3	
前車軸ケース	4.6	
グリースの注入 ・クラッチペダル ・ブレーキペダル ・リフトロッド左【MA仕様以外】 ・トップリンク【標準3P仕様】	少量	極圧(万能)グリース
グリースの塗布 ・関接球 ・チェックチェーン	塗布	

推奨オイル・グリース一覧表

必ず下表の指定オイルを使ってください。

■エンジンオイル・ミッションオイル

メーカ	エンジンオイル	ミッションオイル フロントギヤーケースオイル 前車軸ケースオイル
新日本石油	クボタ純オイル (ディーゼルエンジン用) D30又はD10W30	クボタ純オイル スーパーUDT 又は バイオスーパーUDT
コスモ石油		
ジャパンエナジー		
昭和シェル石油		
富士興産		

★バイオスーパーUDT油は万一事故でオイルが土壌、河川、沼地、海等に流出した場合，微生物などにより成分のほとんどが分解され環境汚染を防ぐことができる潤滑油です。

■グリース

メーカ	商品名	用途
新日本石油	エピノックグリースAP2	極圧(万能)グリース
コスモ石油	ダイナマックスEP 2	
ジャパンエナジー	JOMO リゾニックスEP2	
昭和シェル石油	アルバニヤEPグリース2	
富士興産	フッコールEP2	
出光興産	ダフニーエポネックスSR2	
モービル	モービラックスEP2	
エッソ/ゼネラル	ビーコンEP2	
協同油脂	マルテンプPS2	ホーン接点用グリース

ボンネットの開閉
及びサイドカバーの外し方

注 意

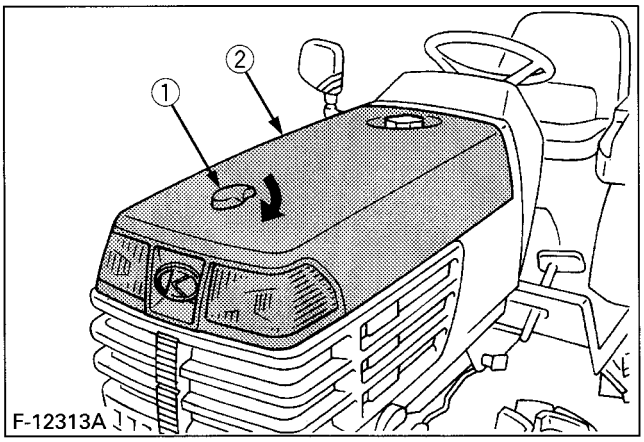
＊エンジン回転中は絶対にボンネットを開けないでください。
＊マフラが熱いときさわらないでください。ヤケドすることがあります。

■ボンネットの開閉

注 意

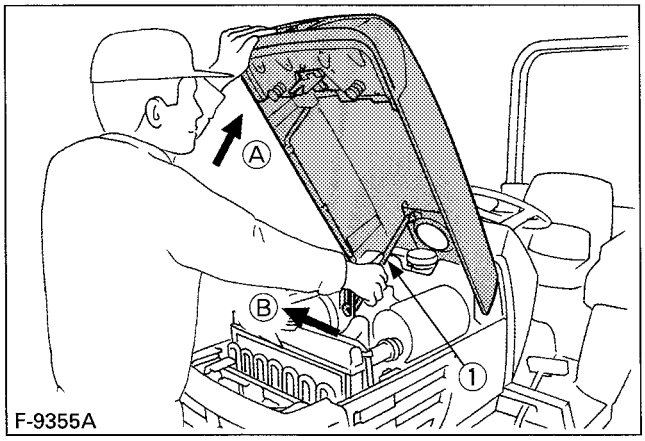
＊ボンネットを開き点検・調整するときは，必ずボンネット固定金具が“ロック”されたか確認してから作業をしてください。

❶ボンネットを開けるときは，マスコットを“矢印”の方向に回すとロックが外れ，ボンネットの先端を持ち上げると開きます。



①マスコット
②ボンネット

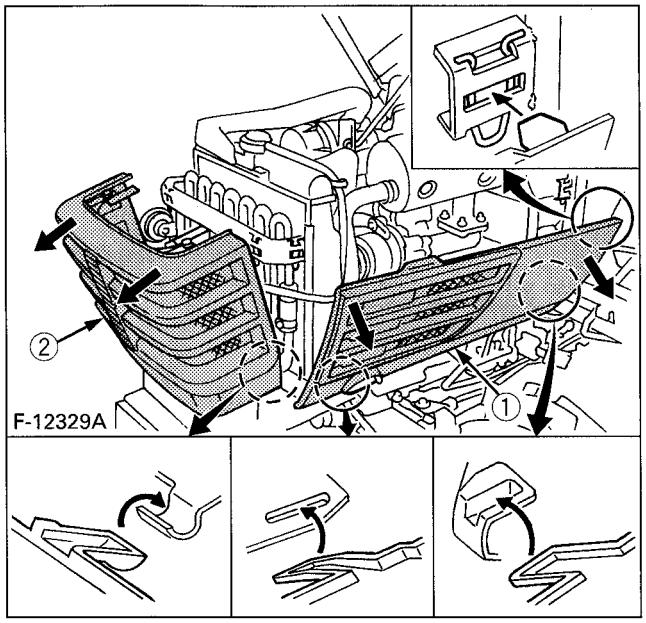
❷ボンネットを閉めるときは，ボンネット固定金具を手前に引き“解除”してから閉じてください。



①ボンネット固定金具　Ⓐ“ささえる”
Ⓑ“引く”

■フロントグリル及びサイドカバーの外し方

❶カバーの矢印部を外側に引くとカバーは外れます。
❷カバーを取付けるときは，カバー下側のノッチ部を合わせ，矢印部を内側に押し取付けてください。



①サイドカバー
②フロントグリル

日常点検

注 意

＊火気厳禁
＊点検をするときは，必ず作業機を降ろしエンジンを停止してから行なってください。
＊燃料・オイルがこぼれた場合は，きれいにふき取ってください。
＊トラクタは常に清掃しておいてください。
バッテリ，配線，マフラやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因になります。
＊運転中及び停止直後は，ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹き出してヤケドをすることがあります。
＊エンジン周囲のカバー類を開けて点検・整備するときは，内部が十分に冷え，ヤケドのおそれがないことを確認してから行なってください。

1.前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば，使用前に支障がないか点検してください。

2.トラクタの回りを歩いて

1. ボルトやナットのゆるみ及び作業機取付けピンの脱落
2. 車体各部の変形や損傷
3. 油や水もれなど異常がないか，点検してください。

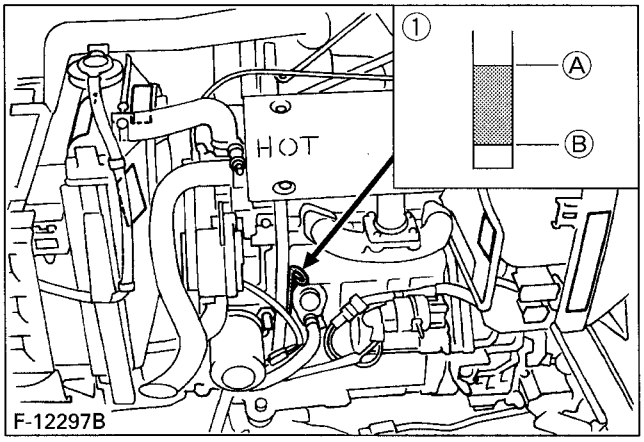
■エンジンオイルの量及び汚れ

注 意

＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。



①オイルゲージ　　Ⓐ“上限”
Ⓑ“下限”

重 要

＊点検するときは，トラクタを水平な場所に置いてください。傾いていると正確な量が示されません。

＊オイル量はエンジン始動前か，エンジンを止めてから約5分以上たってから点検してください。そうでないと，オイルがまだエンジン各部に残っており正確なオイル量は測れません。

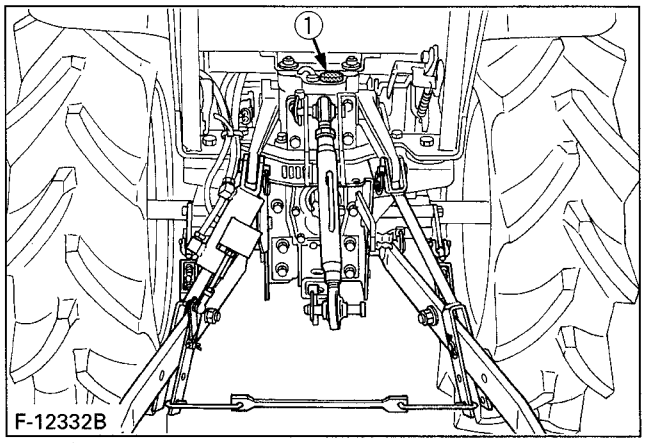
■ミッションオイルの量及び汚れ

注 意

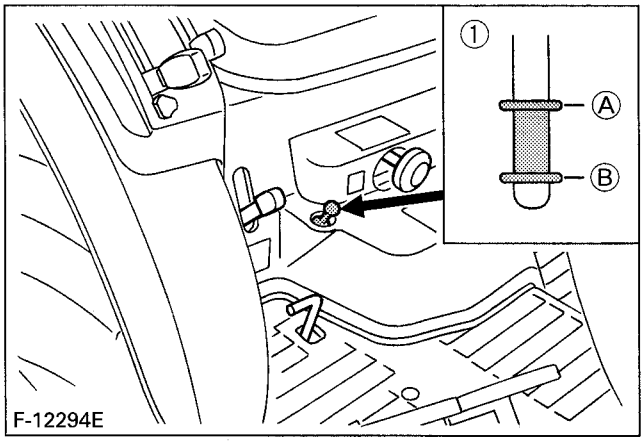
＊点検をするときは，必ずエンジンを止めてから行なってください。

❶オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき，差込んでから再び抜き**“下限と上限の間”**にオイルがあるかを調べます。ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。

❷**“下限”**以下の場合は補給してください。ただし，**“上限”**以上には入れないでください。



①給油口



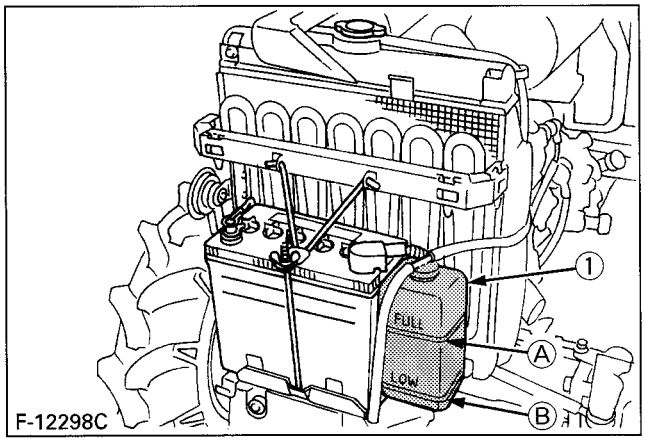
①オイルゲージ　　Ⓐ“上限”
Ⓑ“下限”

■冷却水の量

注　意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

ラジエータには，リザーブタンクが付いており，ラジエータ内の冷却水が少なくなると，リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。
冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。**“FULLからLOWの範囲”**であれば正常です。冷却水がLOW以下の場合は，FULLのレベルまで補給してください。
FULL以上は入れないでください。



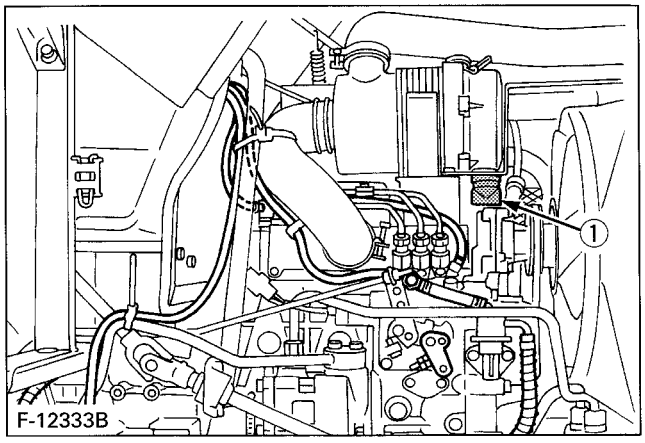
①リザーブタンク　　Ⓐ“FULL”
Ⓑ“LOW”

補　足

＊ラジエータ本体のキャップは，冷却水点検及び交換するとき以外開けないでください。

■バキュエータバルブの清掃

バキュエータバルブを開き，ゴミを取除いてください。水分があるときは，エアクリーナを掃除してください。



①バキュエータバルブ

■燃料フィルタの水，沈殿物の点検

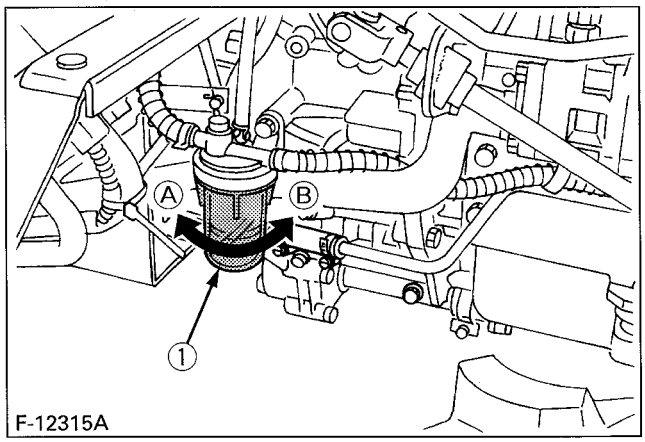
燃料中に含まれる水・ゴミがフィルタ内に沈殿します。水・ゴミがたまったら，カップを**“ゆるむ”**方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄してください。

補　足

＊フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。
しかし，燃料が満タンに近い場合は，燃料戻りパイプからフィルタに燃料が逆流しますので，燃料が半分以下のときに実施してください。

重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊フィルタを外したときは，必ず空気抜きを行なってください。
（**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照）



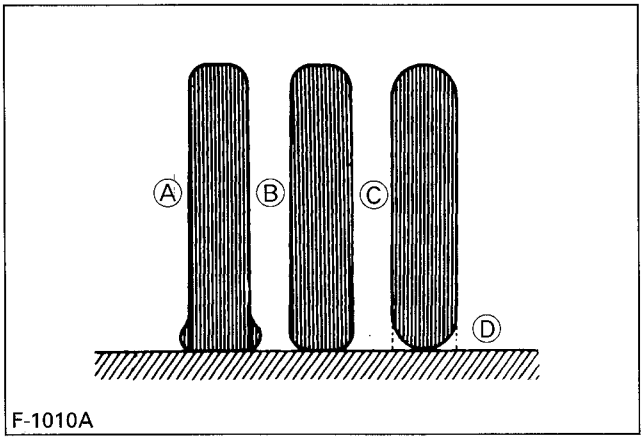
①燃料フィルタカップ　　Ⓐ“ゆるむ”
Ⓑ“締まる”

■タイヤの空気圧，及び摩耗，損傷

警　告

＊タイヤの空気圧は，取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。
空気の入れ過ぎは，タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。
＊タイヤに傷があり，その傷がコード(糸)に達している場合は，使用しないでください。
タイヤ破裂のおそれがあります。
＊タイヤ，チューブ，リムなどの交換，修理は，必ず購入先にご相談ください。
(特別教育を受けた人が行うように，法で決められています。)

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。
外観から判断する目安はつぎのとおりです。



Ⓐ空気が不足
Ⓑ標準
Ⓒ空気が多い
Ⓓ接地面

◆標準空気圧

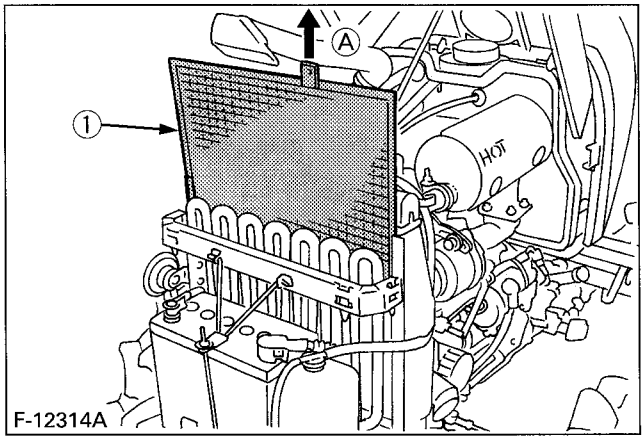
	タイヤ	空気圧　kPa (kgf/cm²)
前輪	5.00-12	120 (1.2)
	6-12	200 (2.0)
	6.00-12	180 (1.8)
	22×8.50-12	160 (1.6)
後輪	8-18	160 (1.6)
	8.3-20, 8.3-22	160 (1.6)
	9.5-20	140 (1.4)
	31×13.5-15	140 (1.4)

■防虫網の清掃

注　意

＊エンジンを必ず停止して清掃してください。

水田や夜間作業に使用すると，防虫網に草の実やこん虫が付着し詰まることがありますので，こんなときは防虫網を清掃してください。
防虫網を引出して掃除します。



①防虫網　　Ⓐ“引出す”

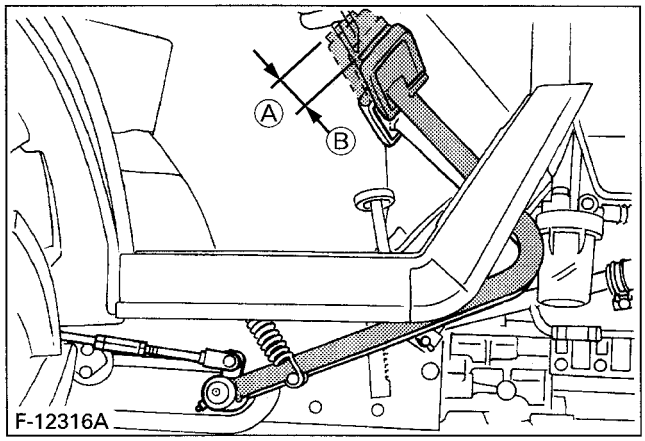
3.運転席に座って

■ブレーキペダルの遊び・点検

警 告

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。常に作動状態に注意してください。

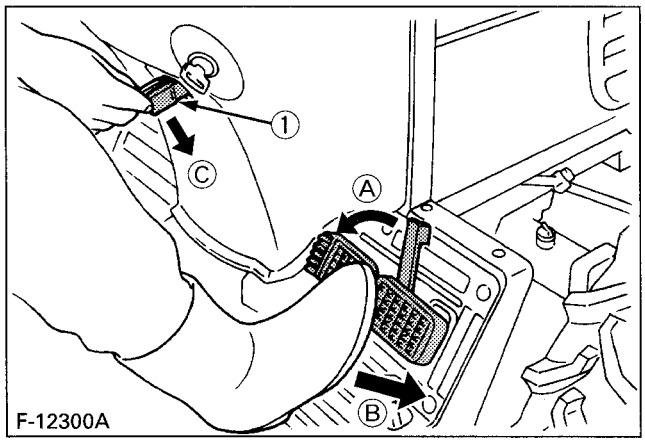
ペダルを踏んで遊び量が**“20～30㎜”**かどうか，また左右ブレーキの踏込み量の差が**“5㎜以内”**かどうかを調べます。
（調整のしかたは**“100時間ごとの点検・整備”**の**“ブレーキペダルの点検・調整”**の項を参照）



Ⓐ“遊び”
Ⓑ“この位置での左右差
5㎜以内”

■駐車ブレーキの作動点検

ブレーキペダルを左右連結して踏込み，レバーを**“下げ”**たまま足をはなすと駐車ブレーキがかかります。
外すときは，ペダルを踏込めば外れます。

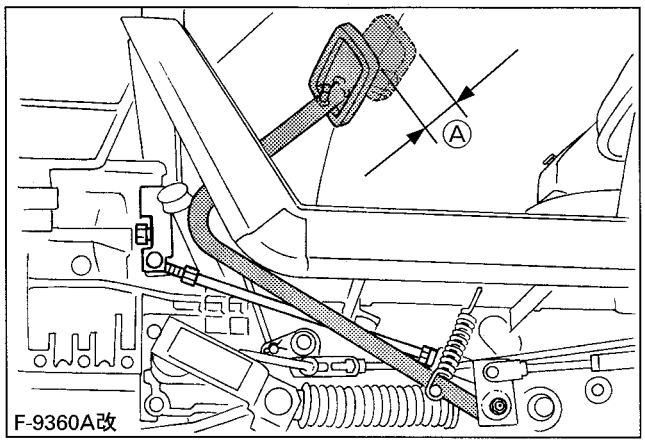


①駐車ブレーキ
レバー

Ⓐ“連結金具をかける”
Ⓑ“踏込む”
Ⓒ“下げる”

■クラッチペダルの遊び・点検

ペダルの遊び量が**“20～30㎜”**あるか確認してください。
（調整のしかたは**“100時間ごとの点検・整備”**の**“クラッチペダルの点検・調整”**の項を参照）



Ⓐ“遊び”

重 要

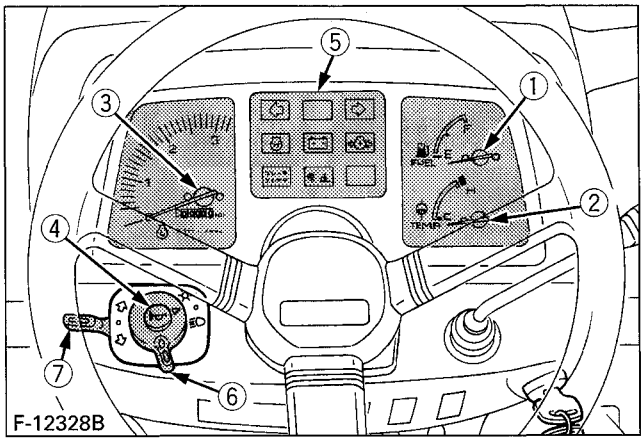
＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

4.エンジンを始動して

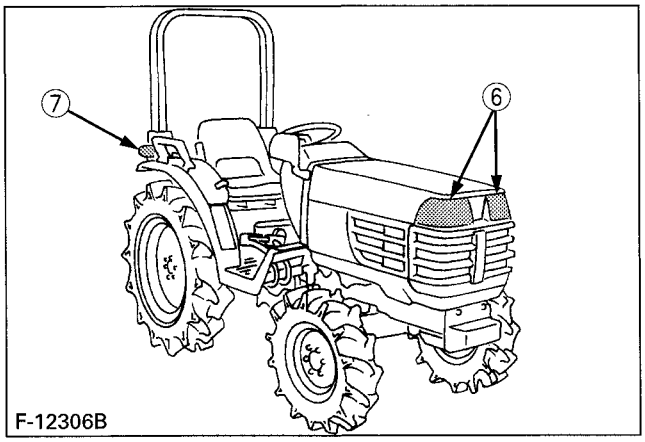
■メータ・ランプ類の作動

下記メータ及びランプ類が正しく作動するか点検してください。

①燃料計
②水温計
③エンジン回転計
④ホーン
⑤イージーチェッカ
⑥ヘッドライト
⑦ウインカ



F-12328B



F-12306B

5.燃料の補給

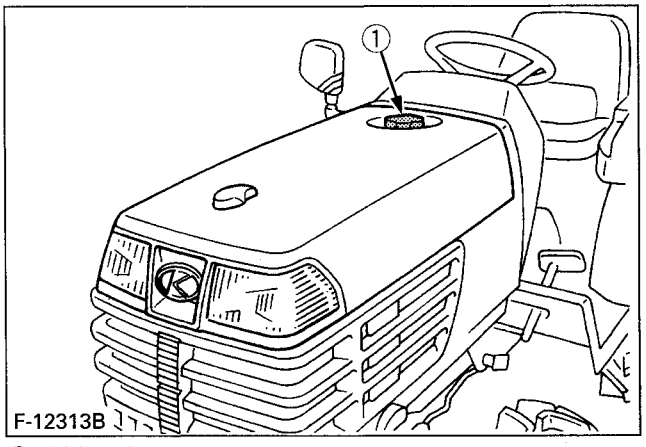
注 意

＊燃料を補給するときは，エンジンを必ず停止してください。
＊火気厳禁。

燃料には，**“ディーゼル軽油”**を使用してください。
ディーゼル軽油には下表の種類があります。地域・季節に見合ったものを使用してください。

種　　類	ディーゼル軽油の流動点(℃)
特　1　号	+5以上
1　　号	0 及び −5
2　　号	−10
3　　号	−15 及び −20
特　3　号	−25 及び −30

流動点付近以下の温度になると燃料の流動性が悪くなり，始動が困難になります。



F-12313B

①燃料給油口

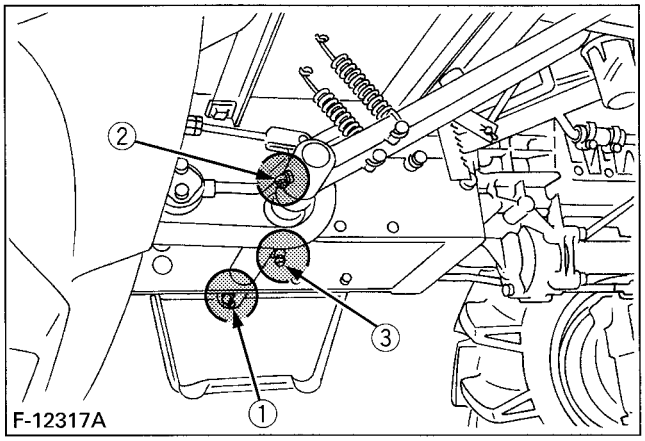
重 要

＊燃料中にゴミや砂が混入していると，燃料噴射ポンプが作動不良になりますので，注意してください。
＊燃料キャップの空気穴が土やゴミでふさがれていないか点検してください。
＊燃料キャップが締まっているか確認してください。

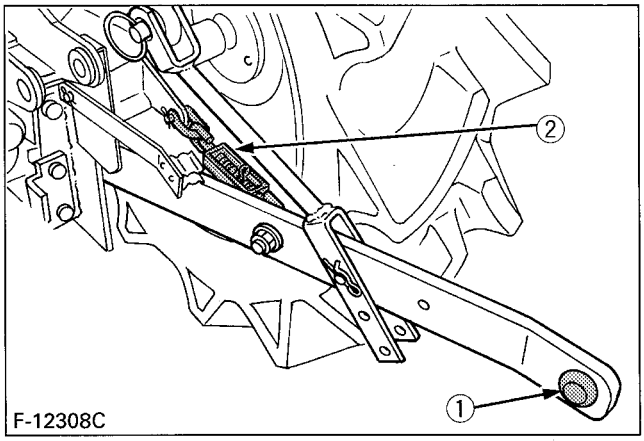
50時間ごとの点検・整備

■グリースの注入

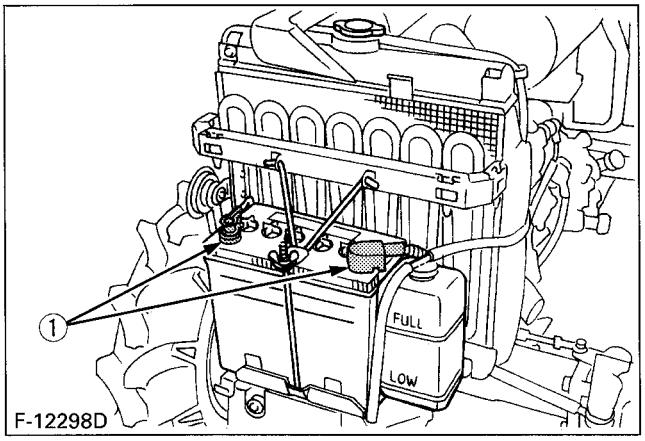
代かき作業などで泥水の中に入ったときは，１日の作業が終ったあと必ずグリースアップをしておきましょう。グリースは，**“クボタ推奨グリース”**を使用してください。



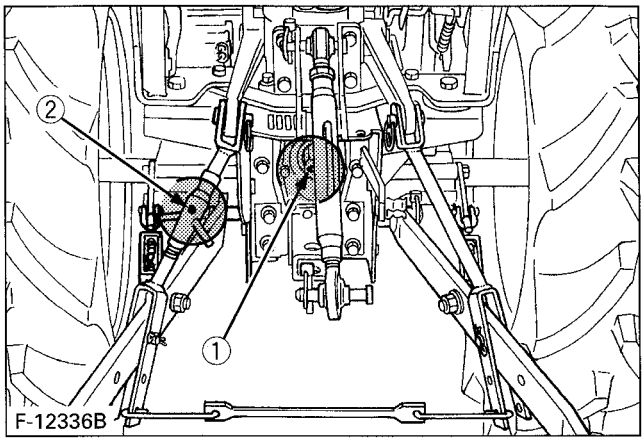
①クラッチペダル
②ブレーキペダル
③ブレーキペダル軸



①３P関接球
②チェックチェーン



①バッテリーターミナル



①トップリンク
②リフトロッド左

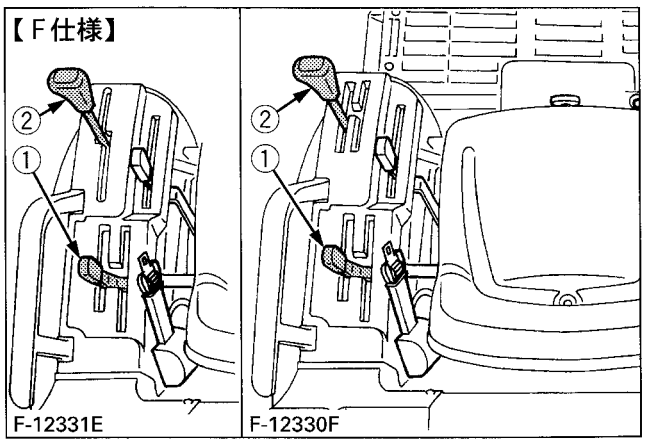
■エンジン始動システムの点検

注　意

＊点検中，トラクタに人を近づけないようにしてください。
＊装置に異常があれば必ず整備をした後，ご使用ください。

◆点検

❶運転席に座り，主変速，副変速及びPTO変速レバーを**“中立”**(N)にします。
❷駐車ブレーキを掛け，エンジンを停止します。
❸アクセルレバーを**“最低速”**位置にします。
❹クラッチペダルを一杯踏込み，キースイッチを瞬時**“始動”**位置に回します。
この時，エンジンが回れば正常です。
❺次に，主変速又はPTO変速レバーをいづれかの位置に変速し，キースイッチを瞬時**"始動"**位置に回します。
この時，エンジンが回らなければ正常です。
❻もし，不良の場合は，購入先へご相談ください。

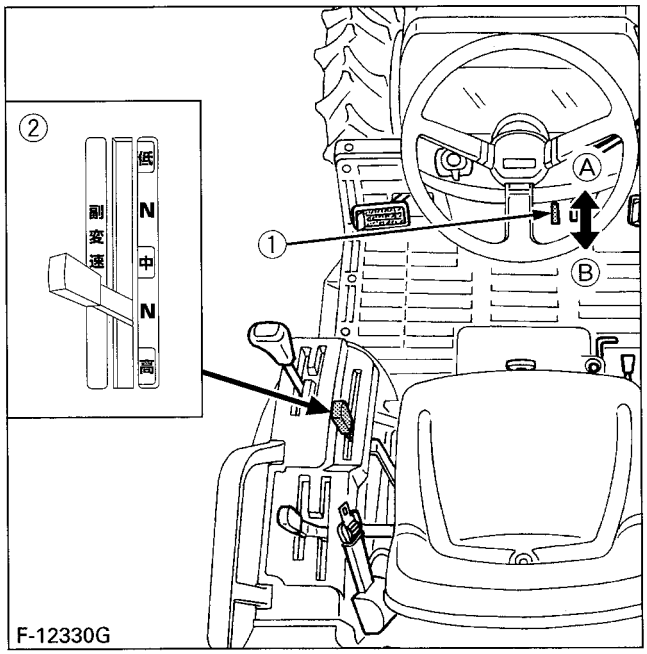


①PTO変速レバー
②主変速レバー

■倍速ターン高速けん制装置の点検
【T仕様以外】

注 意

＊装置に異常があれば必ず購入先に相談し，整備をした後，ご使用ください。



①倍速ターンレバー　Ⓐ“切”　Ⓝ“中立(N)”
②副変速レバー　Ⓑ“入”

◆点検手順

❶運転席に座り，前輪を直進状態にして副変速レバーを**“低”**又は**“中”**，倍速ターンレバーを**“入”**にします。

❷副変速レバーを**“高”**に入れます。
このとき，けん制装置がはたらき，倍速ターンレバーは**“入”**(キースイッチ**“入”**のときは，倍速ターンランプも点灯)のまま，倍速ターンは作動しません。

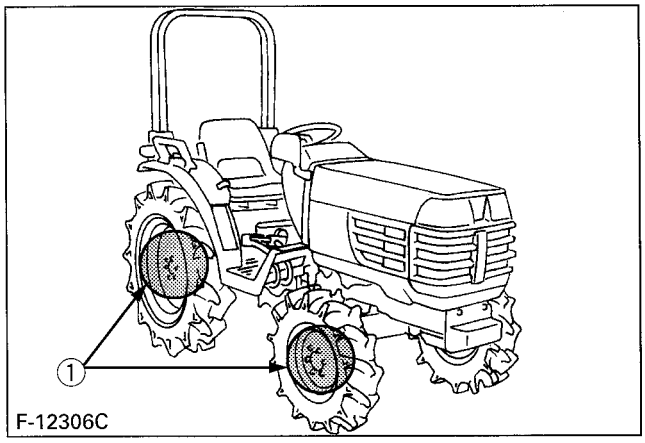
❸この状態で実際に旋回し，倍速ターンが作動しなければ正常です。
旋回は，平坦な広い場所で，エンジン回転を低くし安全確認を行なってから実施してください。

❹前輪を直進状態にし，副変速レバーを**“低”**又は**“中”**に入れると，けん制装置が自動復帰します。
この状態で旋回し，倍速ターンが作動すれば正常です。

■タイヤ取付けボルトの点検

注 意

＊タイヤ取付けボルトやナットがゆるんだ状態でトラクタを運転しないでください。
ゆるんだまま走行すると，傷害事故を引起すおそれがあります。



①ボルト／ナット

■ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの点検・交換

注 意

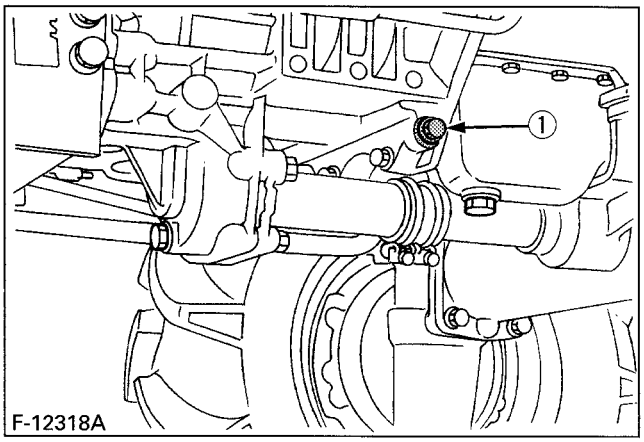
＊ワイヤハーネス及びバッテリ⊕コードが損傷していると，ショートを起すので必ず点検してください。
＊バッテリ，配線及びマフラやエンジン周辺部にワラクズ，ゴミや燃料の付着などがあると，火災の原因となるので毎日作業前に点検してください。

ワイヤハーネス，バッテリ⊕コードの被覆は各部の角に接触，ネズミのかじりなどにより，損傷したり自然劣化することがありますので，下記の項目について定期的に点検してください。

1. ワイヤハーネスの損傷及びクランプのゆるみがないこと。
2. ターミナル，ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
3. 各スイッチが確実に作動すること。

■クラッチハウジングの水抜き

代かき作業・洗車・雨降りなどで，クラッチハウジングに多量の水がかかった場合，又は50時間使用ごとにクラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水の侵入がないことを確認してください。
もし水が入っていれば，完全に抜いて，内部をよく乾燥してください。



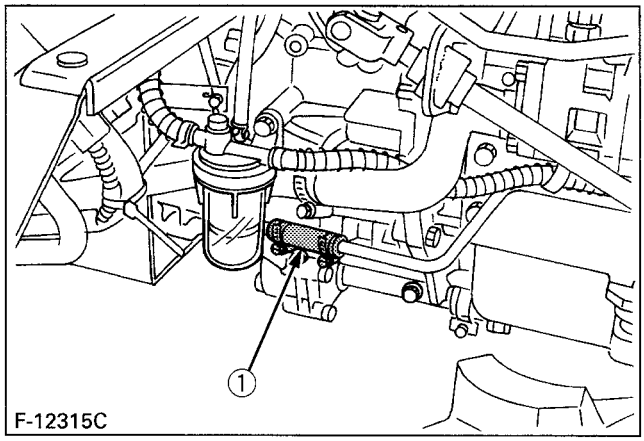
①ドレーンプラグ

■パワーステアリングホースの点検【マニュアルシフト仕様】

注　意

＊ホースの傷みは，必ず点検しましょう。
ホースが破損しハンドル操作ができなくなり，傷害事故を引起こすおそれがあります。

パワーステアリングホースは，使わなくても劣化する消耗品です。２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。
ホースが傷んでいないか常に注意してください。



①パワーステアリングホース

重　要

＊交換時にホースなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると作動不良の原因になります。

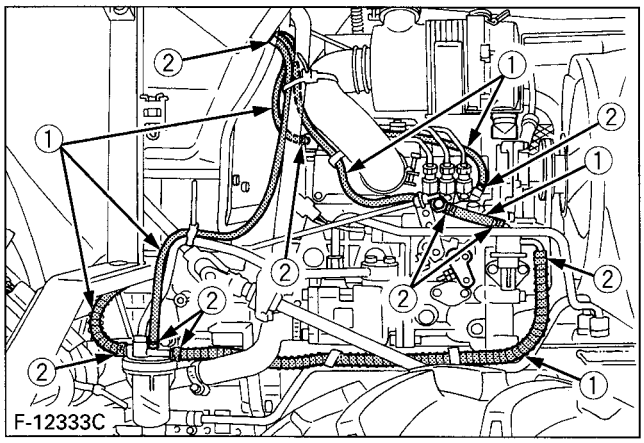
■燃料パイプの点検

注　意

＊パイプ類の傷みや締付けバンドのゆるみは，必ず点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
燃料もれなどによる火災や傷害事故などの原因になります。

燃料パイプなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

1. パイプ類や締付けバンドがゆるんだり，傷んでいないか常に注意してください。
2. 燃料パイプを交換した場合は，必ず空気抜きをする必要があります。
（**“必要に応じた点検・整備”の“燃料の空気抜きのしかた”**の項を参照）



①燃料パイプ
②締付けバンド

重　要

＊交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると，噴射ポンプの作動不良の原因になります。

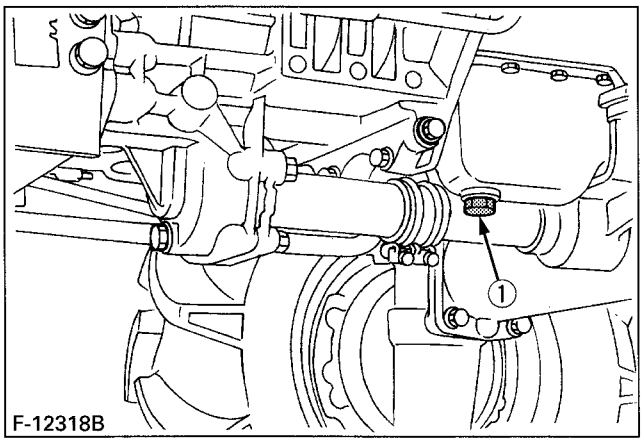
100時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルの交換

注　意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

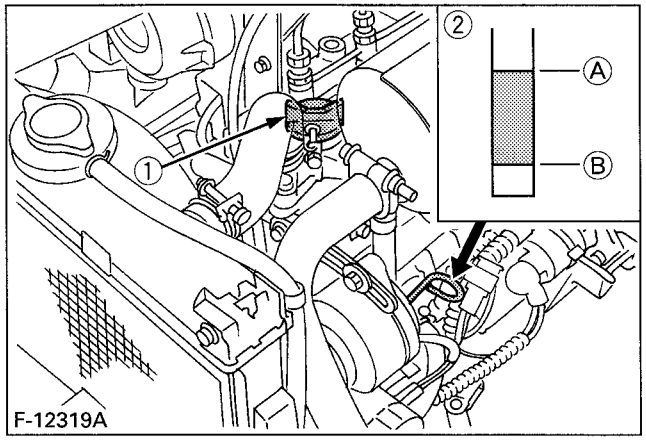
❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。このときオイルが暖まっている方が排出しやすくなります。ただしヤケドに注意してください。



①ドレーンプラグ

❷ドレーンプラグを締めます。

❸エンジンオイルを給油口から，規定量まで入れてください。このときオイルをこぼさないように注意してください。オイルゲージを外しておくと給油がしやすくなります。



①エンジンオイル給油口　　Ⓐ“上限”
②オイルゲージ　　Ⓑ“下限”

重　要

＊今まで使用していたオイルと異なるメーカ，あるいは粘度No.の異なるものを使用する場合は，オイルを全部排出してから，新しいオイルと交換してください。
注ぎ足し使用は絶対しないでください。

＊気温により次のように使いわけてください。

15℃以下	D10W30(オールシーズン用)
15℃以上	D30，又はD10W30

＊冬期は必ずD10W30を使用してください。

■バッテリ電解液の点検

危　険

バッテリには補水不要なタイプと補水が必要なバッテリの２種類があります。補水が必要なバッテリについては，以下の事を守ってください。

＊バッテリは液面がLOWER(最低液面線)以下になったままで使用や充電をしないでください。
LOWER以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され，バッテリの寿命を縮めるばかりでなく，爆発の原因となることがあります。
すぐにUPPER LEVEL と LOWER LEVEL の間に補水してください。

警　告

＊バッテリ液は希硫酸なので扱いには十分注意し，身体や衣服に付けないようにしてください。もし付着した場合は，すぐに水で洗い流してください。
状況により医師の診断を受けてください。

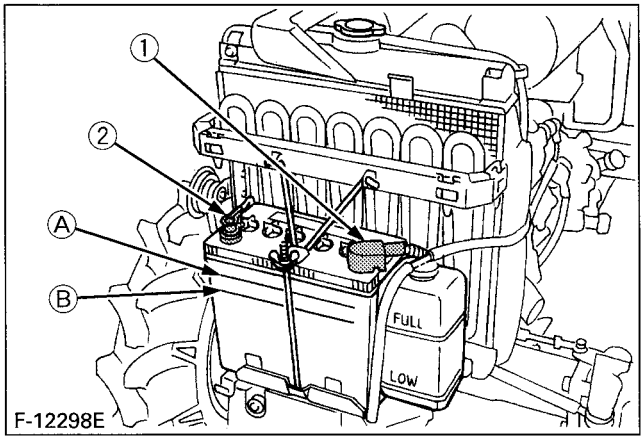
＊バッテリの点検及び取外し時は，エンジンを必ず停止し，キースイッチを“切”位置にしておいてください。

＊バッテリを取外すときは，短絡(ショート)事故を防ぐため，最初にバッテリ⊖コードを外し，接続するときは，最後にバッテリ⊖コードを接続してください。

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり火を近づけないでください。
バッテリは充電中，可燃性ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

◆バッテリ液の点検

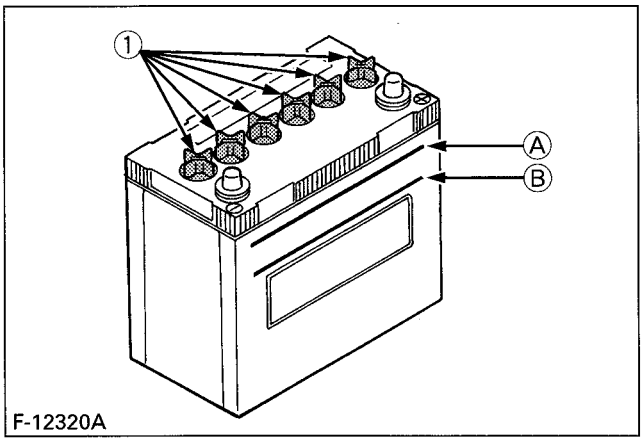
バッテリはMF(メンテナンスフリー)バッテリを使用していますので従来品に比べ，液の減り具合がきわめて少なくなっていますが側面に２本の線(レベル)があり，その間に液面があればよく，少ないときは上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。



①⊕コード　　Ⓐ“UPPER LEVEL”(上限)
②⊖コード　　Ⓑ“LOWER LEVEL”(下限)

◆補水のしかた

❶バッテリ上フタの補水キャップを外します。
❷６個の補水穴から蒸留水を均一に上側の線（レベル）まで補水します。
❸キャップを元の穴にねじ込みます。



①補水キャップ　　Ⓐ“UPPER LEVEL”(上限)
Ⓑ“LOWER LEVEL”(下限)

◆バッテリの取付け，取外し

注　意

＊バッテリを取外すときは，バッテリ⊖コードを最初に外し，次に⊕コードを外してください。
＊取付けるときは，必ず⊕側から取付けます。逆にすると，工具が当たった場合にショートします。

重　要

＊バッテリ液が不足するとバッテリを傷め，多過ぎると液がこぼれて車体の金属部を腐食させます。
＊新品のバッテリと交換する場合には必ず指定した型式(50B24L)のバッテリを使用してください。
＊バッテリを外し，再度取付けるときにはバッテリの⊕，⊖のコードを元どおりに配線し，まわりに接触しないように締付けてください。

◆補充電のしかた

警　告

＊バッテリを充電しているときは，タバコを吸ったり，火を近づけないでください。
バッテリは充電中可燃ガスが発生し，引火爆発のおそれがあります。

1. バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。なお急速充電はできるだけ避けてください。
2. バッテリコードを接続するときは，⊕と⊖をまちがえないようにしてください。まちがえるとバッテリと電気系統が故障します。
3. 充電は，バッテリの⊕を充電器の⊕に，バッテリの⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して，普通の充電法で行なってください。
   コードの接続をまちがわないように注意してください。

■エアクリーナエレメントの清掃

◆エレメントの清掃

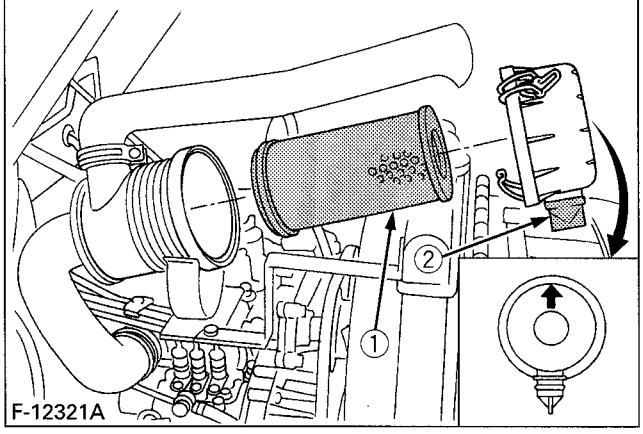
乾いたちりやほこりの場合は，エレメントを傷めないように注意しながら，エアーで吹き飛ばしてください。(エアーの圧力は0.69MPa(7kgf/㎠)を越えないように注意し，ノズルとエレメントの間は適当にあけてください。)

ダブルエレメントのエアクリーナはアウターエレメントだけを清掃してください。**【オプション】**

◆エレメントの交換

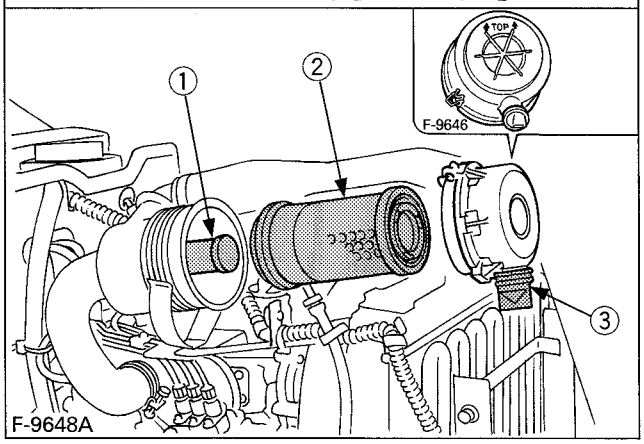
エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。

シングルエレメント**【標準仕様】**



①エレメント
②バキュエータバルブ

ダブルエレメント**【オプション】**



①インナーエレメント
②アウターエレメント
③バキュエータバルブ

重 要

＊エレメントは，清掃・交換以外は不必要にさわらないでください。
＊乾式エレメントを使用していますので，オイルを使用しないでください。
＊清掃時，エレメントをたたいて変形させないでください。
変形するとほこりがエンジンに侵入し，エンジンを損傷することがあります。
変形したときは，すぐに新しいエレメントと交換してください。
＊ダストカップの(⬆マーク)を必ず上向きになるように取付けてください。
＊インナーエレメントは交換時以外はさわらないでください。**【オプション】**

◆バキュエータバルブの清掃

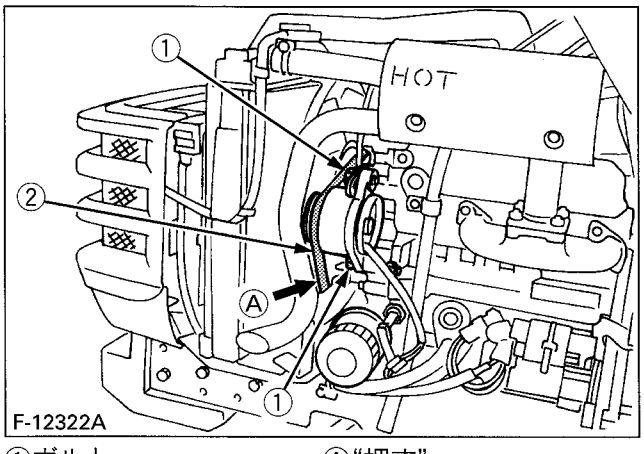
バキュエータバルブを開き，大きなごみを取除いてください。

■ファンベルトの点検・調整

適正張り強さ	ベルトの中央部を指先で約10kgfの力で抑えて，約7㎜たわむ程度

◆調整方法

❶ダイナモを取付けているボルト・ナットをゆるめて，ダイナモを動かして調整します。
❷調整後はボルト・ナットを確実に締付けておいてください。



①ボルト　　Ⓐ"押す"
②ファンベルト

重 要

＊ベルトの張りがゆるいと，オーバヒートや充電不足の原因になります。
＊き裂やはがれがあれば交換してください。

■クラッチペダルの点検・調整

適正遊び量	ペダルで20～30㎜

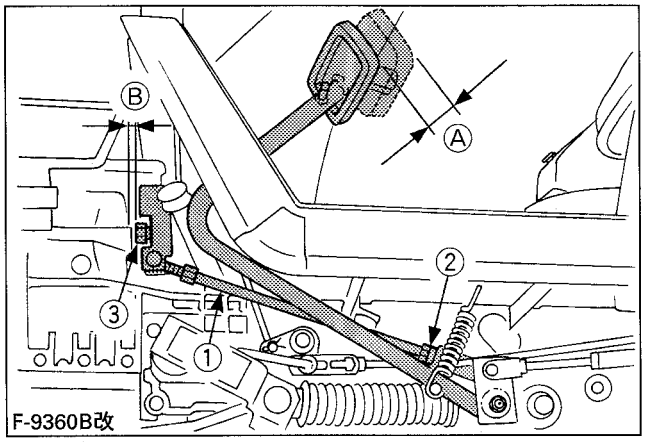
◆調整方法

❶ロックナットをゆるめクラッチロッドで，ペダルの遊びを調整します。

❷調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。

❸調整後クラッチペダルを解放し，スキマⒷを点検します。

もし調整が必要なときは，ボルト③で調整します。



①クラッチロッド　Ⓐ“遊び”
②ロックナット　Ⓑ 8.5㎜
③ボルト

重　要

＊クラッチの調整が悪いと，クラッチ切れ不良，すべりを起し損傷につながります。

■ブレーキペダルの点検・調整

警　告

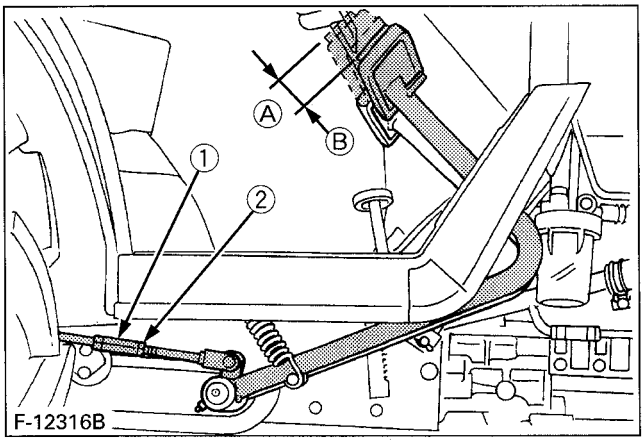
＊点検・調整をするときは，必ずエンジンを止めて行なってください。

＊ブレーキの調整が悪いと，人身事故にもつながります。
常に作動状態に注意してください。

＊調整時左右のペダルの踏込み量の差を必ず“５㎜以内”にしてください。差が大きいとブレーキが片ぎきになります。
ブレーキが片ぎきになると，傷害事故を引起すおそれがあります。

適正遊び量	ペダルで20～30㎜

◆調整方法



①ブレーキロッド　Ⓐ“遊び”
②ロックナット　Ⓑこの位置でのペダルの左右差５㎜以内

❶駐車ブレーキを解除します。

❷ロックナットをゆるめブレーキロッドで，ペダルの遊びを調整します。

❸調整後はロックナットを確実に締め付けておいてください。

❹駐車ブレーキロックが確実に作動するか確認してください。

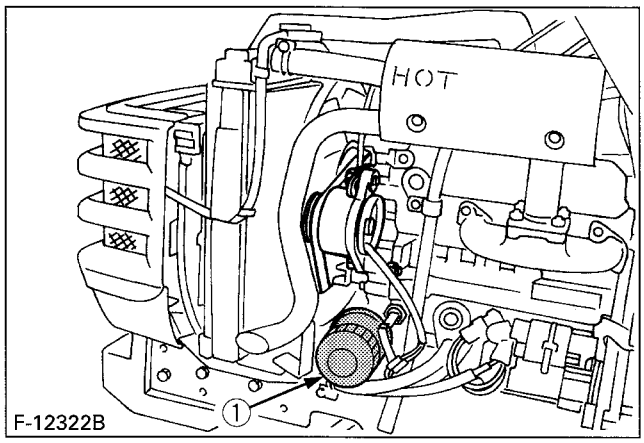
200時間ごとの点検・整備

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

オイルフィルタは，カートリッジタイプです。
このオイルフィルタが詰まると，バイパスバルブが作動して，オイル系統からこのオイルフィルタを通らずに送油されるので，ろ過されないオイルで潤滑が行なわれます。これを防ぐため，オイルフィルタの詰まりがないように，規定時間で，新しい純正部品のカートリッジと交換してください。



①エンジンオイルフィルタカートリッジ

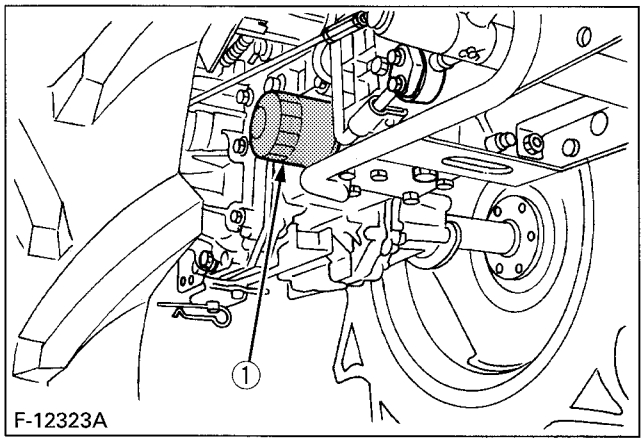
❶フィルタレンチでフィルタを取外します。
❷新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❸エンジンオイルを規定量まで補給します。
❹約５分間運転し，オイルランプの作動に異常がないか又，油漏れがないか確認してからエンジンを止めます。
❺再びオイルゲージで油量を確認し，不足していれば補給してください。

■油圧オイルフィルタカートリッジの交換
■油圧ミッションオイルフィルタカートリッジの交換【グライドシフト(F)仕様】

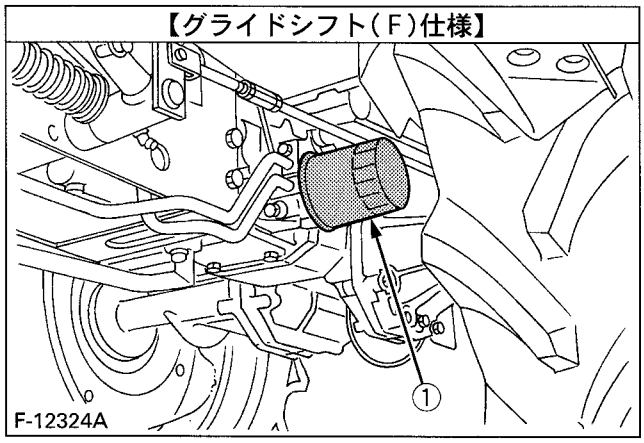
注 意

＊交換するときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

純正部品のカートリッジと交換してください。
指定の純正部品を使用しないと，油圧システムに問題を起こすおそれがあります。



①油圧オイルフィルタカートリッジ



①油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ

❶ミッションオイルを抜きます。
❷フィルタレンチでフィルタを取外します。
❸新しいカートリッジのOリングにオイルを薄く塗布してから，フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。
❹ミッションオイルを規定量まで補給します。
❺約２分間運転し，作業機の昇降に異常がないか確認してからエンジンを止めます。
❻再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給してください。
（ミッションオイルの抜き方，補給のしかたは**“300時間ごとの点検・整備”**の**“ミッションオイルの交換”**の項を参照）

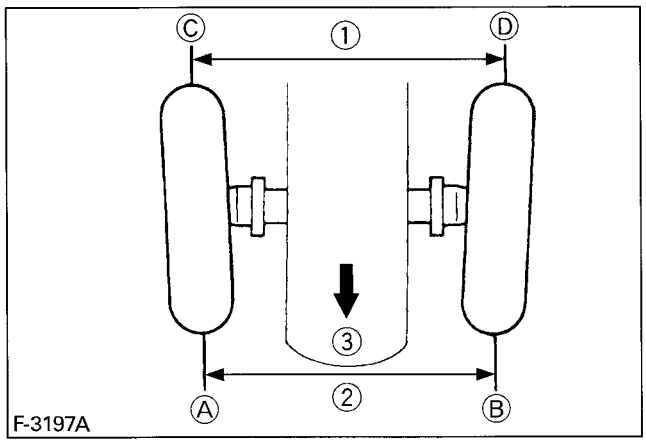
■トーイン調整・タイロッドの点検

注　意

＊トーインの調整が悪いと，ハンドルを取られたり，異常に振れることがあります。

◆点検

前輪の前幅ⒶⒷと後幅ⒸⒹを測り，ⒸⒹ－ⒶⒷ＝２～10㎜になっているかを調べます。

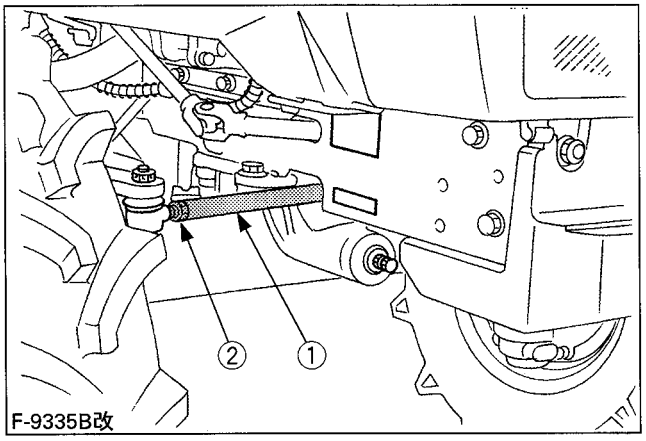


①後幅
②前幅
③前

◆調整

❶ナットをゆるめ，タイロッドを回してⒸⒹ－ⒶⒷ＝２～10㎜になるように調整します。

❷調整後はナットを確実に締付けておいてください。



①タイロッド
②ロックナット

補　足

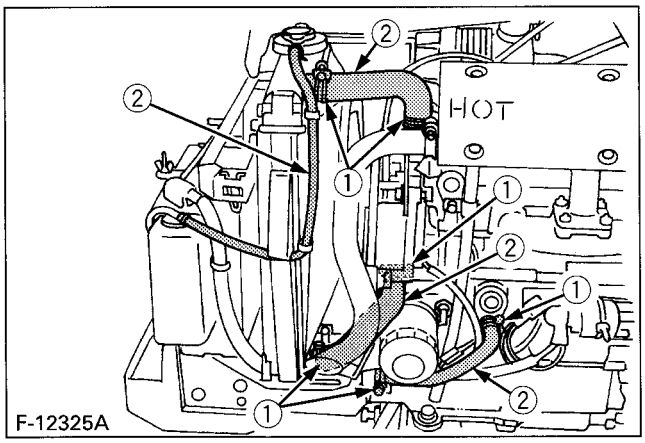
＊トーインの点検・調整時，タイロッドエンド(関接球)やリンクに摩耗や変形がないか調べてください。

■ラジエータホースの点検

注　意

＊ラジエータホースの傷みや締付けバンドのゆるみがないか点検してください。異常があれば交換・整備を行なってください。
熱湯もれによるヤケドなどの原因になります。

ラジエータホースなどのゴム製品は，使わなくても劣化する消耗品です。締付けバンドと共に２年ごとに又は傷んだときには新品と交換する必要があります。



①締付けバンド
②ラジエータホース

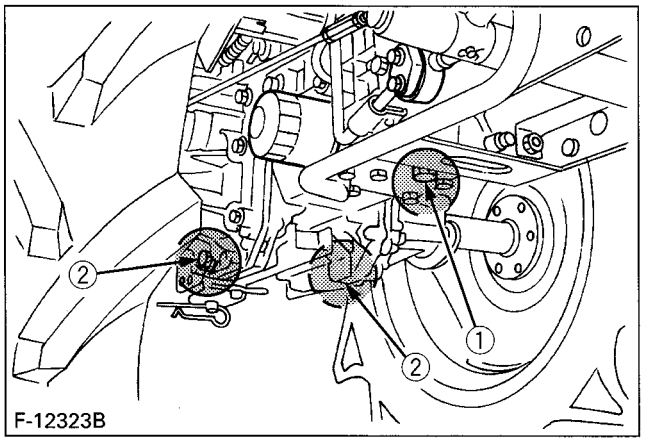
300時間ごとの点検・整備

■ミッションオイルの交換

注 意

＊交換をするときは，必ずエンジンを止めて十分冷えてから行なってください。ヤケドのおそれがあります。

❶ドレーンプラグを外してオイルを抜きます。

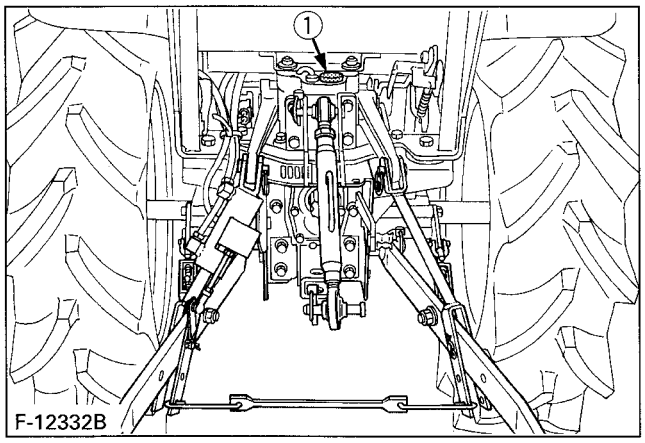


①ドレーンプラグ
②ドレーンプラグ(左右)

補 足

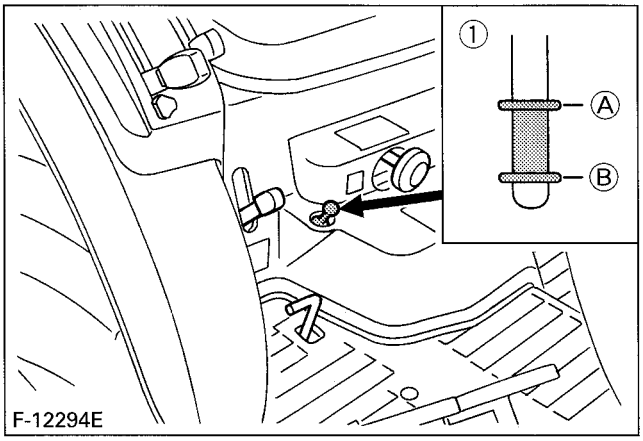
＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

❷ドレーンプラグを締めます
❸給油口からミッションオイルを規定量入れてください。



①給油口

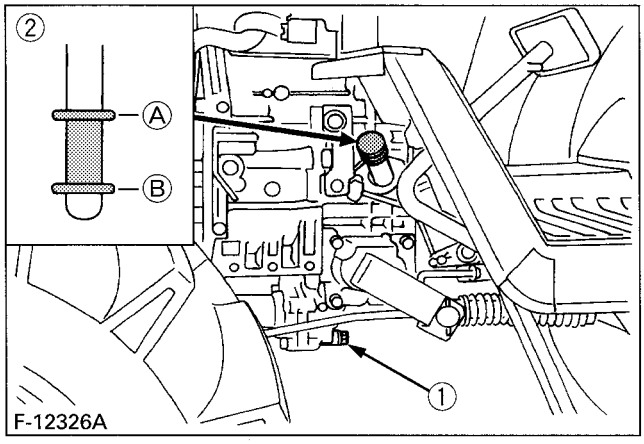
❹約５分間運転し，ドレーンプラグ締付け部より油漏れがないか確認し，エンジンを停止します。
❺一度オイルゲージの油を拭き取り再びオイルゲージで油面を確認し，不足していれば補給します。
ロータリ付の場合は，ロータリを下げて確認してください。



①オイルゲージ　　Ⓐ“上限”
Ⓑ“下限”

■フロントギヤーケースオイルの交換

❶ドレーンプラグを外してオイルを排出します。



①ドレーンプラグ　　Ⓐ“上限”
②給油口(オイルゲージ付き)　Ⓑ“下限”

補 足

＊給油プラグを外すとオイルが抜けやすくなります。

❷給油口からミッションオイルを規定量いれてください。

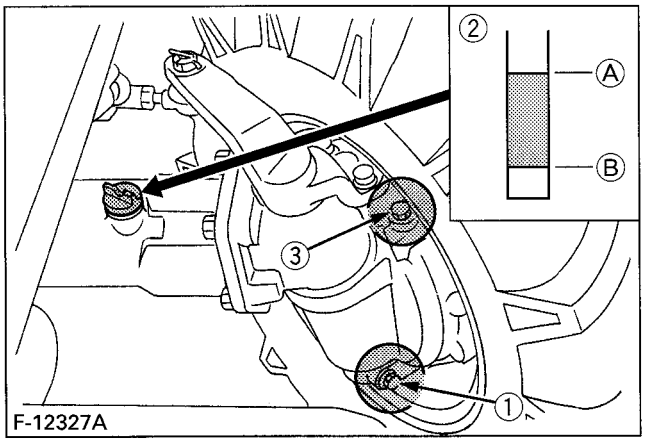
■前車軸ケースオイルの交換

❶ドレーンプラグ，エアー抜きプラグと給油プラグを外してオイルを抜きます。(左右とも)
❷ドレーンプラグを締めます。(左右とも)
❸給油口からミッションオイルを規定量入れてください。

重　要

＊オイルが左右のケースに充満するまで時間がかかります。
給油の約10分後，給油プラグを差込み油面を点検し，不足していれば補給します。

❹エアー抜きプラグ(左右とも)と給油プラグを確実に締めてください。



①ドレーンプラグ(左右にある)　Ⓐ“上限”
②給油口(オイルゲージ付き)　Ⓑ“下限”
③エアー抜きプラグ(左右にある)

400時間ごとの点検・整備

■燃料フィルタエレメントの清掃交換

燃料が満タンに近い場合はカップを外したとき，燃料戻りチューブからフィルタに燃料が逆流します。
フィルタエレメント交換の作業は，燃料タンクの燃料が半分以下のときに実施してください。

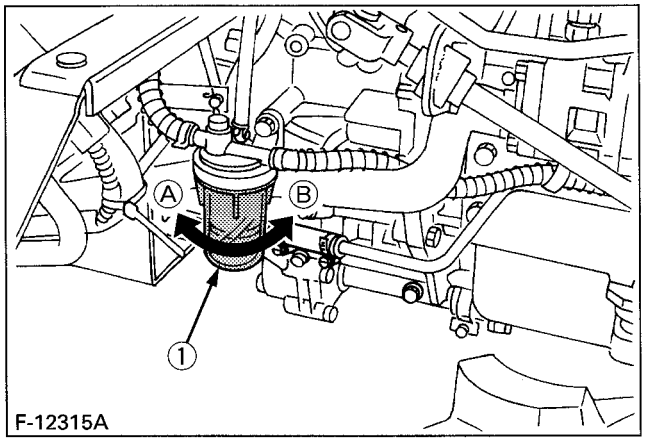
❶カップを**“ゆるむ”**方向へ回してカップを外し，内部を軽油で洗浄します。
❷新しいフィルタエレメントと交換します。

補　足

＊フィルタカップを外すと，燃料タンクからの流出燃料は自動的に止まります。

重　要

＊組付けるときは，チリやホコリが付着しないように注意しましょう。
＊エレメント交換後は，必ず空気抜きをしてください。(**“必要に応じた点検・整備”**の**“燃料の空気抜きのしかた”**の項参照)



①燃料フィルタカップ　Ⓐ“ゆるむ”
Ⓑ“締まる”

600時間ごとの点検・整備

■前部デフケース前後遊びの調整

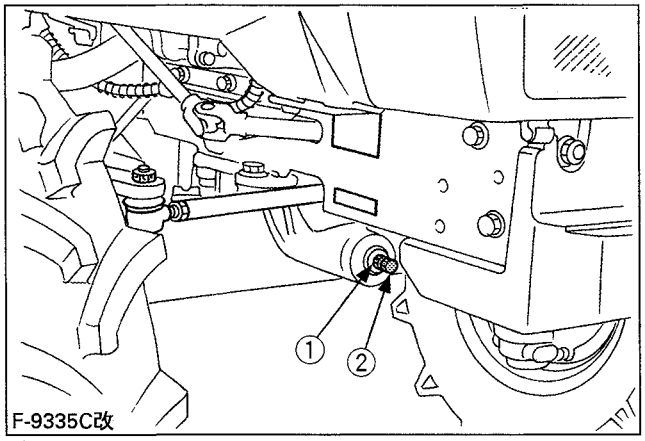
前部デフケース支持部の調整が悪いと，前輪が著しく振れたり，ハンドルに振動が伝わってきます。

◆点検

前後方向のガタを点検し，ガタがあれば調整します。

◆調整

前輪タイヤ(両輪)を持上げて，ロックナットをゆるめ，調整ボルトを締込み，ガタを調整します。



①ロックナット
②調整ボルト

800時間ごとの点検・整備

■エンジンバルブクリアランスの点検

購入先で交換及び点検をしてもらってください。

1年ごとの点検・整備

■エアクリーナエレメントの交換

エレメントの交換は1年間使用後，又は6回掃除ごとに交換が必要です。ダブルエレメントのエアクリーナ【オプション】はインナー・アウターとも交換が必要です。

(**“100時間ごとの点検・整備”の“エアクリーナエレメントの清掃”**の項を参照。)

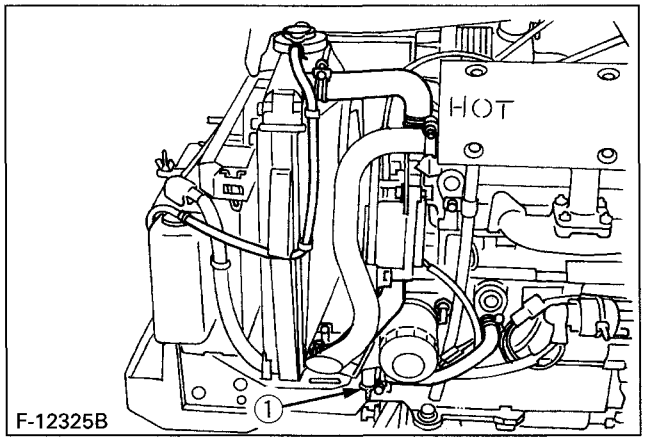
2年ごとの点検・整備

■冷却水の交換

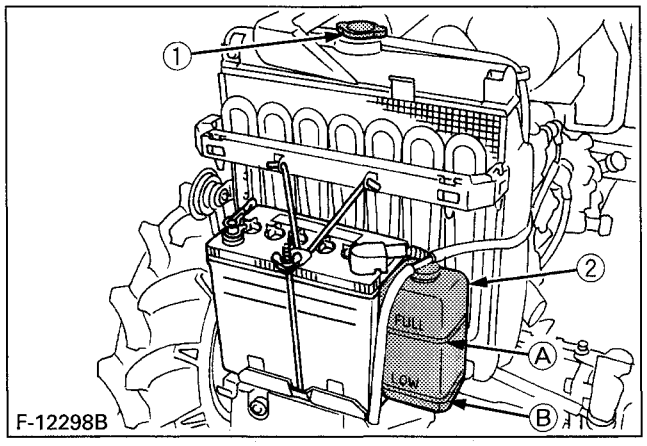
注 意

＊ラジエータキャップは，エンジン運転中及び停止直後に開けると，熱湯が噴出しヤケドをすることがあります。停止後30分以上たって，冷えてから最初のストップ位置までキャップをゆっくり回し，余圧を抜いてからキャップを外してください。

❶ラジエータ下側の排水コックとラジエータキャップを開き，冷却水を全部出します。
リザーブタンクの排水は，リザーブタンクを上方へ引き抜き排水します。



①排水コック



①ラジエータキャップ　Ⓐ“FULL”
②リザーブタンク　Ⓑ“LOW”

❷水道の水でラジエータ内を洗浄し，排水コックを締めオーバフローパイプを取付けます。

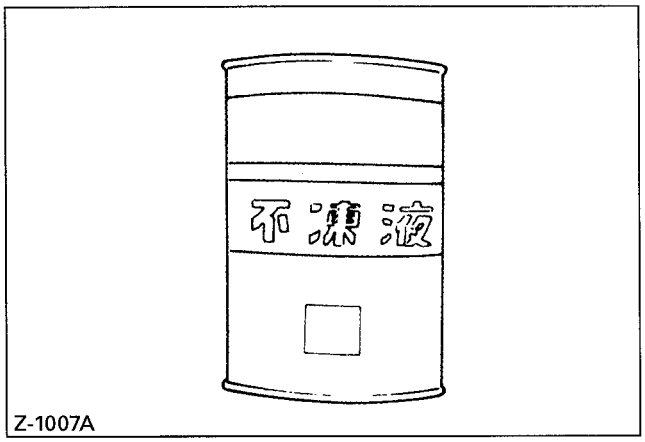
❸ラジエータ及びリザーブタンクに冷却水を注入したのち，ラジエータキャップを確実に締めてください。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており，冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは，必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合しラジエータ及びリザーブタンクに補給するか又は，冷却水を完全に排水してください。

〔工場出荷時は，不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。〕



Z-1007A

重 要

＊冷却水には，不凍液(ロングライフクーラント)を50%入れ，よく水と混ぜ合せてからお使いください。

＊不凍液の混合比を誤ると，冬期には冷却水の凍結，夏期にはオーバヒートの原因になります。

＊不凍液を使用する場合は，ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので，保浄剤を混入すると沈積物が生成することがあり，エンジン部品に悪影響を与えます。

＊クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。
必ず2年で交換してください。

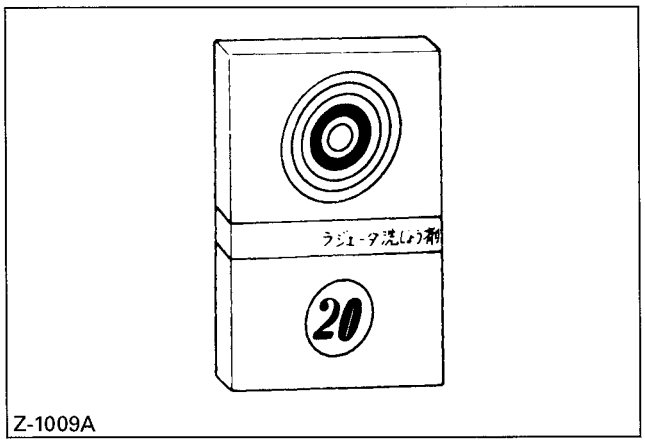
不凍液の保証不凍結温度

原液混合比 %	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
保証不凍結温度 ℃	−4	−5	−8	-11.5	−15	−20	−25	−30	−35	−40

■ラジエータの洗浄

洗浄には，クボタラジエータ洗じょう剤を使用すれば，水アカなどきれいに洗浄できます。

＊2年使用ごと
＊不凍液を混入するとき
＊不凍液混入から水だけに変えるとき
などに使用してください。



Z-1009A

■ラジエータホースの交換
■燃料パイプの交換
■パワーステアリングホースの交換【マニュアルシフト仕様】
■モンローシリンダホースの交換【MA仕様】

購入先で点検及び交換してもらってください。

必要に応じた点検・整備

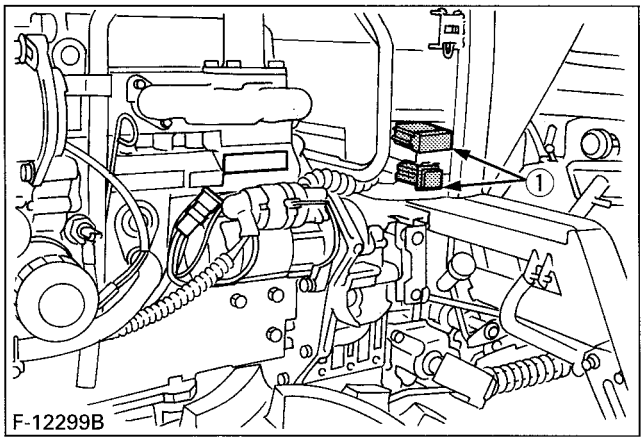
■燃料の空気抜きのしかた

燃料の空気抜きは，次のようなときに行なう必要があります。

- ●燃料フィルタ及び配管を取外したとき
- ●燃料切れが起きたとき
- ●トラクタを長時間使用しなかったとき

❶タンクに燃料を満たす。
❷エンジンを始動し，約１分間運転後停止する。

■ヒューズの交換



①ヒューズボックス

❶ヒューズボックスのふたを外す。
❷ヒューズを外す。
❸切れたものと同容量のヒューズと交換する。

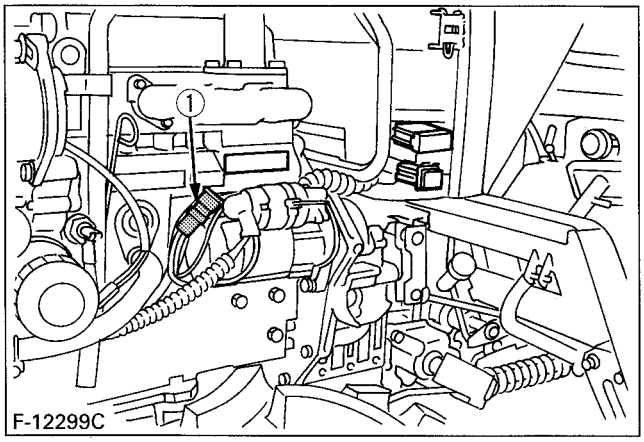
重　要

＊ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は，針金や銀紙などで代用せず，購入先で点検，修理してください。

補　足

＊トラクタに作業灯やラジオなどを取付けるときの電源取出しは，購入先にご相談ください。

■スローブローヒューズの交換



①スローブローヒューズ(50A)

スローブローヒューズは，配線を保護するためのものです。もし切れた場合は，切れた原因を必ず調べ，決して代用品を使用せず，純正部品を使用してください。

■ランプ類の交換

1. ヘッドランプは，ランプのボディ後部からバルブを取出して交換します。
2. その他のランプ
   レンズを外し，バルブを交換します。

格　　納

注　意

＊長期格納時は，クラッチ固着防止のため，クラッチ“切り”に固定してください。クラッチが固着するとエンジン始動と同時に車体が動くことがあります。
＊シートをかける場合は，マフラやエンジン自体の冷却状態を確認してからにしてください。火災を起こす原因になります。

長期格納時の手入れ

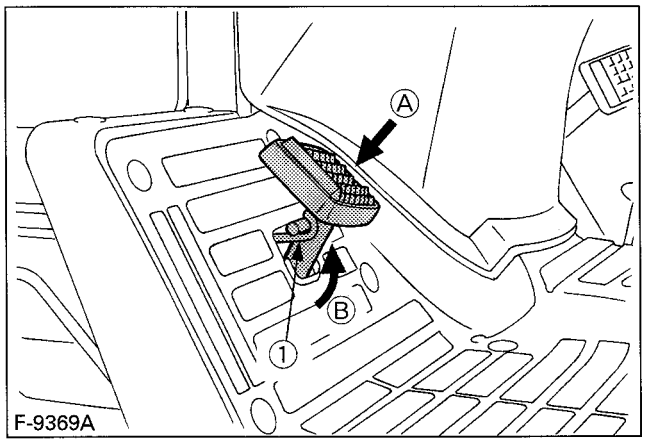
トラクタを長い間使用しない場合は，次の要領で整備してから格納しましょう。

1.不具合箇所は整備してください。
2.エンジンオイルを交換し，2000回転／分以上で10～15分間の防錆運転をし，各部にオイルをゆきわたらせてください。
その後も１～２カ月ごとに同様に防錆運転をしてください。
3.定期点検一覧表の項目を確認するようにしてください。
4.車体のさびやすい部分には，グリースかオイルを塗っておいてください。
5.冷却水は抜いておいてください。但し，オールシーズンタイプのクーラントであれば抜かなくても構いません。
6.クラッチペダルは，クラッチ板のさび付きによりクラッチが切れなくなる場合がありますので，クラッチを踏込んだ状態で必ずロックしてください。

◆クラッチ“切”保持の方法

❶クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具をピンに引掛けてロックします。

❷使用するときは，クラッチペダルをいっぱい踏込み，ロック金具を外します。



①ロック金具　　Ⓐ“踏む”
Ⓑ“ピンに引掛けてロックする”

7. クラッチハウジング底のドレーンプラグを外して，水が侵入していないことを確認してください。
8. タイヤの空気圧は，標準より少し多いめにしてください。
9. バッテリを本機から取外し風通しの良い冷暗所に保管してください。またトラクタに取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
10.ウエイトは取外し，作業機は，外すか地面に降ろした状態にしてください。
11.後輪の前後に車止めをしておいてください。
12.各部の配線・バッテリコード・燃料配管などのキレツ・被覆の破れ・コードクランプの外れは，確実に点検・整備してください。
13.格納中バッテリは，１カ月に一回充電器で完全充電するようにしましょう。
14.格納場所は，周囲にワラなど燃えやすいものがない雨のかからない乾燥した場所を選定し，シートをかけるようにしましょう。

重　要

＊長期格納時，洗車するときはエンジンを止めてから行なってください。もしエンジンをかけて行なうときはエアクリーナの吸入口から水が入らないよう注意してください。もし水が入ると故障の原因となります。
＊格納時は，必ず**“切”**の位置でキーを抜いておいてください。

不調と処置

エンジンの不調と処置

もしエンジンの調子が悪い場合があれば，次の表により診断し，適切な処置をしてください。

現　象	原　因	処　置
始動困難な場合	(1)燃料が流れない。	●燃料タンクを点検し，沈殿している不純物や水分を除く ●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
	(2)燃料送油系統に，空気や水が混入している。	●パイプ・プラグ・袋ナット及び締付けバンドを点検し，ゆるみがあれば締め，損傷があれば新品と交換又は補修する。 ●空気抜きをする。 (**“必要に応じた点検・整備”**の項を参照)
	(3)寒冷時にオイル粘度が高く，エンジン自体の回転が重い。	●気温によってオイルの使い分けをする。 (冬期はD10W30を使用)
	(4)バッテリがあがり気味で，回転力が弱くなって圧縮を越す勢いがない。	●バッテリを充電する。
出力不足の場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料の流れ不足	●燃料フィルタの清掃をする。
	(3)エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
突然停止した場合	(1)燃料不足	●燃料を補給する。 ●燃料系統を調べる。(特に空気混入に注意)
	(2)燃料が流れない。	●燃料フィルタを点検し，汚れていれば交換する。
排気色が異常に黒い場合	(1)燃料が悪い。	●良質の燃料に交換する。
	(2)エンジンオイルの入り過ぎ。	●正規のオイル量にする。
	(3)エアクリーナの目詰まり	●エレメントを清掃する。
水温計の指針がレッドゾーン付近を示すとき	(1)冷却水が125℃付近になったため。	●冷却水の量(不足)及び水漏れの点検 ●ファンベルトの張り(ゆるみ)の点検 ●フロントグリル，ラジエータの防虫網にゴミの詰まりがないか点検する。
始動時青白煙が消えない。	(1)前の作業が長時間にわたるアイドリング運転で終わっている場合，又は冷機時アイドリング運転の繰返しであった場合，マフラ内部に湿りが残っている。	●負荷をかけてマフラを十分に加熱する。冷機時アイドリング運転の繰返し，及び，長時間にわたるアイドリング運転は極力避ける。
	(2)ノズル不良	●ノズルを点検する。
	(3)燃料不良	●良質の燃料に交換する。

☆わからない場合は，購入先にご相談ください。

付　表

主要諸元

■トラクタの主要諸元

型式名		GB160	GB160F	GB180	GB180F	GB200	GB200F	GB200T
駆動方式		四輪駆動						
機体寸法	全長(mm) (注)	2320		2345		2345		2255
	全幅 (mm)	1040, 1110		1045, 1105		1075, 1110		1290
	全高 (mm)	1850		1880		1880		1790
	軸距 (mm)	1350						
	輪距 前輪 (mm)	840						910
	輪距 後輪 (mm)	810, 900		810, 900		840, 870		940
	最低地上高 (mm)	315		330		330		275
質量 (kg)		690	715	695	720	705	730	680
エンジン	機関型式	D905		D1005		D1105		
	形式	水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル(E-TVCS)						
	総排気量L (cc)	0.898(898)		1.001(1001)		1.123(1123)		
	出力/回転速度 kW/rpm(PS/rpm)	11.8 / 2600 (16 / 2600)		13.2 / 2600 (18 / 2600)		14.7 / 2600 (20 / 2600)		
	使用燃料	ディーゼル軽油						
	燃料タンク容量(L)	20						
	始動方式	セルモータ式						
	バッテリ	50B24L-MF						
タイヤ	前輪	6-12		6.00-12		6.00-12		22x8.50-12
	後輪	8.3-20		8.3-22		9.5-20		31x13.5-15
車体	クラッチ方式	乾式単板(シングル)						
	制動装置	一系統左右独立(連結装置付), 湿式ディスクブレーキ(機械式)						
	かじ取り方式	インテグラル型パワーステアリング						
	差動方式	2ピニオンかさ歯車式(デフロック付)						
	変速方式	選択かみ合式, 常時かみ合式併用 (**【F仕様】** 油圧無段変速併用)						
変速段数		前進9段 後進3段	前後進無段	前進9段 後進3段	前後進無段	前進9段 後進3段	前後進無段	前進9段 後進3段
走行速度 (km/h)	前進	0.55~14.0	0~13.6	0.59~14.9	0~14.6	0.59~14.9	0~14.6	0.51~12.7
	後進	0.69~6.1	0~8.5	0.74~6.5	0~9.1	0.74~6.5	0~9.1	0.63~5.5
最小旋回半径 (m)		1.7						2.0
PTO	回転速度/エンジン回転速度 rpm	451, 769, 1207, 564(逆転) / 2600 (**【F仕様】**: 442, 754, 1192, 553(逆転) / 2600)						451, 769, 1207 /2600
	軸寸法(mm)	JIS35						
昇降装置作業機	制御方式	ポジションコントロール						
	装着方式	3点リンク JIS O型						

注) 全長はバンパ先端から後輪タイヤ後端までの寸法です。

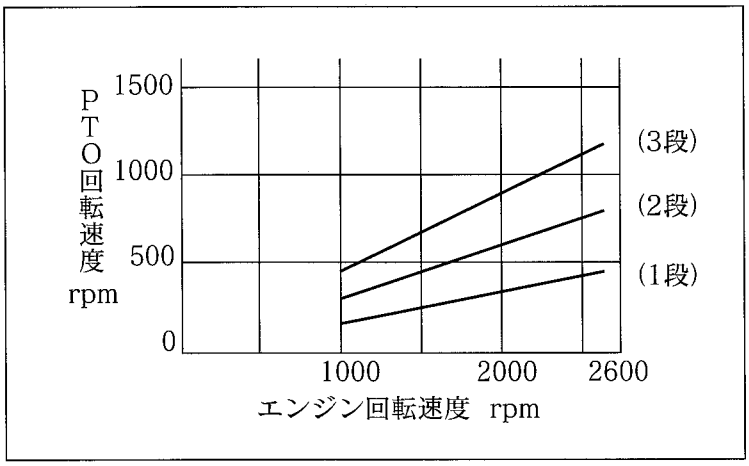
■走行速度表

(km/h)

マニュアルシフト仕様								
副変速レバー	主変速レバー	GB160		GB180		GB200		GB200T	
		前進	後進	前進	後進	前進	後進	前進	後進
低	1	0.55	0.69	0.59	0.74	0.59	0.74	0.51	0.63
	2	0.94		1.01		1.01		0.86	
	3	1.48		1.58		1.58		1.35	
中	1	1.11	1.38	1.18	1.48	1.19	1.48	1.01	1.26
	2	1.89		2.02		2.02		1.72	
	3	2.96		3.17		3.17		2.71	
高	1	4.84	6.05	5.18	6.47	5.18	6.48	4.42	5.53
	2	8.26		8.82		8.83		7.54	
	3	14.0		14.9		14.9		12.7	

グライドシフト(F)仕様						
副変速レバー	GB160F		GB180F		GB200F	
	前進	後進	前進	後進	前進	後進
低	0~1.91	0~1.30	0~2.04	0~1.39	0~2.04	0~1.39
中	0~5.21	0~3.55	0~5.57	0~3.80	0~5.57	0~3.80
高	0~13.6	0~8.51	0~14.6	0~9.09	0~14.6	0~9.09

■PTO回転速度表



標準付属品

品名	数量/台	備考	品名	数量/台	備考
10−12スパナ	1		メインスイッチキーアッシ	1	
14−17スパナ	1		取扱説明書	1	
19−22スパナ	1		サービスブック	1	トラクタ保証書を含む
21−26スパナ	1		保証書(ロータリ)	1	ロータリ装着時のみ
プライヤ	1		PTO軸キャップ	1	
ヒューズ	各1	10アンペア,15アンペア,20アンペア(ヒューズボックスの中にある)	ボルト	1	PTO軸キャップ取付け用

アタッチメント一覧表(純正アタッチメントを使いましょう)

◆トラクタ関係

分類	品番	品名	用途・仕様		併用アタッチメント	適応タイヤサイズ		
						8.3-20	8.3-22	9.5-20
補助車輪関係	96023 -0719-2	P15 反転ストレーク	外径 84, 89 cm 幅 15 cm	5セット／台	96023-0669-2 8.3-20ストレーク取付け台	○		
			外径 89, 94 cm 幅 15 cm		96023-0849-0 8.3-22ストレーク取付け台		○	
			外径 89, 94 cm 幅 15 cm		96023-0940-0 9.5-20ストレーク取付け台			○
	99036 -2500-0	P200 反転ストレーク	外径 86, 91 cm 幅 20 cm	5セット／台	96023-0669-2 8.3-20ストレーク取付け台	○		
			外径 91, 96 cm 幅 20 cm		96023-0849-0 8.3-22ストレーク取付け台		○	
			外径 91, 96 cm 幅 20 cm		96023-0940-0 9.5-20ストレーク取付け台			○
	96023 -0739-2	P30 反転ストレーク	外径 91, 96 cm 幅 30 cm	5セット／台	96023-0669-2 8.3-20ストレーク取付け台	○		
			外径 96, 101 cm 幅 30 cm		96023-0849-0 8.3-22ストレーク取付け台		○	
			外径 96, 101 cm 幅 30 cm		96023-0940-0 9.5-20ストレーク取付け台			○
	96023 -0669-2	8.3-20 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用		P15, P200, P30の反転ストレークを任意選択	○		
	96023 -0849-0	8.3-22 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用				○	
	96023 -0940-0	9.5-20 ストレーク取付け台	反転ストレーク取付け用					○

分類	品番	品名	用途・仕様	併用アタッチメント	適応トラクタ			
					GB160	GB180	GB200	GB200T
前部ウエイト関係	96315 -1051-0	前部ウエイト 本体アッシ	重量25kg(バンパにつける) 使用個数1個		○	○	○	○
	96315 -1540-0	B1-15 バンパウエイトアッシ	重量40kg(バンパにつける) 使用個数1個		○	○	○	○
	96315 -1240-0	ブラケットアッシ (フロントウエイト)	右記25kgウエイトを最大5個まで取付可能(全重量125kg)	99801-1100-0 HTフロントウエイトアッシ	○	○	○	○
	99801 -1100-0	HTフロントウエイトアッシ	25kgウエイト	ブラケットアッシ (フロントウエイト)	○	○	○	○
その他	96397 -1510-0	B1500 洗車ポンプアッシ	吐出量55L／分 PTO軸駆動		○	○	○	○
	96314 -1550-0	GB15 作業灯アッシ	12V15W		○	○	○	○
	96316 -2740-0	GB16ヒッチアッシ	P仕様トラクタには標準装備されている		○	○	○	
	96314 -4880-0	キャノピ、アッシ (GB16)	全高(折りたたみ時) GB160 1915㎜(1685㎜) GB180 1945㎜(1725㎜) GB200 1945㎜(1725㎜)		○	○	○	○
	L1900 -00000	GB ユアツトリダシキット	油圧取出し		○	○	○	○
	6A100 -8610-2	GB20 バーチドレンブヒンキット	GB200T仕様用補強フレーム・前部ウエイト・ホイルウエイトのキット	芝管理作業機(バーチドレン)を装着する時に必要				○

インプルメント一覧表

注 意

＊トラクタ後部用作業機を装着したとき，かじ取り車輪(前輪)にかかる荷重が総重量の20%以上になるようにバランスウエイトを装着してください。

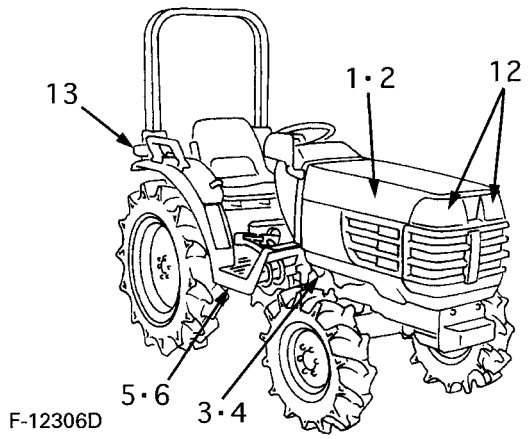
＊装着可能な最大ウエイトを装備してもかじ取り車輪(前輪)にかかる荷重が総重量の20%以上を確保できない作業機は装着しないでください。

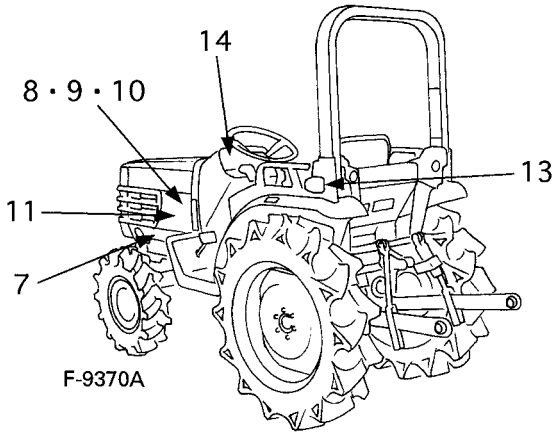
＊フロントローダを使用するときは，安全性を高めるためトラクタ後部に作業機や適切なウエイトを装備してください。(詳細は購入先にご相談ください。)

品番	品名
7F612-00010	RSP120B(サイドロータリ)
7F612-00020	RSP120BV(サイドロータリ)
7F612-00210	RSP120BS(サイドロータリ)
7F612-00220	RSP120BVS(サイドロータリ)
7F613-00010	RSP130B(サイドロータリ)
7F613-00020	RSP130BV(サイドロータリ)
7F613-00210	RSP130BS(サイドロータリ)
7F613-00220	RSP130BVS(サイドロータリ)
7F614-00010	RSP140B(サイドロータリ)
7F614-00020	RSP140BV(サイドロータリ)
7F614-00210	RSP140BS(サイドロータリ)
7F614-00220	RSP140BVS(サイドロータリ)
7F615-00010	RSP150B(サイドロータリ)
7F615-00210	RSP150BS(サイドロータリ)
7F616-00010	RSP160B(サイドロータリ)
7F616-00210	RSP160BS(サイドロータリ)

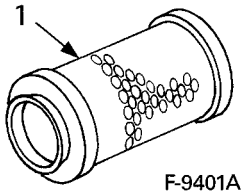
品番	品名
7F682-00010	RKP120B(センタロータリ)
7F682-00020	RKP120BV(センタロータリ)
7F682-00210	RKP120BS(センタロータリ)
7F682-00220	RKP120BVS(センタロータリ)
75821-08150	BLH20グレイタスローダ
——	JLH20グレイタスジュニアシリーズ
L2300-00000	RT-112(M1)小うねマルチロータリ
L2302-00000	RT-112(M4)平高うねマルチロータリ
L2303-00000	RT-112(M6)高うねマルチロータリ
L2500-00000	RT-212 2うねマルチロータリ
L2007-00000	RT-112(GB-A)取付けキット
L2008-00000	RT-112(GB)取付けキット

主な消耗部品一覧表(純正部品を使いましょう)

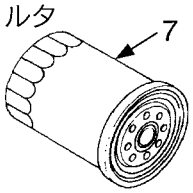




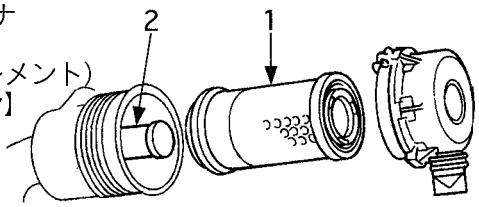
エアクリーナ
エレメント
(シングルエレメント)



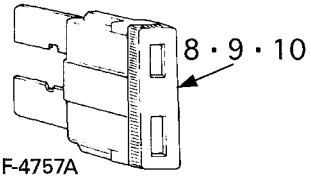
エンジンオイルフィルタ
カートリッジ



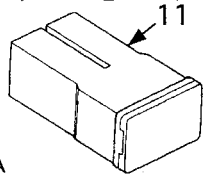
エアクリーナ
エレメント
(ダブルエレメント)
【オプション】



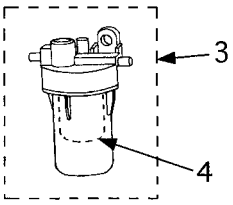
ヒューズ



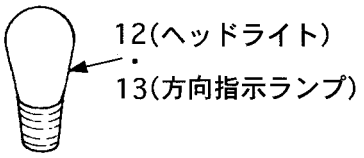
スローブローヒューズ



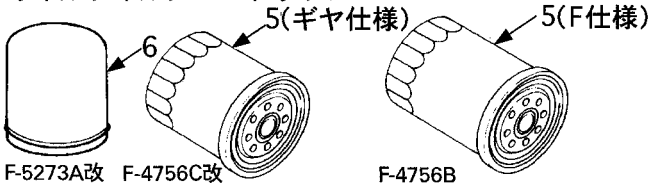
燃料フィルタ



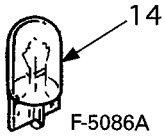
電球



油圧(ミッション)
オイルフィルタカートリッジ

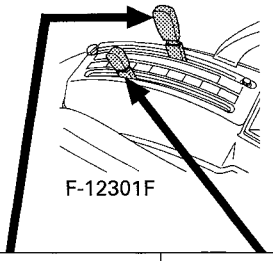
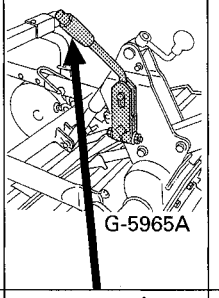
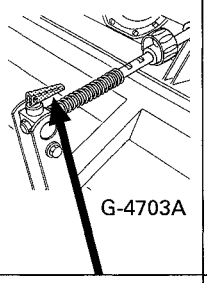


メータパネル用ランプ ——— 14

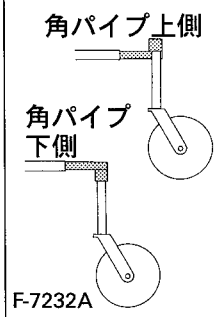
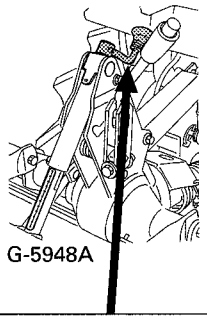
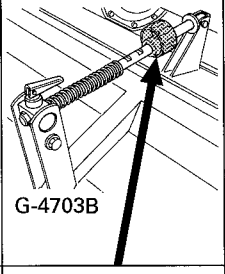
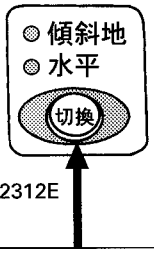
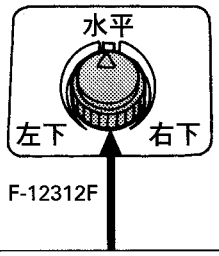
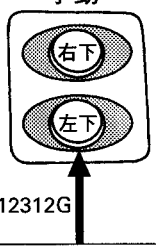


図番	品名		品番	図番	品名	品番
1	エレメントアッシ		6A100-8263-0	8	ヒューズ10A	36730-7555-0
2	エレメント(インナー)		32721-5824-2	9	ヒューズ20A	36919-5665-0
3	フィルタ, アッシ(フューエル)		6A320-5886-0	10	ヒューズ15A	35820-7556-0
4	フィルタ		6A320-5993-0	11	スローブローヒューズ	17478-6008-0
5	油圧オイルフィルタカートリッジ	ギヤ仕様	6A600-3901-0	12	デンキュウ	31391-3436-0
		F仕様	67955-3771-0	13	デンキュウ	37410-5272-0
6	油圧ミッションオイルフィルタカートリッジ【グライドシフト(F)仕様】		66021-3606-0	14	ランプ(12V, 1.7W)	6C040-5514-0
7	フィルタ, アッシ(オイル, カートリッジ)		16271-3209-2			

作業ごとの一般的な調整要領

作業内容			油圧レバー	オート耕深レバー	ニューフラップカバー〔サイドドライブ〕	オートハンガ
						
ポジションコントロール	浅耕こし（5～8cm）		希望耕深になるよう調整（後２輪付の場合は最下げ位置）	オート「切」位置	浅耕こし	フリー
	一般耕うん（8～15cm）				耕うん培土	
	深耕こし（15cm以上）					
	代かき	一般ほ場			代かき	
		湿田ほ場				
	うね立て				耕うん培土	カバーを上げ固定 Vカバー仕様はフリー
メカオート（MA仕様）	浅耕こし（5～8cm）		最下げ位置	希望耕深になるよう調整	浅耕こし	フリー
	一般耕うん（8～15cm）				耕うん培土	
	深耕こし（15cm以上）					
	代かき	一般ほ場			代かき	
		湿田ほ場				
モンローマチックオート（MA仕様）	水田の耕うん		—	—	—	—
	畑の耕うん					
	プラウ作業　等					

※主な作業ごとの一般的な調整要領を記載しています。
　土質など作業条件に合せて適宜調整してください。

						
	後2輪ホルダの上下位置 (後２輪付の場合)	後２輪ハンドル (後２輪付の場合)	スプリングロック	水平切換 スイッチ	角度調節 ダイヤル	手動スイッチ
	角パイプ上側 (後2輪が上がる側)	希望耕深に なるよう調整 なおポジション レバーは最下げ 位置	希望の接地圧に なるよう調整 〔スプリングロックのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平・整地に効果があります。〕	—	—	—
	角パイプ下側 (後2輪が下がる側)					
	角パイプ上側 (後2輪が上がる側)		最前位置			
	後２輪を外す	—	希望の接地圧に なるよう調整 〔スプリングロックのセット位置を後方に下げ，押付け力を強くすると，均平・整地に効果があります。〕	—	—	—
	—	—	—	水平	希望の角度に なるよう調整	一時的に 角度を調整
				水平		
				傾斜地	—	希望の角度に なるよう調整
				切	—	

農用トラクター（乗用型）用安全キャブ及び安全フレーム検査成績表

型式名：クボタ　SF－GB160

合格番号：２００１２

種　　類：安全フレーム（２柱式）

依頼者名：株式会社　クボタ
住　　所：大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号

Ⅰ　装着可能トラクター

1．型　式　名

クボタ　GB200F　　クボタ　GB200　　クボタ　GB180F　　クボタ　GB180
クボタ　GB160F　　クボタ　GB160

2．主要諸元（最大トラクター）

■ 型　　式　　名　　：　クボタ　GB200F
■ 種　　類　　：　４輪駆動
■ 質　量（フレーム付き）　kg　：　729
■ 軸　　距　　mm　：　1350
■ 機関出力／回転速度　kW{PS}/rpm　：　14.7{20}/2600

Ⅱ　構造の概要

1．構造及び装着法

供試フレームは，鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の２柱式であり，防振ゴム・取付金具を介して油圧シリンダケース部及び下部リンク取付ステー部にボルトで装着。

なお，格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2．主な装備

シートベルト（２点式）

3．主要寸法　※

■ 座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ		：	88.5 cm
■ フートプレートから屋根部材（下面）までの高さ		：	129.5 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅		：	67.5 cm
■ ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅		：	— cm
■ 戸口の幅	（上部）	：	— cm
	（中部）	：	— cm
	（下部）	：	— cm
■ 戸口の高さ	（フートプレートから）	：	— cm
■ 最低位ステップの高さ		：	35.5 cm
■ フレーム装着時のトラクターの全高	（屋根部材上面まで）	：	188.5 cm
■ フレームの全幅	（フェンダーを含む）	：	93.0 cm
■ 座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離		：	23.5 cm

※1．クボタ　GB200F（タイヤサイズ　前輪6.00-12　後輪9.5-20）に装着時。
2．トラクターシートの銘柄型式　：　テイ・エス　テック、6A100-45701

4．主要材料

■ 主　フ　レ　ー　ム　：　STKR 400, SS 400, SPHC, SPCE
■ 装着ブラケット　：　SS 400, STK 400, SPHC
■ 組立・装着ボルト　：　S40～S45C

Ⅲ　検査成績

1．強度試験

1）水平負荷試験は，フレームの後部左側，側部右側に対して実施。

■ 基　準　質　量　：　730 kg
■ 所要吸収エネルギー　：　後部負荷　1.18 kJ {120 kgf·m}
　　側部負荷　2.13 kJ {218 kgf·m}
■ 圧　　壊　　力　：　10.74 kN {1095 kgf}

2）試験後のフレームの永久変位

■ 後　部（前方へ）　：　右側　10.0 cm　左側　12.5 cm
■ 側　部（右側方へ）　：　-12.0 cm
■ 上　部（下方へ）　：　右側　1.0 cm　左側　2.0 cm

3）側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差　：　9.0 cm

2．騒　　音　※

■ 90 dB(A)　[クボタ　GB200F]

※ 7.5km/hに近い速度段で，けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ　付　記

強度試験はコードⅢにより実施した。

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点はまず，購入先へ　ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名　　担当　　電話（　　）　　—		
ご購入日	型式名	区分
車台番号(製造番号)	エンジン型式　　エンジン番号	

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目1番1号
機械東日本事務所：電(048)862-1121　〒338-0832　さいたま市西堀5丁目2番36号
機械西日本事務所：電(072)241-8506　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092　〒590-0823　堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121　〒063-0061　札幌市西区西町北16丁目1番1号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162　〒981-1221　名取市田高字原182番地の1
東京営業技術推進部：電(048)862-1588　〒338-0832　さいたま市西堀5丁目2番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263　〒950-0992　新潟市上所上1丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121　〒924-0038　松任市下柏野町956-1
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111　〒491-0031　一宮市観音町1番地の1
大阪営業技術推進部：電(072)241-8551　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011　〒683-0804　米子市米原7丁目1番1号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511　〒703-8216　岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181　〒861-4147　熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601　〒011-0901　秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124　〒338-0832　さいたま市西堀5丁目2番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(072)241-8550　〒590-0806　堺市緑ヶ丘北町1丁1番36号
中四国系統推進部：電(087)874-5091　〒769-0102　香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3166　〒811-0213　福岡市東区和白丘1丁目7番3号

GB160/180/200
AH．G．9-10．20．AK

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者
が一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

本　社　　大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号　　〒556-8601

品番　6A600-6251-5

Kubota